

Ⅱ. 評定尺度調査の分析結果

【評定尺度調査の分析にあたって】

今回用いた評定尺度は、「あてはまる」「ややあてはまる」「あまりあてはまらない」「あてはまらない」による4段階評価である。

本報告書においては、データの理解や分析のしやすさを考慮し、便宜的に4段階のカテゴリーに4～1の点数を振り、その平均値を算出することによって、データの代表値とした。

ただし評定尺度の各カテゴリーに振られた「数字」を「数値」として加減乗除の演算をすることは、厳密に言えば統計処理として適切でない。

3が2よりもあてはまる程度が大きいことは言えても、4と3の間と3と2の間が等距離（つまり1の間隔）だという保証はどこにもないからである。

しかし4つのカテゴリーごとの相対度数（パーセント）から何らかの傾向を掴み取るとは容易ではないため、平均値を回答の傾向を推察する目安の1つとして用いたい。

また、ここでの平均値は何らかの単位を持つものではないので、データ同士の相対比較でのみ、その傾向を読み取ることになる。仮にある項目の平均値が、他の項目より低かったとしても、大部分の回答者がその項目に対して肯定的な評価をしていれば、その項目の評価は低いと簡単に断言できるものではないからである。つまり絶対的な評価が把握しにくいと言える。そこで、「あてはまる」もしくは「ややあてはまる」と回答した対象者の割合を合計して提示した。

これによって、その評価項目に対し肯定的評価をしている学生がいかなどの割合で存在するかを推測する目安とする。

さらに回答者の属性ごとの回答者数について、本来ならば、グラフ等のデータごとに回答者数を示すべきであるが、全てのデータに回答者数を掲載すると極めて煩雑になるため、ここに一括して掲載することにした（次頁表2-1）。

以下、本章においては、常に次頁の回答者数に基づいてデータを見る必要がある。特に回答者数の少ない層ほど誤差が大きくなり、%表記がそぐわないため、いずれも参考値としてグラフに記載しているが、コメントを割愛する事にする。

例えば、大学院では職業別の「家事専業」（7人）「他大学等の学生」（4人）、「農業等」（2人）が挙げられる。

表 2-1 回答者数一覧

【学部】

| 全体 | 5,108 | (単位:人) | |
|-----------|-------|-----------|-------|
| メディア | | 年齢階層 | |
| テレビ科目(TV) | 3,222 | 19歳以下 | 153 |
| ラジオ科目(R) | 1,886 | 20～29歳 | 544 |
| 職業 | | 30～39歳 | 576 |
| 公務員等 | 355 | 40～49歳 | 1,025 |
| 教員 | 526 | 50～59歳 | 1,385 |
| 会社員 | 1,005 | 60～69歳 | 956 |
| 個人営業・自営業 | 299 | 70歳以上 | 469 |
| 農業等 | 21 | コース | |
| 看護師等 | 665 | 基盤科目 | 743 |
| 家事専業 | 246 | 基盤科目(外国語) | 694 |
| パート・アルバイト | 816 | 生活と福祉 | 1,133 |
| 他大学等の学生 | 30 | 心理と教育 | 824 |
| 無職 | 853 | 社会と産業 | 568 |
| その他 | 292 | 人間と文化 | 423 |
| | | 情報 | 324 |
| | | 自然と環境 | 208 |
| | | 看護師資格取得 | 191 |

【大学院】

| 全体 | 250 | (単位:人) | |
|-----------|-----|--------|-----|
| メディア | | 年齢階層 | |
| テレビ科目(TV) | 0 | 20～29歳 | 10 |
| ラジオ科目(R) | 250 | 30～39歳 | 19 |
| 職業 | | 40～49歳 | 51 |
| 公務員等 | 41 | 50～59歳 | 80 |
| 教員 | 46 | 60～69歳 | 63 |
| 会社員 | 45 | 70歳以上 | 27 |
| 個人営業・自営業 | 10 | プログラム | |
| 農業等 | 2 | 生活健康科学 | 56 |
| 看護師等 | 19 | 人間発達科学 | 116 |
| 家事専業 | 7 | 臨床心理学 | 43 |
| パート・アルバイト | 33 | 情報学 | 35 |
| 他大学等の学生 | 4 | | |
| 無職 | 30 | | |
| その他 | 13 | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |

Ⅱ－1. 学部の分析結果

Ⅱ－1－1. 項目平均から見た全体的傾向

ここからは、A-1～B-21 の評価項目（14～16 頁の提供資料サンプルを参照）ごとに、平均値と肯定的評価のグラフを基に、そのデータから目立つ点や、特徴的傾向を記述していくことにする。

平均値は、評価項目の選択肢である「あてはまる」「ややあてはまる」「あまりあてはまらない」「あてはまらない」に対して順に 4 点、3 点、2 点、1 点の得点を与え、その得点合計を回答者数で割った値である。全員が「あてはまる」とした場合、平均値は 4.00 で最も高くなり、全員が「あてはまらない」とすると最低の 1.00 となる。

また、肯定的評価は文字通り「あてはまる」と「ややあてはまる」の比率の合計である。平均値より肯定的な評価の方が（例えば回答者の 80% と）イメージしやすく、平均値と肯定的評価に齟齬が出た場合、どちらを採るか合理的な判断ができないので、記述については肯定的評価を用いて、平均値は参考値として扱っていきたい。

図 2－1 の肯定的評価では各項目とも 80% 以上で、『通信指導・単位認定試験』『全体評価』が 90% と最も高く、一方で『放送授業』が 84% で最も低い評価となった。

図 2－1 【学部】項目平均による全体的傾向

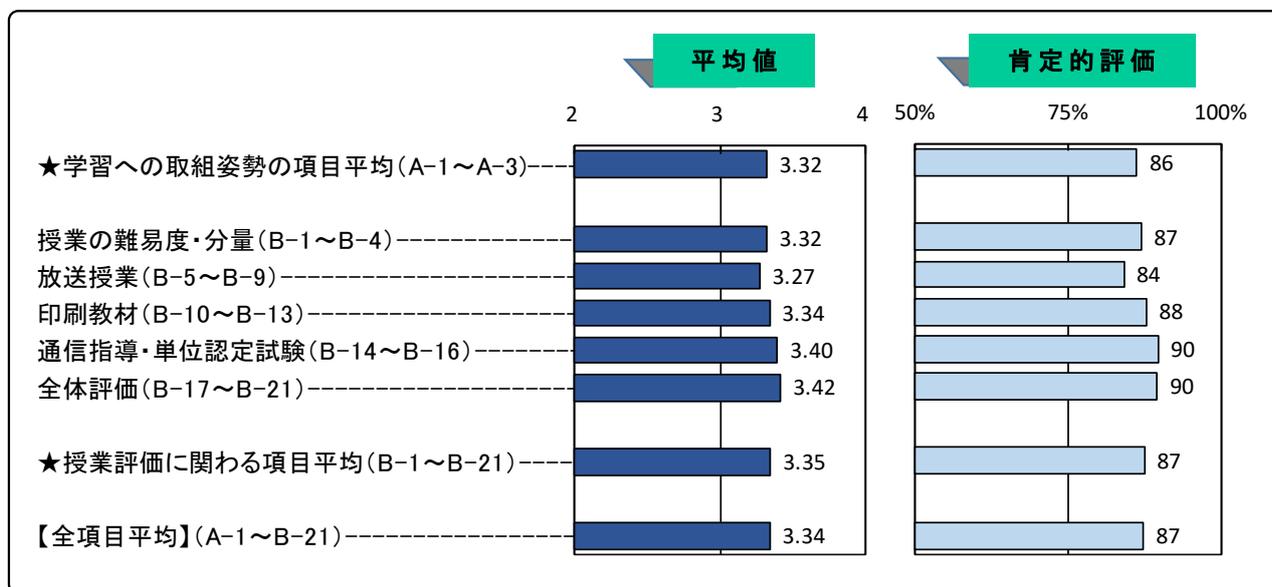
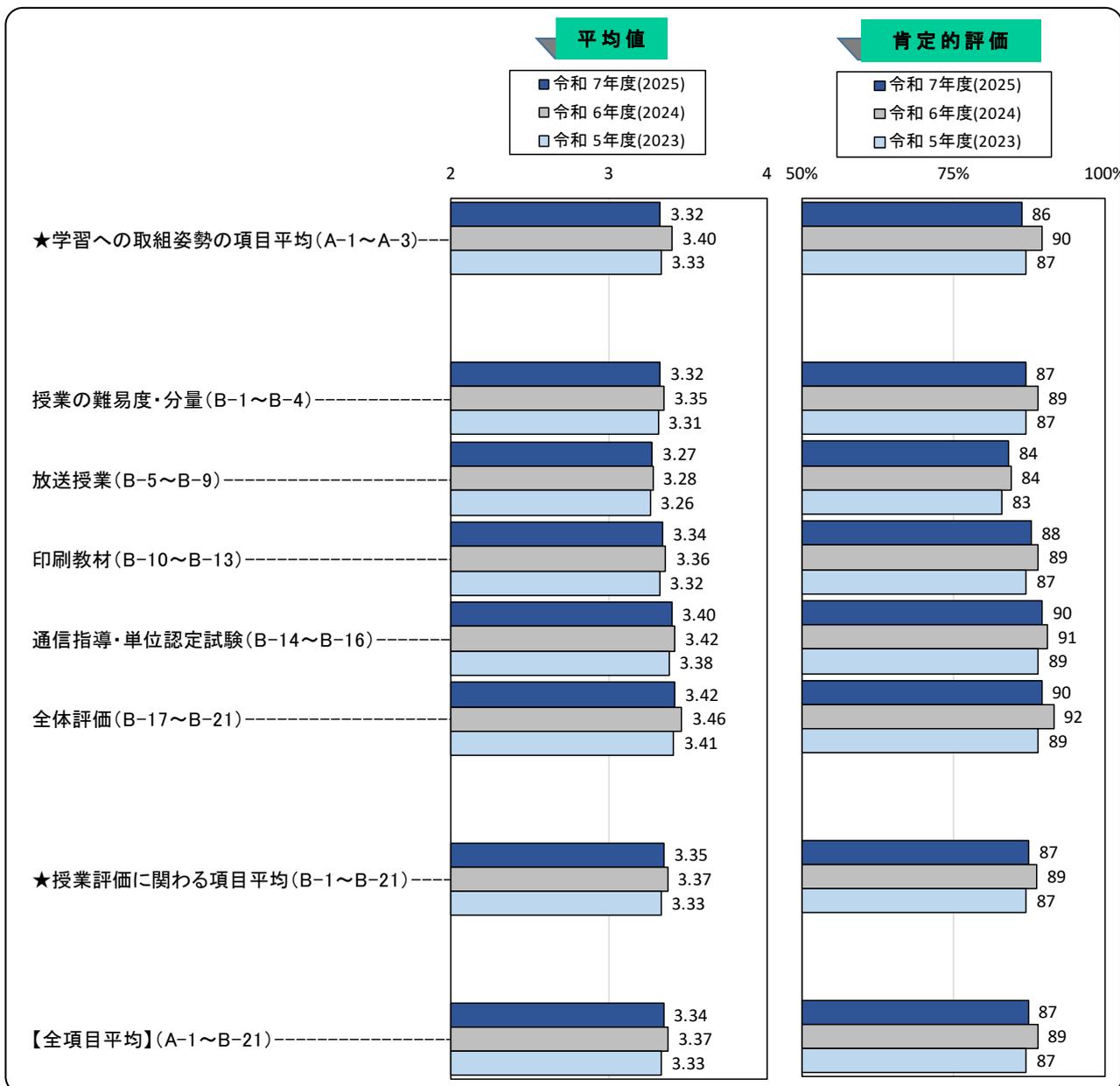


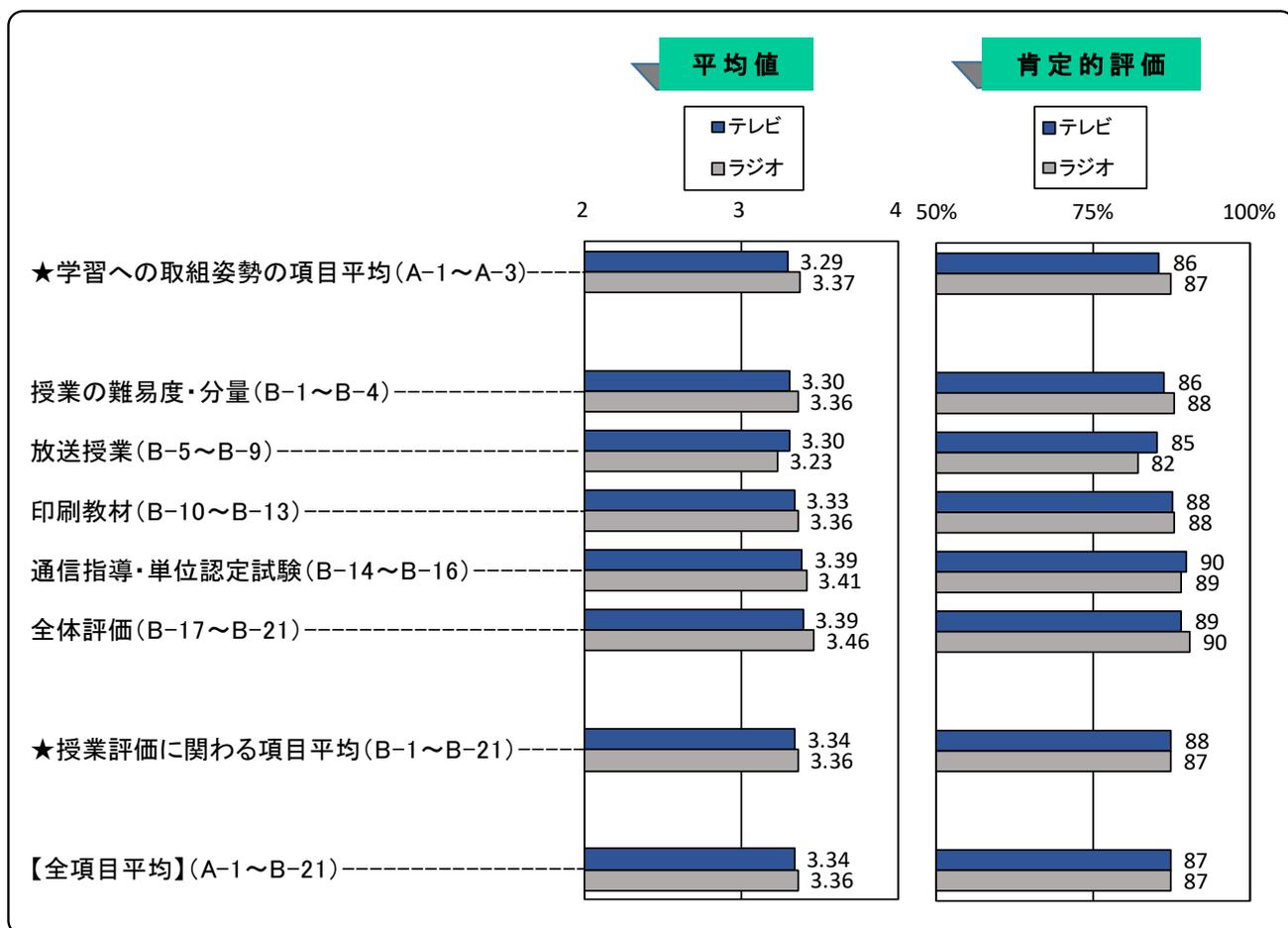
図2-2の項目平均による全体的傾向では、本年度は『放送授業』が横ばいとなった以外は、昨年度より1~4ポイント減少した。

図2-2【学部】項目平均による全体的傾向（開設年度比較）



メディア別では（図2-3）、テレビ科目とラジオ科目のメディア間では、『授業の難易度・分量』ではラジオが2ポイント、『全体評価』では1ポイント上回っていた。一方で、『放送授業』についてはテレビが3ポイント、『通信指導・単位認定試験』においては1ポイント高くなっていた。

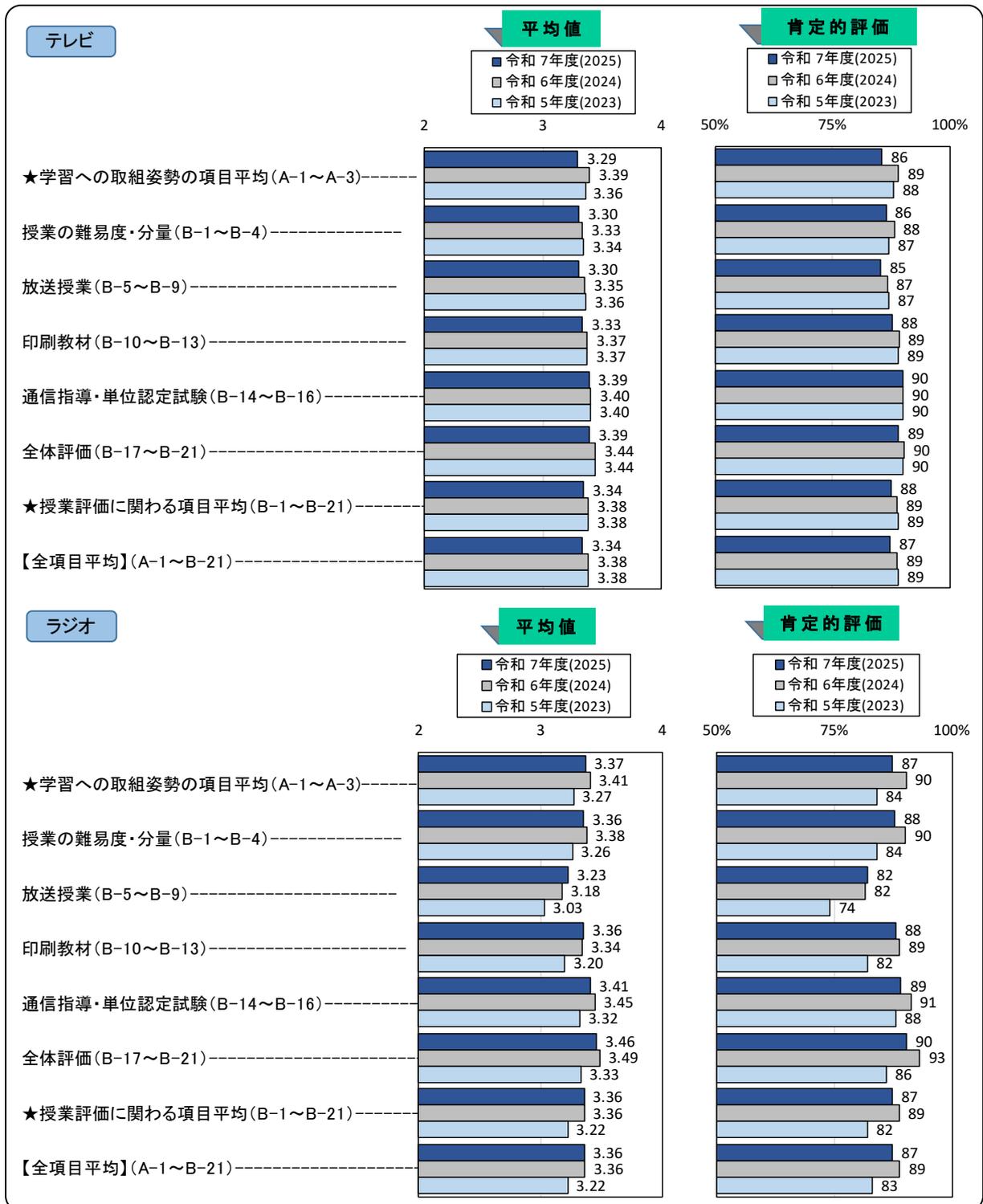
図2-3 【学部】項目平均によるメディア別全体的傾向



メディア別の項目平均を時系列で比較してみると（図2-4）、テレビ科目では、『通信指導・単位認定試験』が横ばいとなった以外は、全項目で昨年度を下回った。

併せてラジオ科目でも、『放送授業』を除く全項目で評価が昨年度を下回っており、中でも『★学習への取組姿勢の項目平均』『全体評価』は3ポイント減となった。

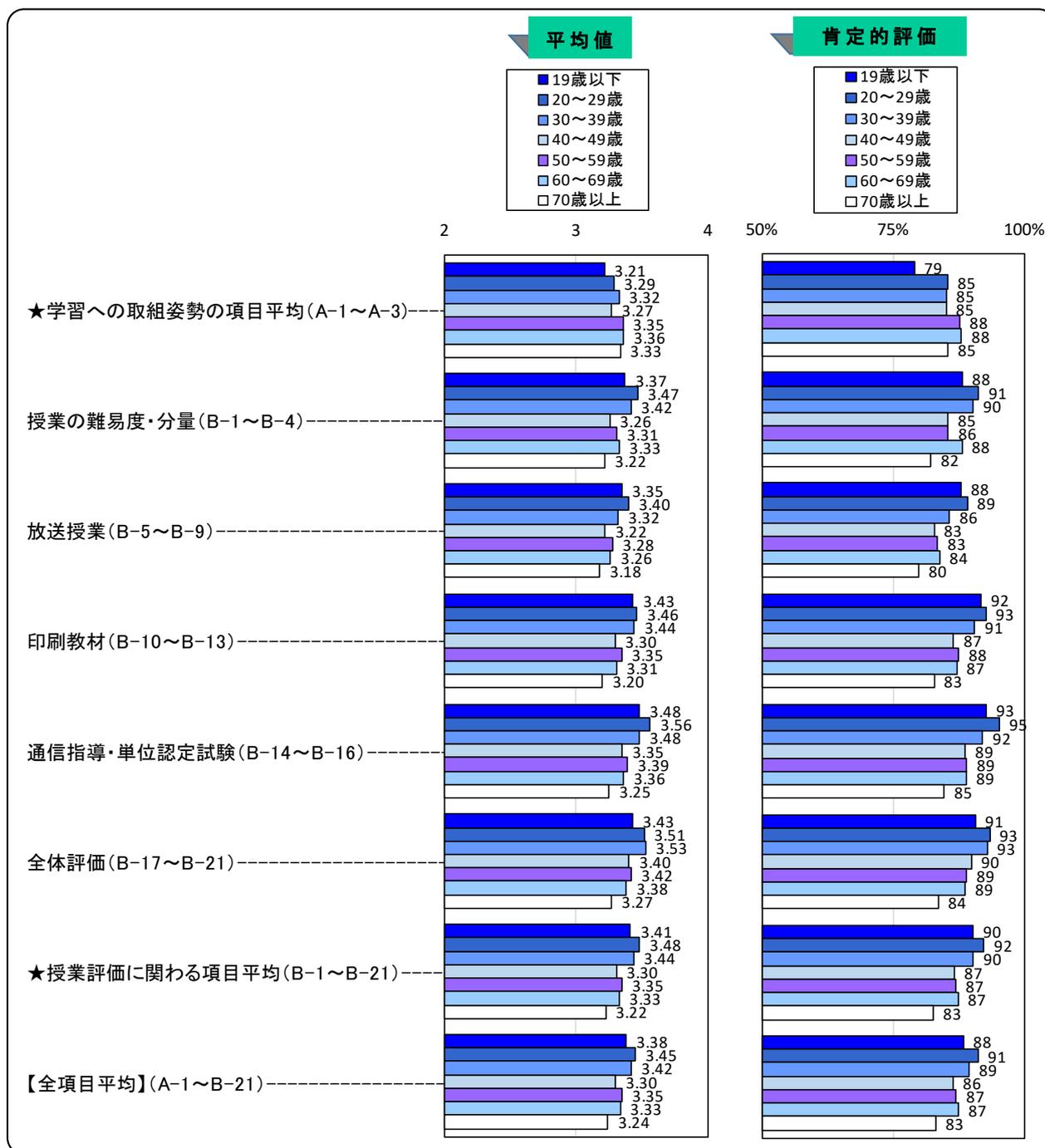
図2-4 【学部】項目平均によるメディア別全体的傾向（開設年度比較）



年齢階層別（図2-5）では、『★学習への取組姿勢の項目平均』以外は20歳代の評価が最も高かった。

一方で70歳以上は総じて評価が低く、特に『放送授業』の評価が80%と最も低かった。

図2-5【学部】項目平均による年齢階層別全体的傾向

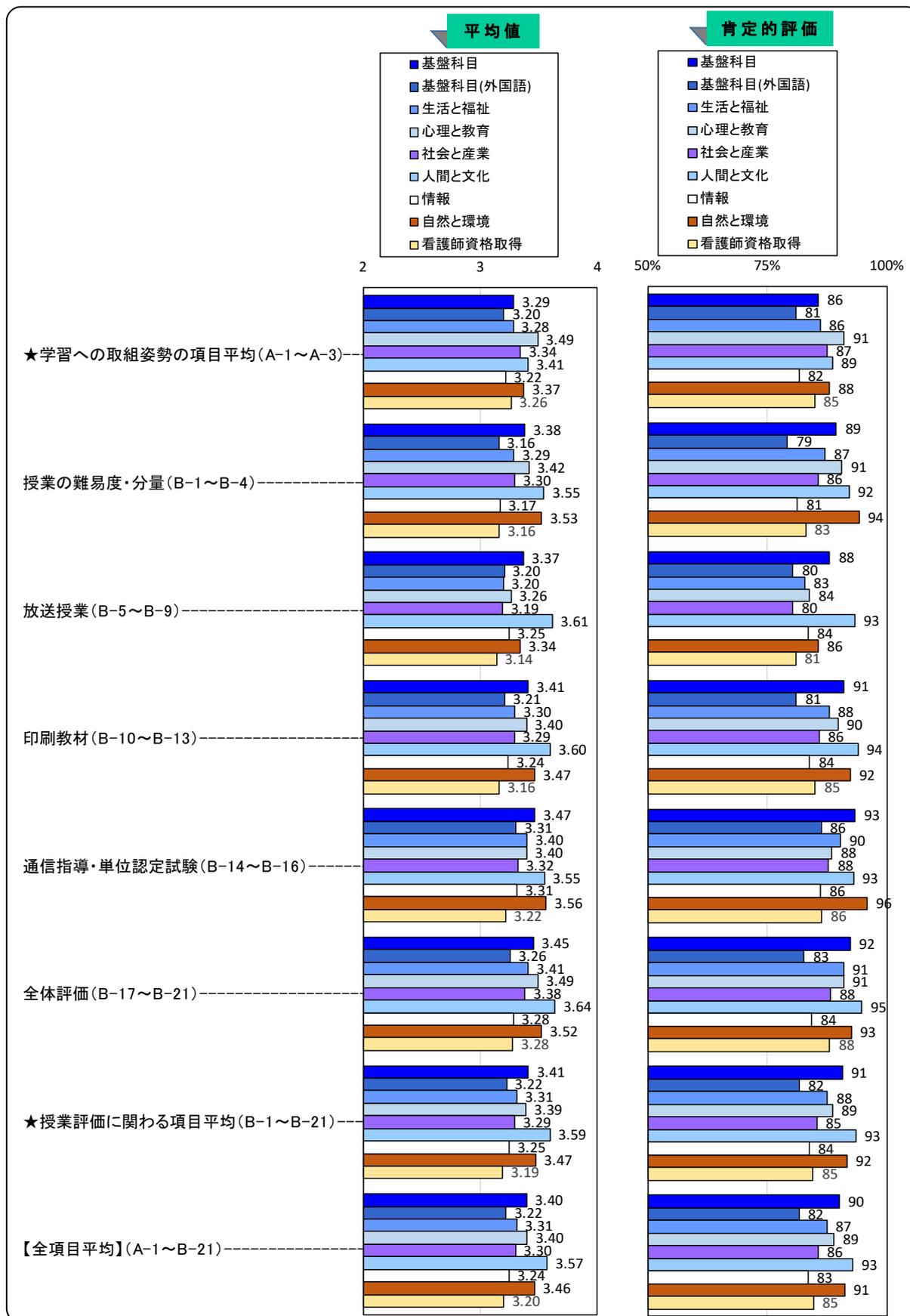


所属コース別に項目平均を見ると（次頁図 2 - 6）、『★学習への取組姿勢の項目平均』では「心理と教育」、『授業の難易度・分量』『通信指導・単位認定試験』では「自然と環境」、その他の項目では「人間と文化」の肯定的評価が最も高かった。

逆に「基盤科目(外国語)」は全項目で他の所属コースより低く、最も評価の低い『授業の難易度・分量』では 79%と、最も評価の高かった「自然と環境」(94%) とは大きな差が見られた。

結果、『授業評価に関わる項目平均』と『全項目平均』において、「人間と文化」の肯定的評価が最も高く、「基盤科目(外国語)」が最も低かった。

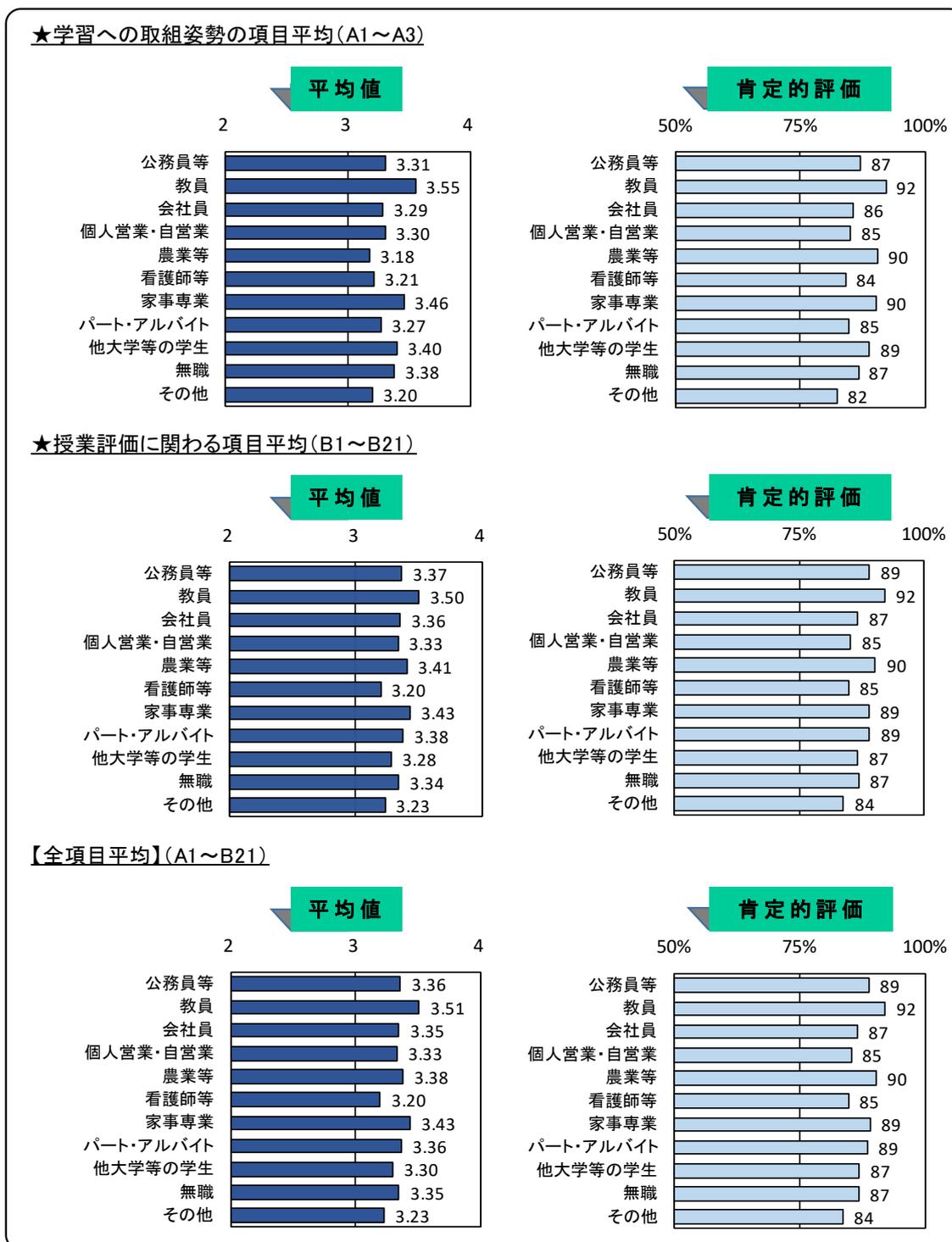
図2-6 【学部】 項目平均による所属コース別全体的傾向



職業別（図2-7）の肯定的評価は、全項目で「教員」が92%と最も多く、続いて「農業等」が90%で続いた。

一方で「その他」は全ての項目で最も評価が低く、「教員」と比較して8~10ポイント低かった。他に「看護師等」も『学習への取組姿勢の項目平均』の84%を始め、評価が低かった。

図2-7【学部】項目平均による職業別全体的傾向



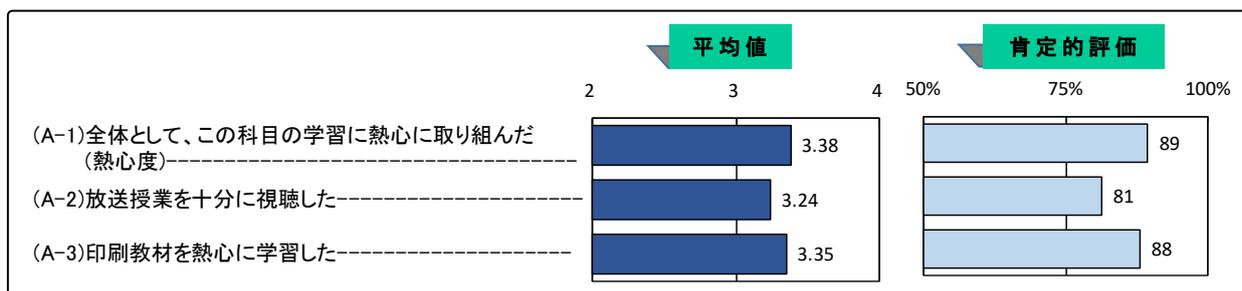
Ⅱ-1-2. 学習への取組み姿勢

ここからはそれぞれの評価項目ごとに調査結果を見ていく。

全回答者の学習への取組み姿勢（図2-8）は、(A-1)「全体としてこの科目の学習に熱心に取り組んだ」が89%と高かった。

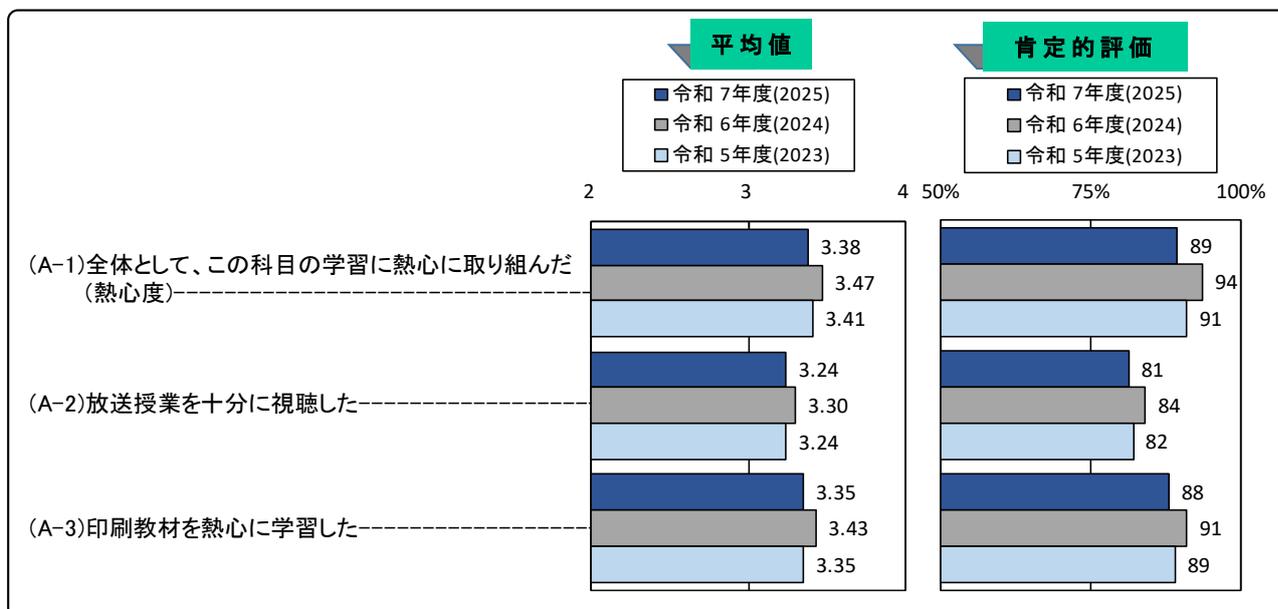
一方で(A-2)「放送授業を十分に視聴した」は81%と、他の2項目に比べ低く、印刷教材での学習のウエイトの方が高かった。

図2-8 【学部】回答者全体の取組み姿勢



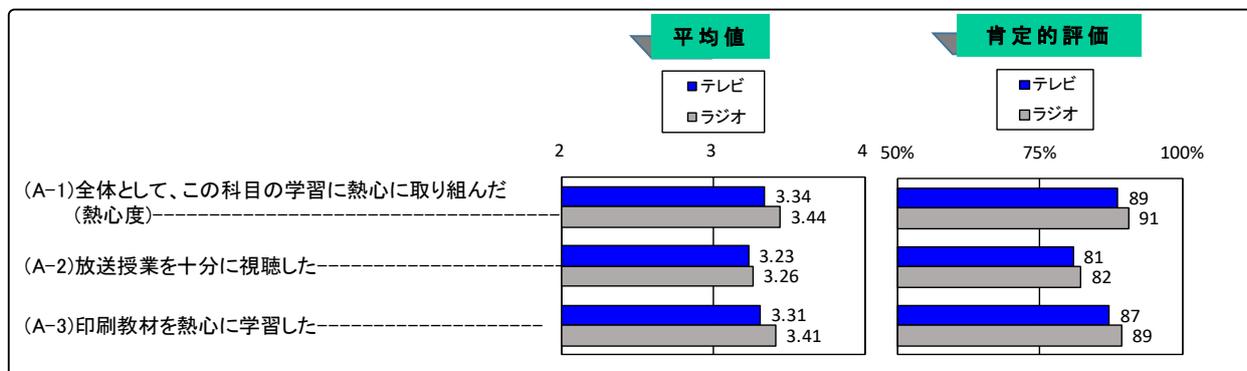
取組み姿勢を時系列で見ると（図2-9）、全ての項目で本年度の結果が、昨年度を下回っていた。

図2-9 【学部】回答者全体の取組み姿勢（時系列）



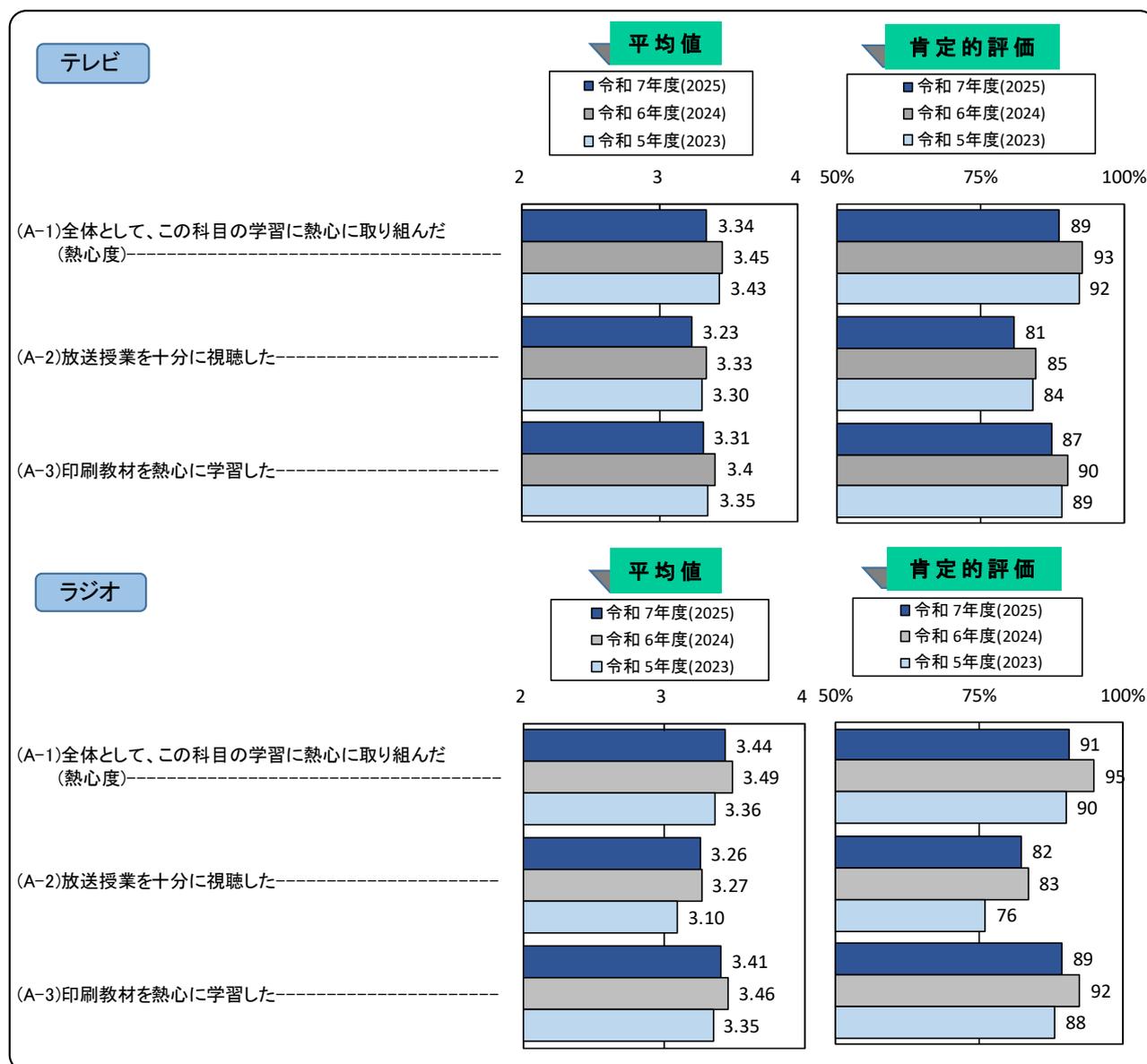
次にメディア別の取組姿勢では（図2-10）、テレビ科目とラジオ科目を比べると、ラジオ科目の方が全項目で1～2ポイント、テレビ科目を上回った。

図2-10【学部】メディア別の取組姿勢



メディア別の取組姿勢を時系列で見ると（図2-11）、テレビ科目、ラジオ科目ともに全項目で昨年度から1～4ポイント減少。特に（A-1）「全体としてこの科目の学習に熱心に取り組んだ」はラジオ・テレビ共に、4ポイントと減少幅が大きかった。

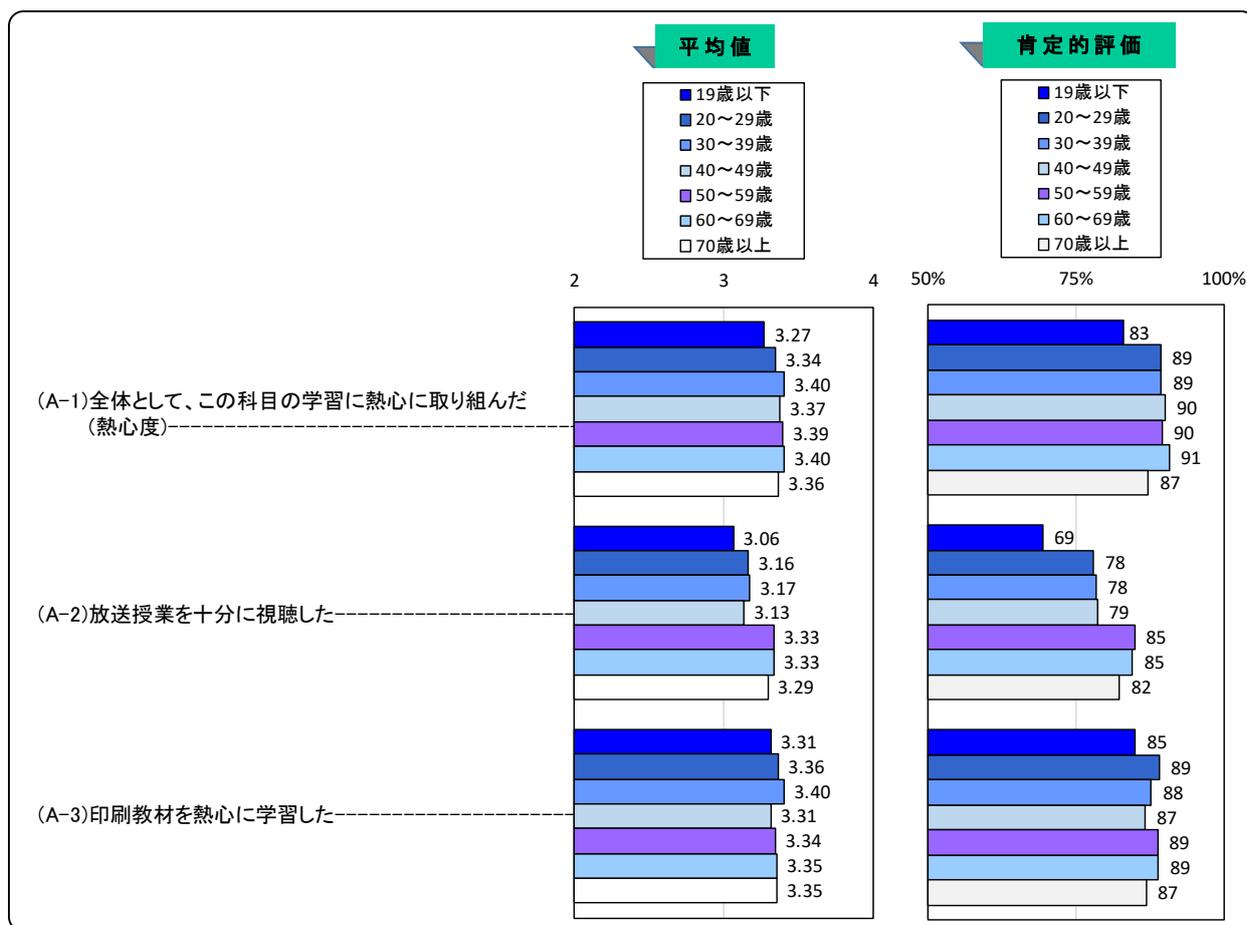
図2-11 【学部】メディア別の取組姿勢（時系列）



年齢階層別に取り組姿勢を見ると（図2-12）、全項目で19歳以下が最も低く、特に(A-2)「放送授業を十分に視聴した」では69%と、最も高かった50歳代・60歳代（85%）との差が大きかった。

一方で(A-3)「印刷教材を熱心に学習した」は、最も高かった20歳代、50歳代、60歳代が89%であったのに対して、最も低かった19歳以下も85%と世代間の差が小さかった。

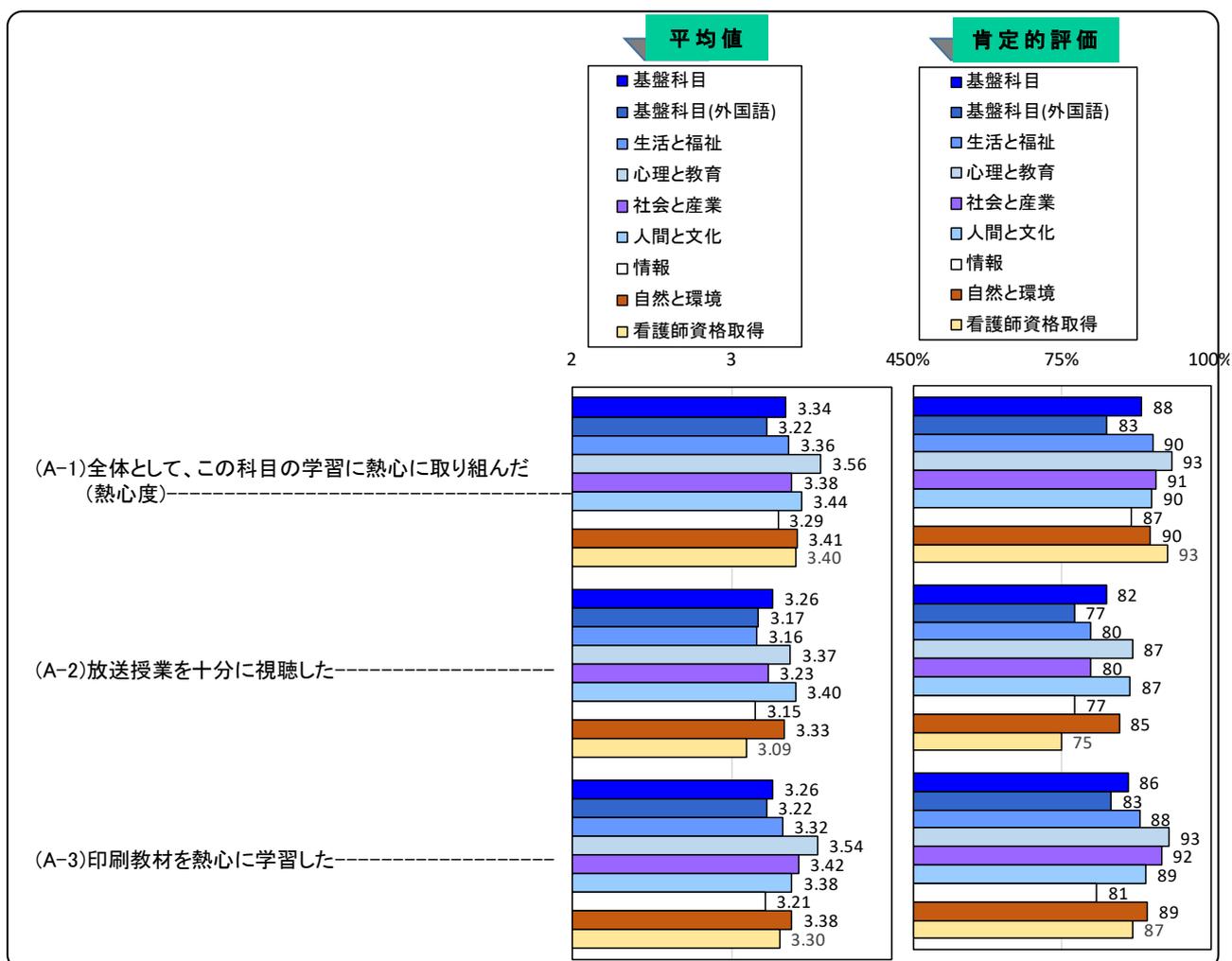
図2-12 【学部】年齢階層別に取り組姿勢



所属コース別に取り組姿勢を見ると（図2-13）、「心理と教育」は、全項目で最も高かった。（A-1）「全体としてこの科目の学習に熱心に取り組んだ」では「看護師資格取得」、（A-2）「放送授業を十分に視聴した」では「人間と文化」、（A-3）「印刷教材を熱心に学習した」では「社会と産業」が、同数もしくは僅差の次点となった。

一方で（A-2）「放送授業を十分に視聴した」は、「基盤科目（外国語）」「情報」「看護師資格取得」が70%台となるなど、放送授業よりも印刷教材の評価が高かった。

図2-13 【学部】所属コース別の取組姿勢



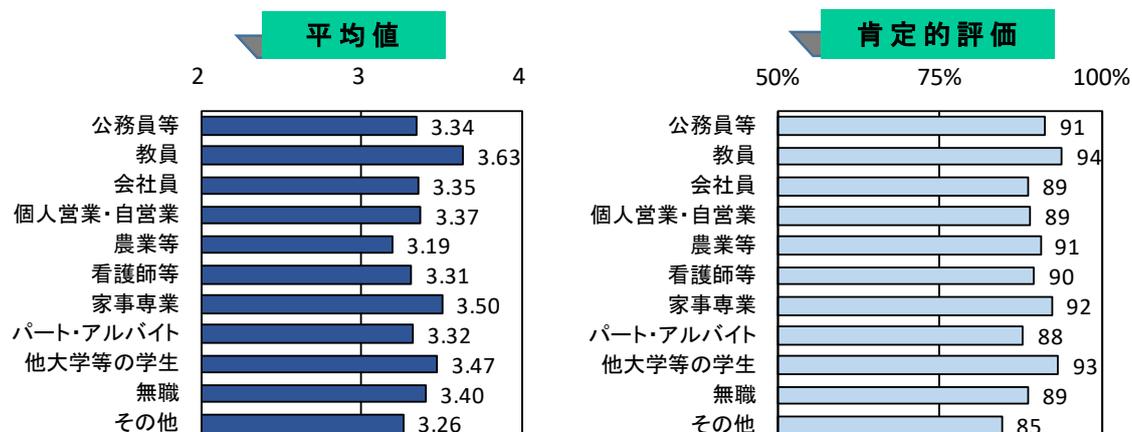
職業別に取組姿勢を見ると（次頁図2-14）、（A-1）「全体としてこの科目の学習に熱心に取り組んだ」は「教員」が94%と最も高かった。

（A-2）「放送授業を十分に視聴した」については、「看護師等」の76%を始めとして、（A-1）「全体としてこの科目の学習に熱心に取り組んだ」や（A-3）「印刷教材を熱心に学習した」と比較して全体的に評価が低かった。

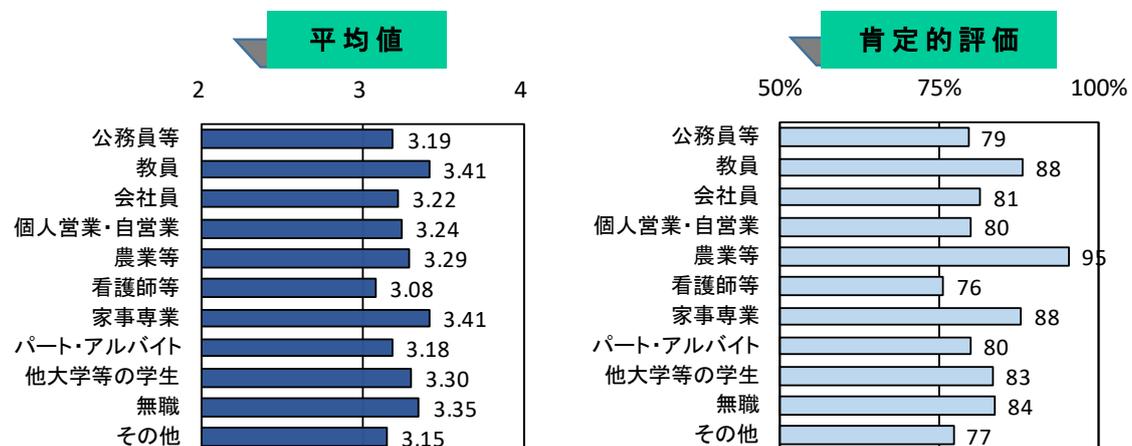
また、（A-3）「印刷教材を熱心に学習した」では「教員」が94%と最も高かった一方で、「その他」は（A-3）を含め全般的に評価が低かった。

図2-14【学部】職業別の取組姿勢

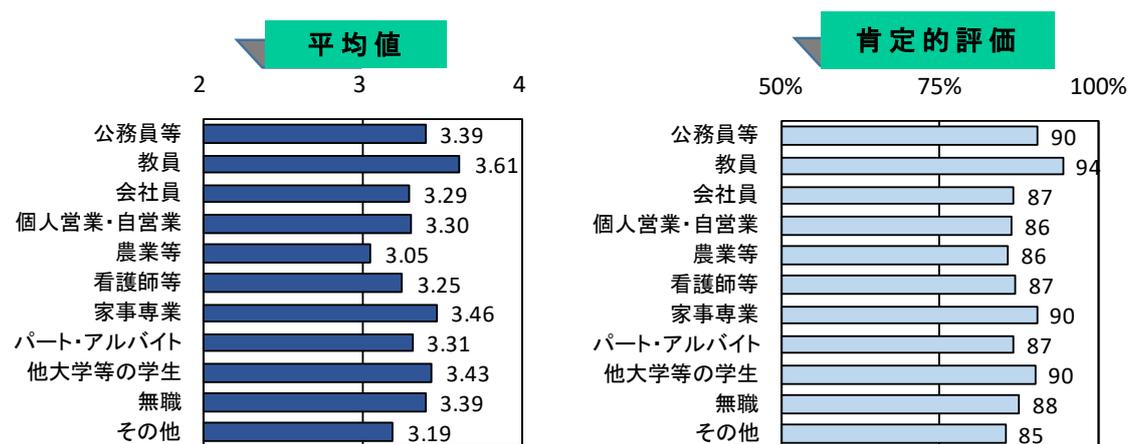
(A-1)全体として、この科目の学習に熱心に取り組んだ(熱心度)



(A-2)放送授業を十分に視聴した



(A-3)印刷教材を熱心に学習した



単位認定のための学習方法（次頁図 2 - 1 5）では、全体は「放送教材と印刷教材の両方の学習で臨んだ」が 70%で最多。一方で「ほとんど印刷教材の学習だけで臨んだ」が 21%、「ほとんど放送教材の学習だけで臨んだ」は 9%に過ぎず、「印刷教材の学習」で見ると、その利用は 9 割超となった。

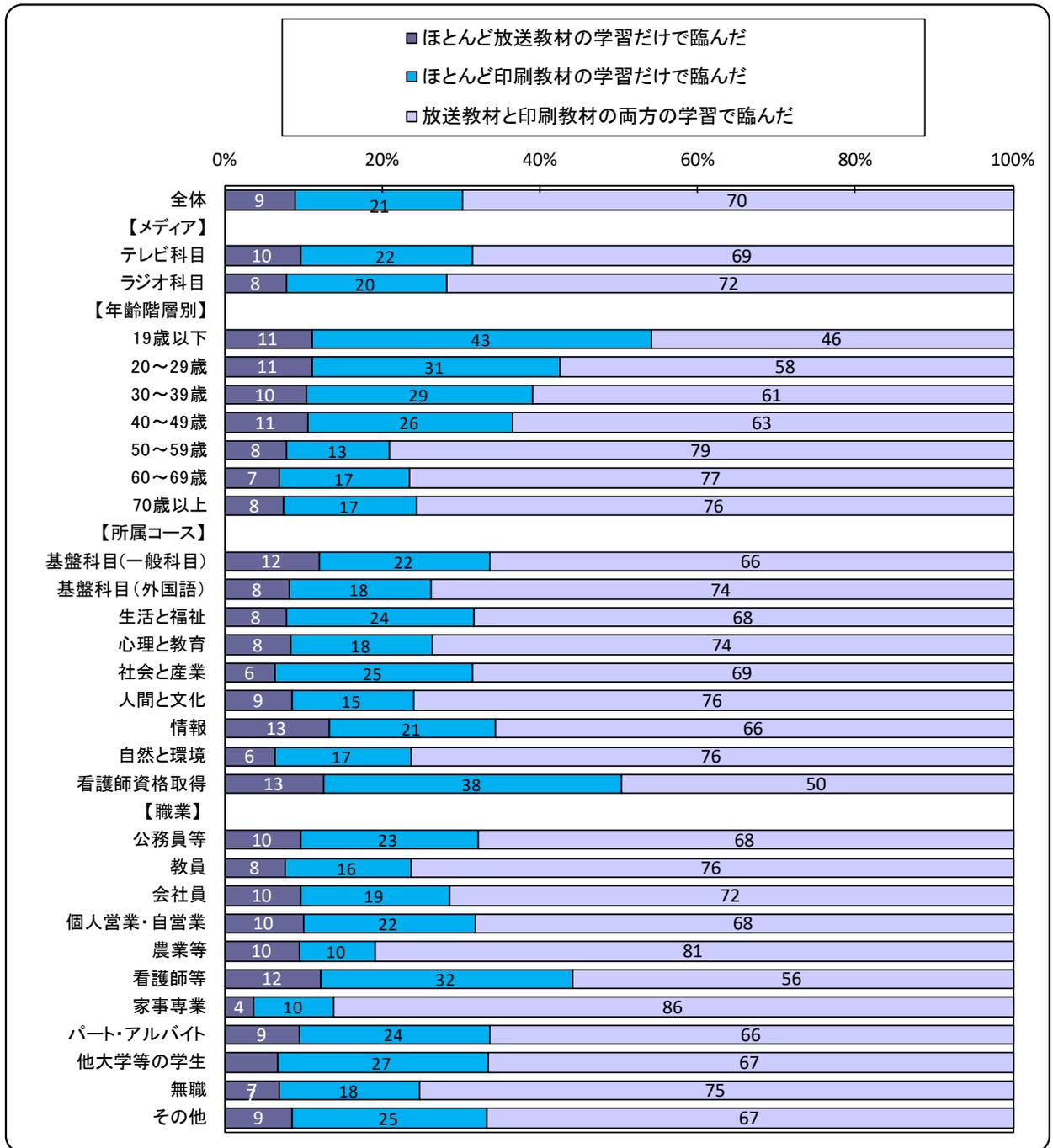
メディア別では「ラジオ科目」は「放送教材と印刷教材の両方の学習で臨んだ」が「テレビ科目」より多く、「テレビ科目」は「ほとんど放送教材の学習だけで臨んだ」が「ラジオ科目」より多かった。

年齢階層別では、若い世代ほど「ほとんど印刷教材の学習だけで臨んだ」の割合が高くなる傾向が見られた。

所属コース別では「看護師資格取得」は、「ほとんど印刷教材の学習だけで臨んだ」が他の所属コースと比べ高く、38%であった。

職業別では、「公務員等」「個人営業・自営業」「看護師等」「パート・アルバイト」「他大学等の学生」「その他」については、「ほとんど印刷教材の学習だけで臨んだ」がそれぞれ 20%以上と比較的高い割合となった。

図2-15 【学部】単位認定のための学習方法



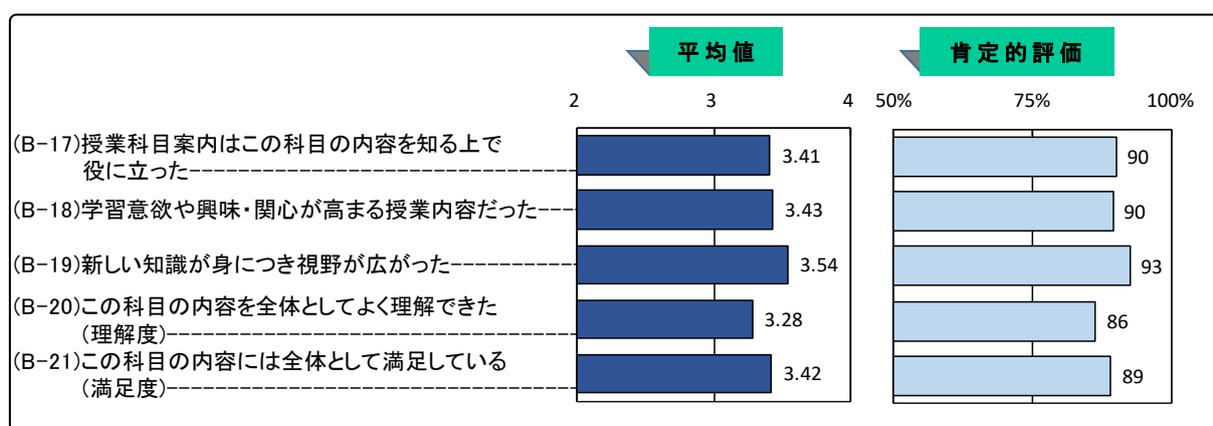
Ⅱ-1-3. 学部の授業評価

(1) 全体評価

次に学部の授業評価について、評価項目ごとに見ていく。

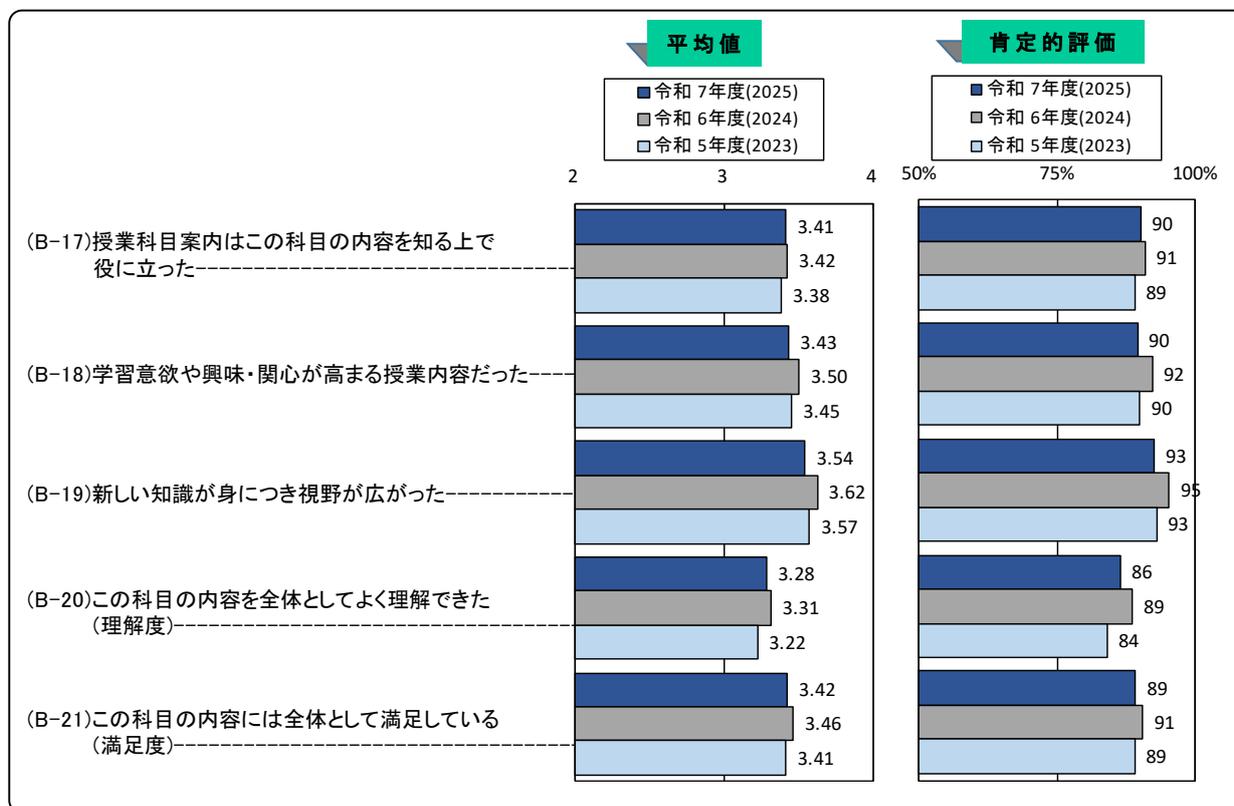
全体評価の各項目（図2-16）については、(B-19)「新しい知識が身につく視野が広がった」が93%と最も高かった。それ以外の項目については肯定的評価が86~90%であった。

図2-16 【学部】回答者全体の全体評価



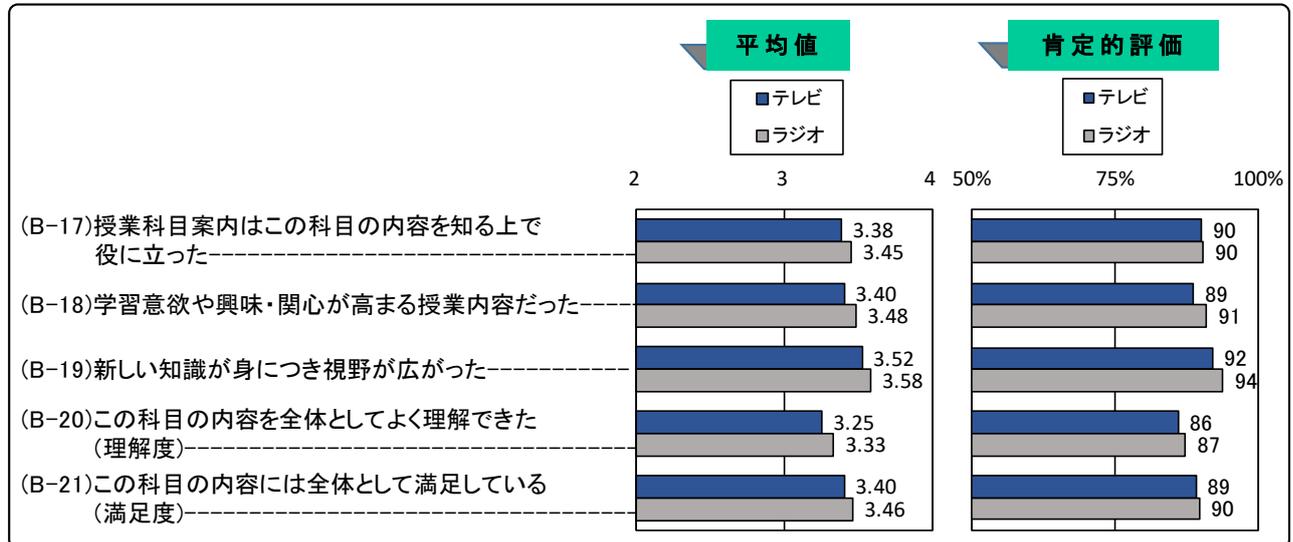
全体評価を時系列で見ると（図2-17）、本年度は全ての項目で、昨年度より横ばい
ないし評価を落としており、中でも(B-20)「この科目の内容を全体としてよく理解でき
た」は3ポイント減少した。

図2-17 【学部】回答者全体の全体評価（時系列）



メディア別に全体評価を見ると（図2-18）、下記全項目でラジオ科目の評価が横ばいないし高かった。

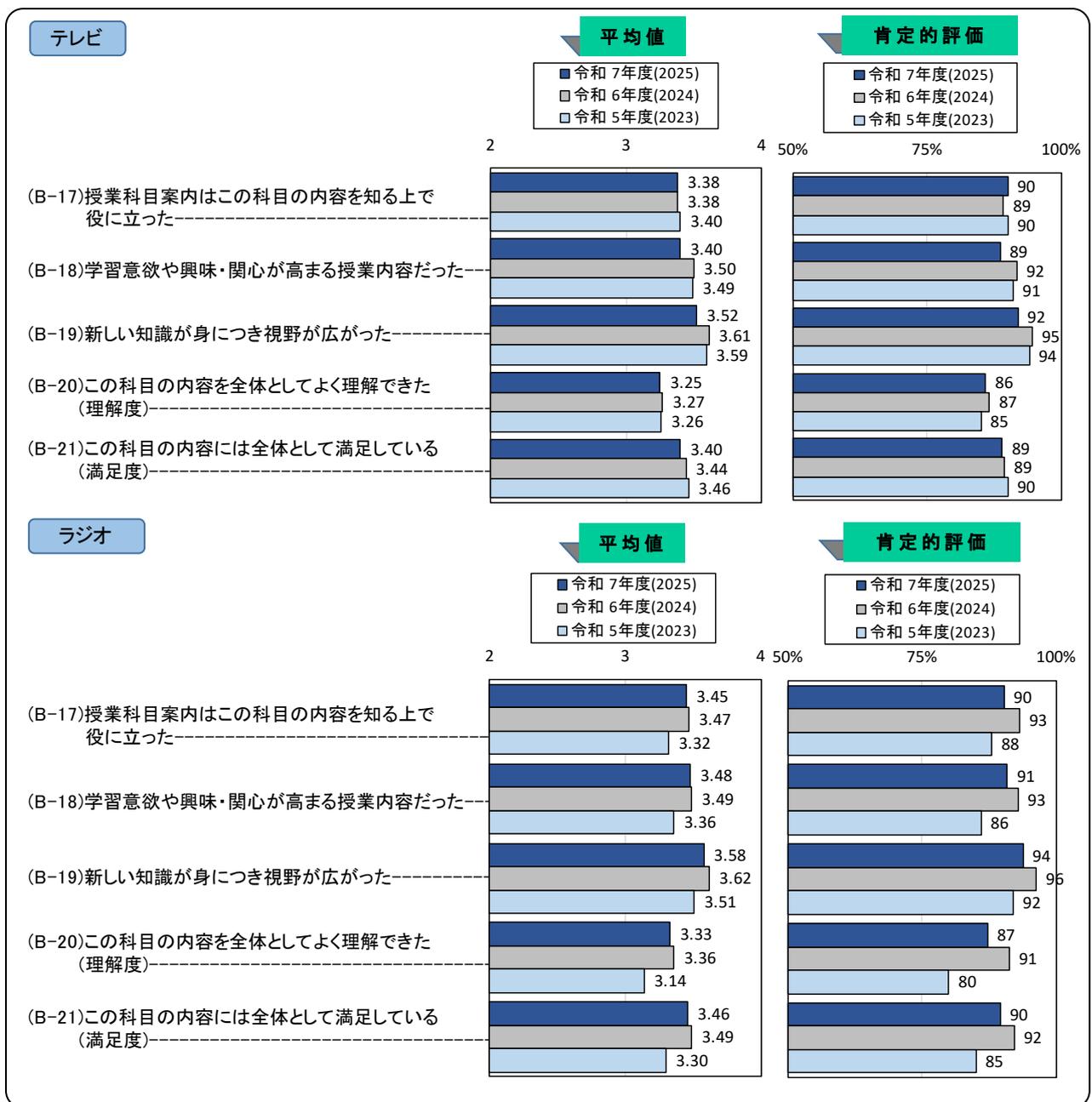
図2-18 【学部】メディア別の全体評価



メディア別の全体評価を時系列で見ると（図2-19）、ラジオ科目の評価は、下記全ての項目において、昨年度から評価が低くなっており、中でも(B-20)「この科目の内容を全体としてよく理解できた」は4ポイント減少した。

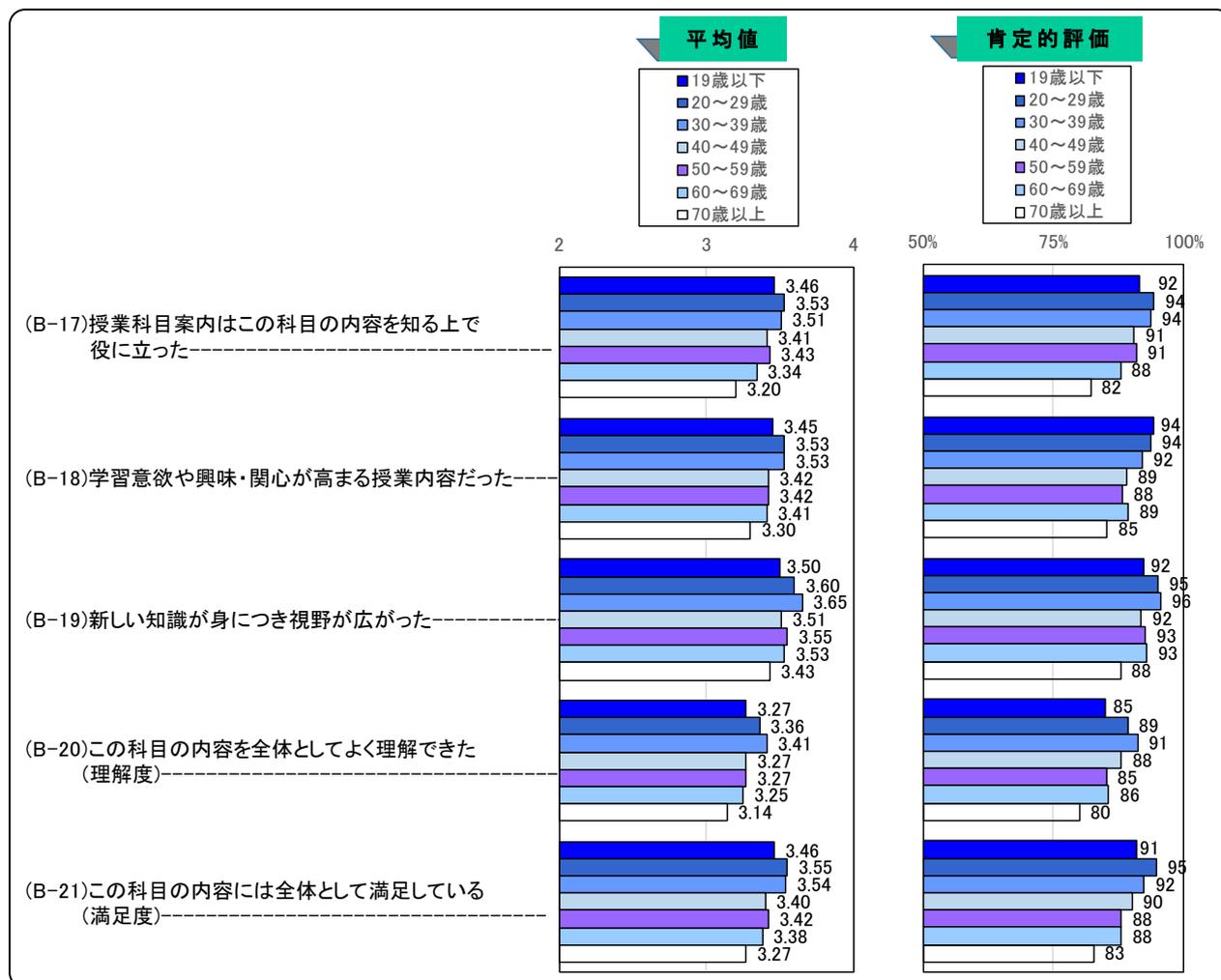
また、テレビ科目の評価については、(B-17)「授業科目案内はこの科目の内容を知る上で役に立った」が昨年度より1ポイント増加した以外は、(B-18)「学習意欲や興味・関心が高まる授業内容だった」、(B-19)「新しい知識が身につく視野が広がった」が3ポイント減少するなど、総じて評価が低くなった。

図2-19【学部】メディア別の全体評価



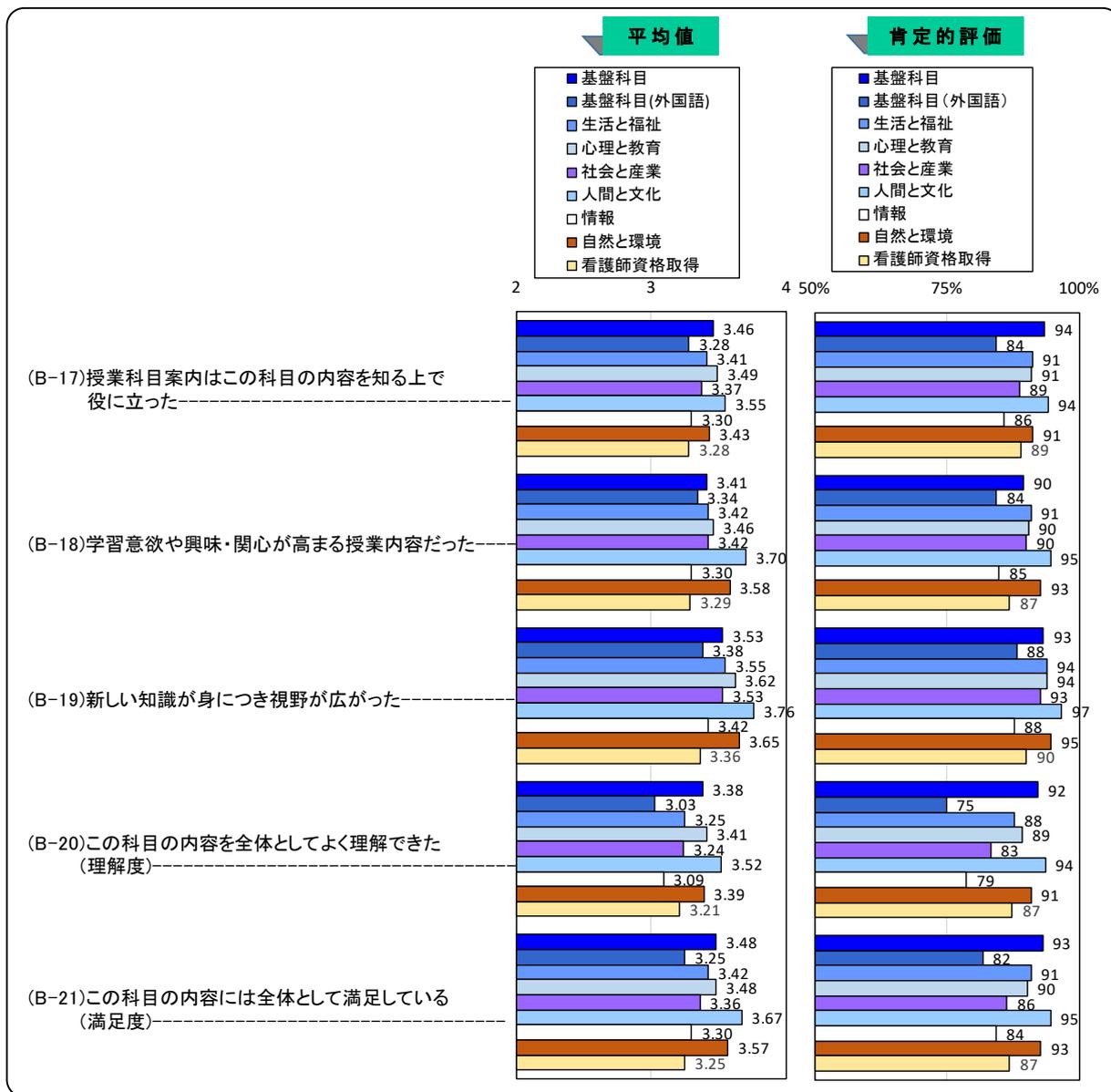
年齢階層別に全体評価（図2-20）を見ると、総じて若い世代（10歳代～30歳代）の評価が高かった。一方で他の年代と比べ評価が全般的に低かったのは、70歳以上であり、全項目で肯定的評価が80%台となっていた。

図2-20【学部】年齢階層別の全体評価



所属コース別の全体評価では（図2-21）、全項目で「人間と文化」の評価が高かった。一方で「基盤科目（外国語）」は全項目で最も低くなっており、特に(B-20)「この科目の内容を全体としてよく理解できた」においては75%と顕著に低い評価となった。

図2-21 【学部】所属コース別の全体評価

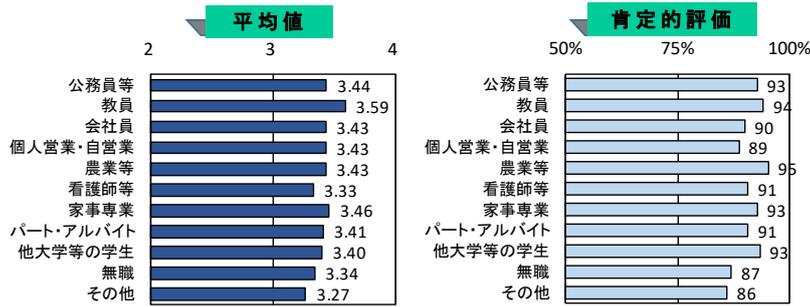


職業別の全体評価（次頁図2-22）では、(B-20)「この科目の内容を全体としてよく理解できた」以外の項目で「農業等」の評価が95～100%と最も高かった。また、(B-19)「新しい知識が身につく視野が広がった」については、全ての職業で90%を上回った。

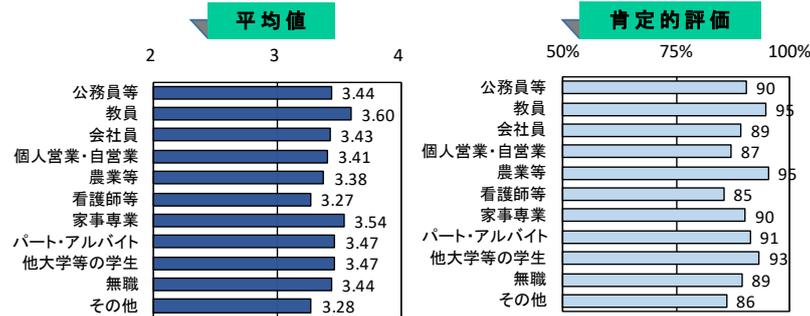
一方で、(B-18)「学習意欲や興味・関心が高まる授業内容だった」では「看護師」(85%)、(B-20)「この科目の内容を全体としてよく理解できた」では「会社員」「無職」「その他」(84～85%)の評価が低かった。

図2-22【学部】職業別の全体評価

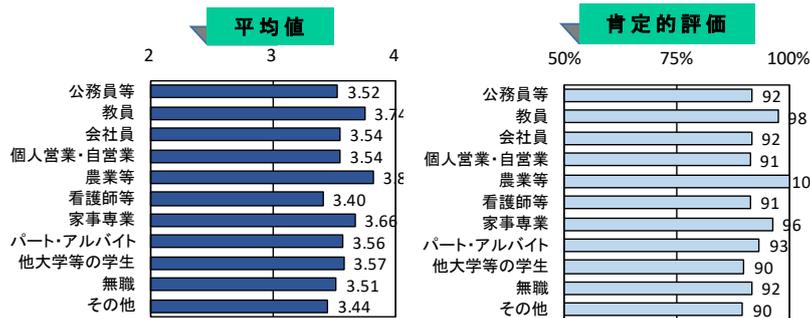
(B-17) 授業科目案内はこの科目の内容を知る上で役に立った



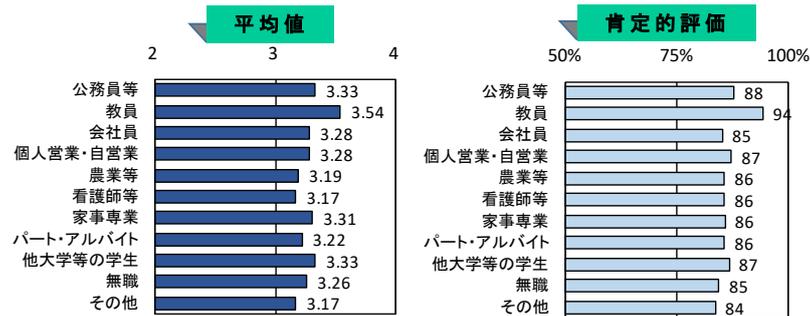
(B-18) 学習意欲や興味・関心が高まる授業内容だった



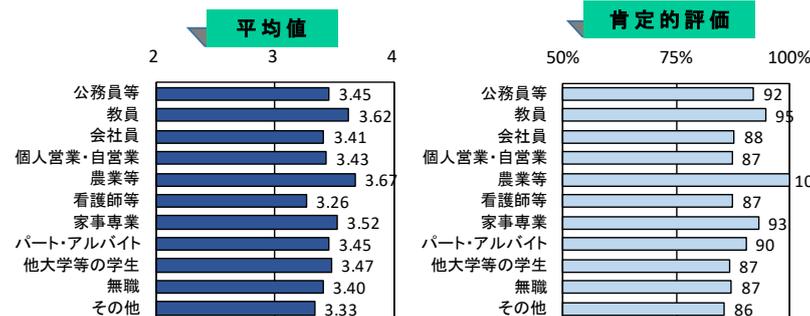
(B-19) 新しい知識が身につく視野が広がった



(B-20) この科目の内容を全体としてよく理解できた(理解度)



(B-21) この科目の内容には全体として満足している(満足度)

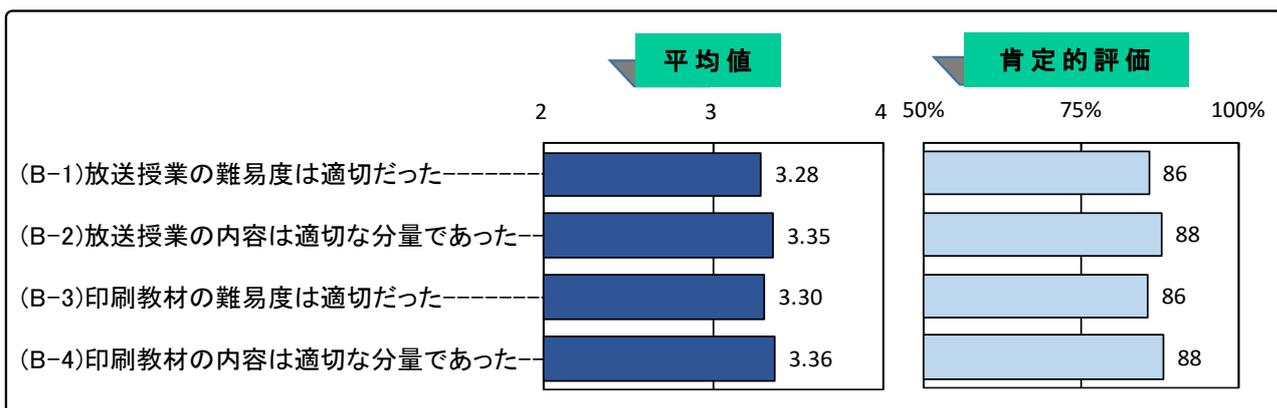


(2) 授業の難易度・分量

次に授業の難易度・分量（図2-23）について、評価項目ごとに見ていくことにする。

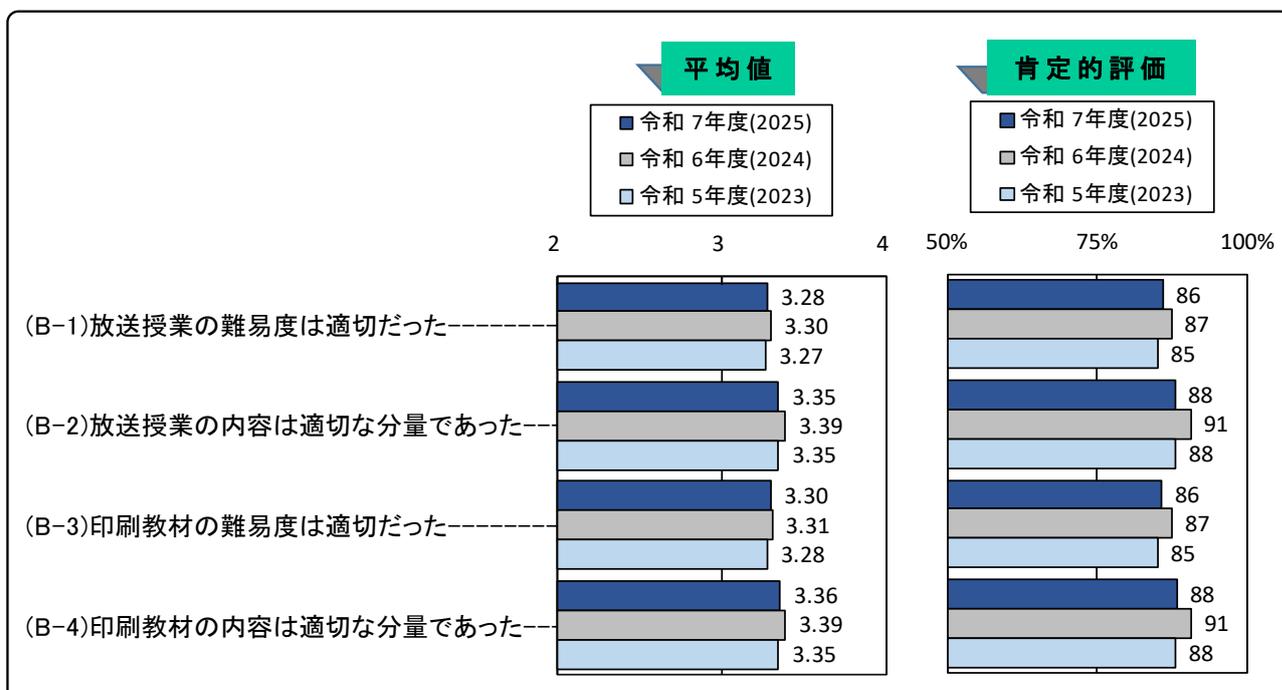
肯定的評価は、(B-2)「放送授業の内容は適切な分量であった」と(B-4)「印刷教材の内容は適切な分量であった」の難易度については、両項目とも88%、(B-1)「放送授業の難易度は適切だった」、(B-3)「印刷教材の難易度は適切だった」が86%とそれぞれの「分量」についての評価の方が高かった。

図2-23【学部】回答者全体の授業難易度・分量の評価



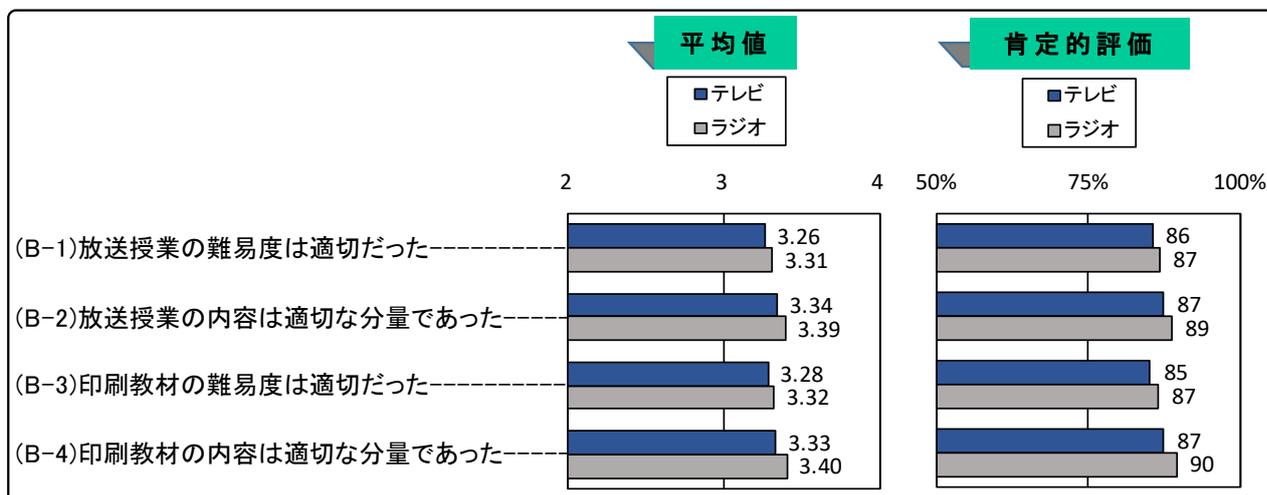
開設年度で比較すると（図2-24）、本年度は、下記4項目全てで、昨年度から肯定的評価が下がった

図2-24【学部】回答者全体の授業難易度・分量の評価（開設年度比較）



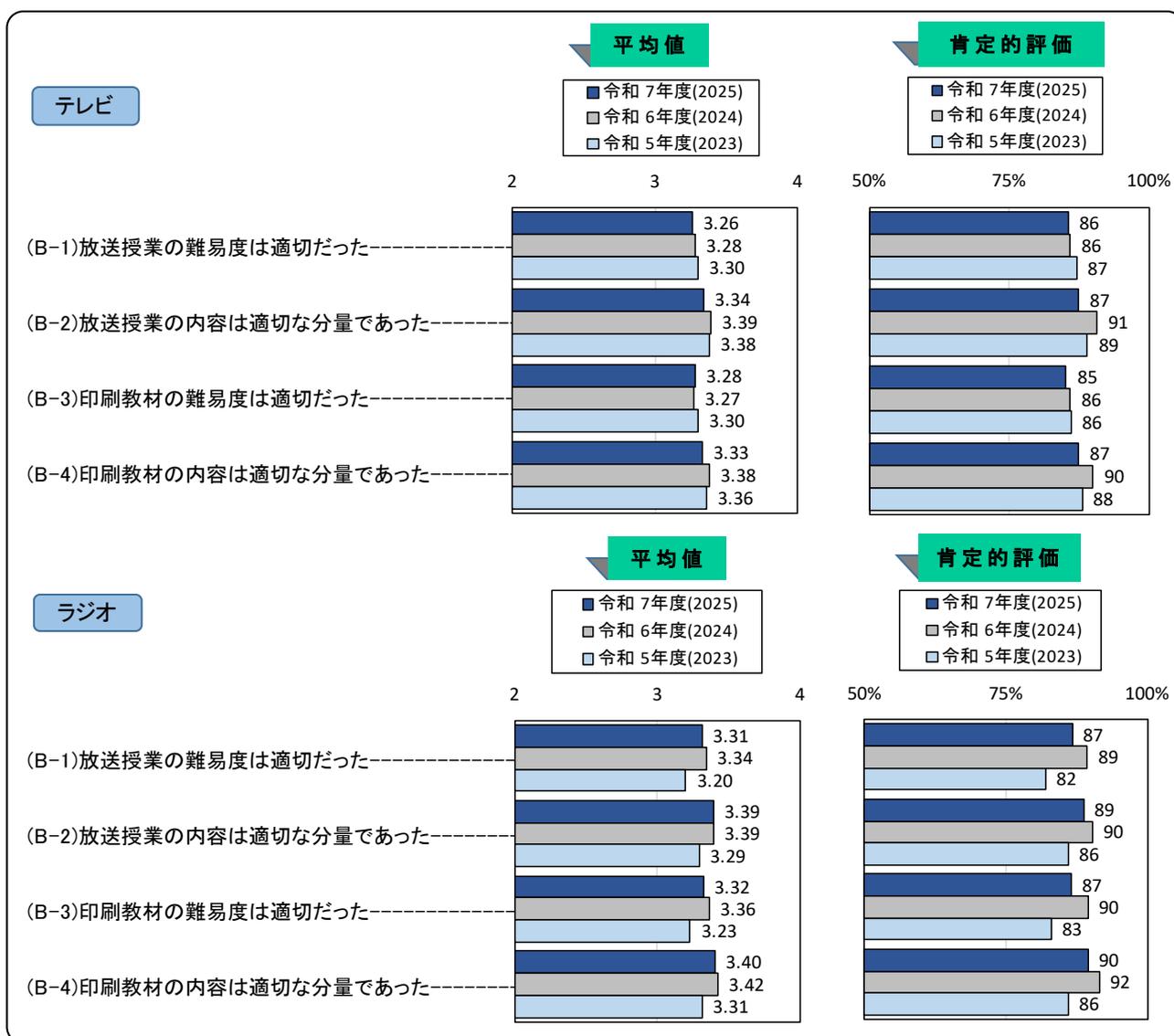
メディア別に授業の難易度・分量を見ると（図2-25）、テレビ科目よりラジオ科目の評価が高く、特に(B-4)「印刷教材の内容は適切な分量であった」では、3ポイント上回った。

図2-25 【学部】メディア別の授業難易度・分量の評価



メディア別の授業の難易度・分量を開設年度で比較すると（図2-26）、テレビ科目・ラジオ科目ともに肯定的評価は昨年よりも減少。特にテレビ科目では(B-2)「放送授業の内容は適切な分量であった」が4ポイント、ラジオ科目では(B-3)「印刷教材の難易度は適切だった」が3ポイントと減少幅が大きかった。

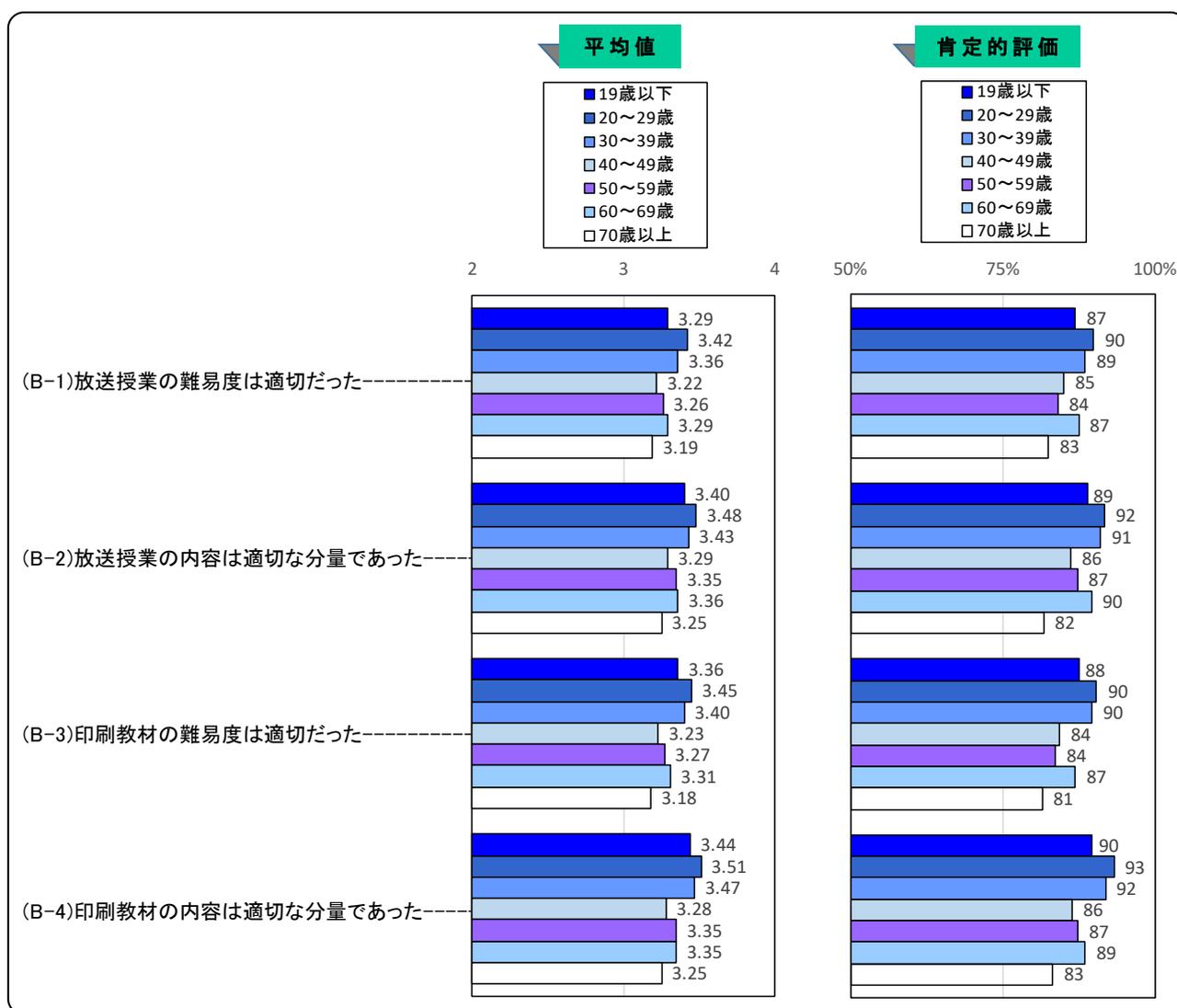
図2-26 【学部】メディア別の授業難易度・分量の評価（開設年度比較）



年齢階層別に授業の難易度・分量を見ると（図2-27）全項目において20歳代の評価が最も高かった。

一方、全項目で70歳以上の評価が低く、(B-3)「印刷教材の難易度は適切だった」の81%を始め、全項目で80%台前半となっていた。

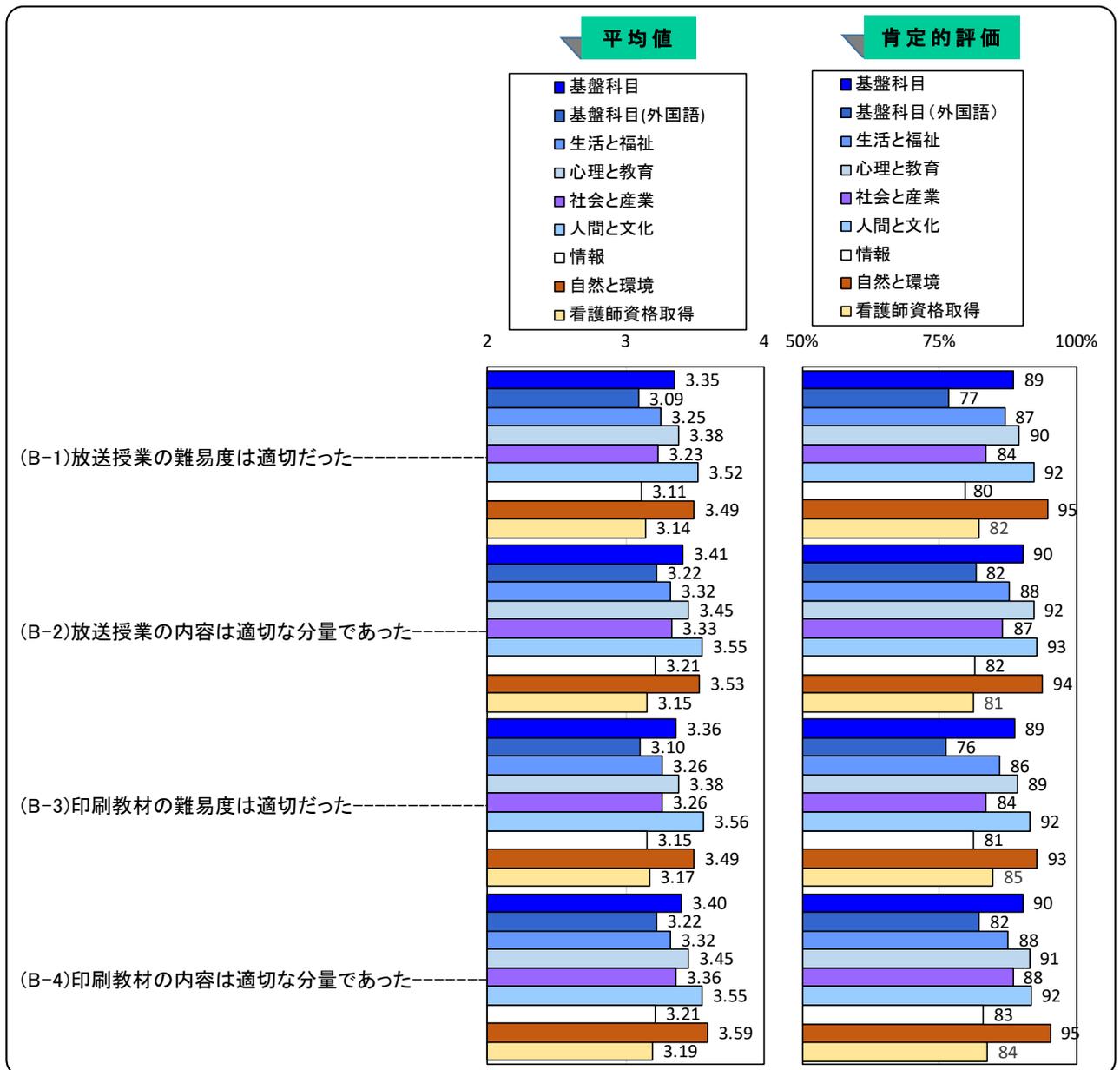
図2-27【学部】年齢階層別の授業難易度・分量の評価



所属コース別に授業の難易度・分量を見ると（図2-28）、全項目で「自然と環境」が93～95%と最も高い評価となった。

一方、「基盤科目（外国語）」の評価が総じて低く、(B-1)「放送授業の難易度は適切だった」、(B-3)「印刷教材の難易度は適切だった」が70%台と「難易度」に関わる項目の評価が特に低かった。

図2-28 【学部】所属コース別の授業難易度・分量の評価



職業別に見ると（次頁図2-29）、全項目で「教員」が93～94%と最も高い評価となった。

また、(B-1)「放送授業の難易度は適切だった」については、「他大学等の学生」が90%と比較的高く、「農業等」「看護師等」「その他」が81%と最も低かった。

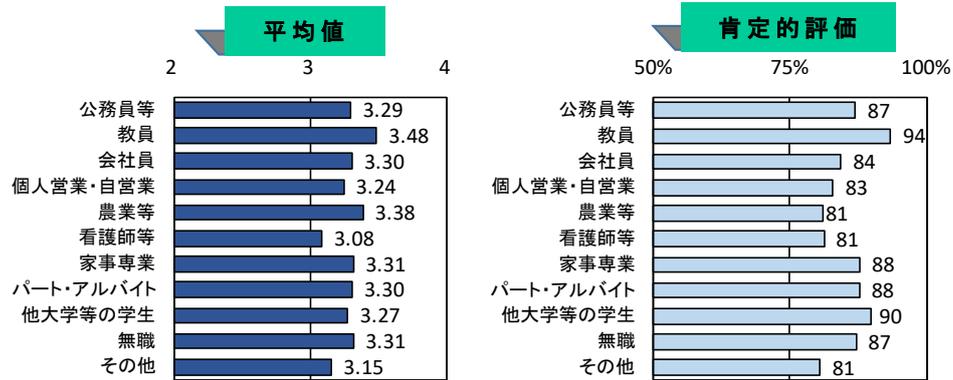
(B-2)「放送授業の内容は適切な分量であった」では、「農業等」が91%と比較的高く、「看護師等」が83%と最も低かった。

(B-3)「印刷教材の難易度は適切だった」については、「公務員等」が89%と比較的高く、「農業等」が76%と最も低かった。

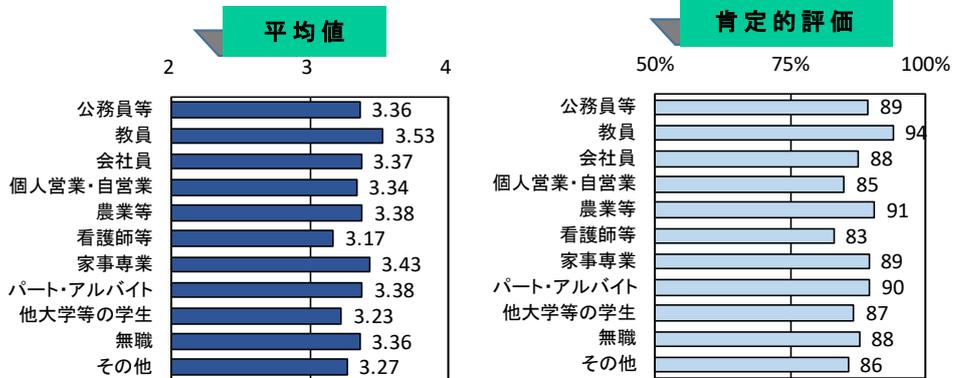
(B-4)「印刷教材の内容は適切な分量であった」については、「公務員等」「パート・アルバイト」「他大学等の学生」が90～92%と高く、「農業等」が81%と最も低かった。

図2-29【学部】職業別の授業難易度の評価

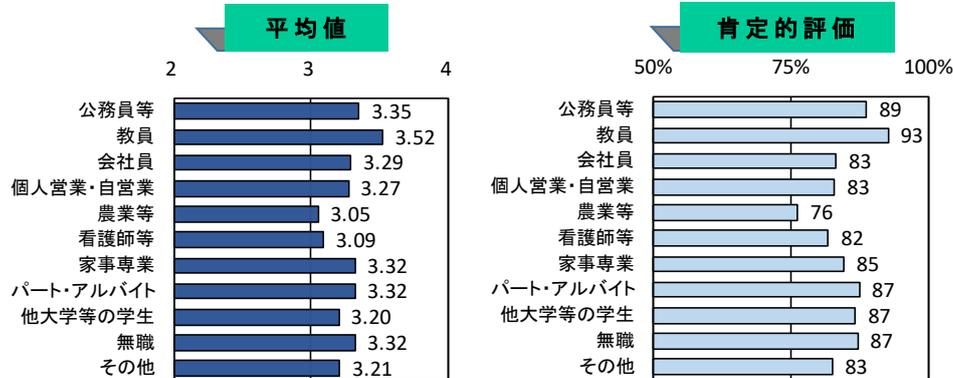
(B-1)放送授業の難易度は適切だった



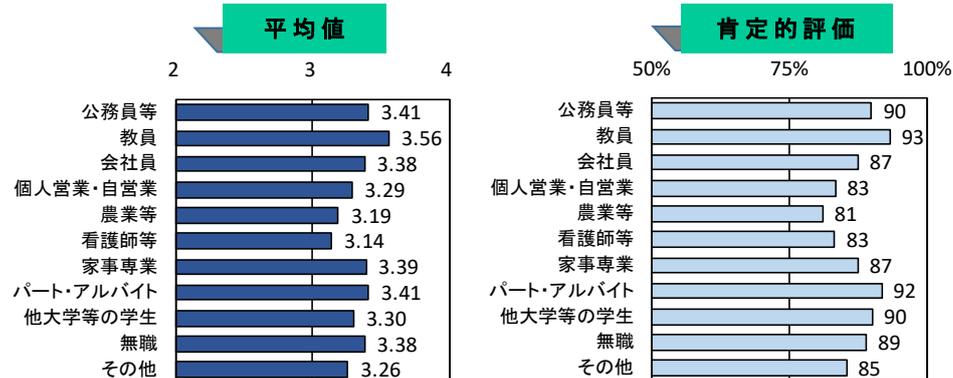
(B-2) 放送授業の内容は適切な分量であった



(B-3)印刷教材の難易度は適切だった



(B-4) 印刷教材の内容は適切な分量であった

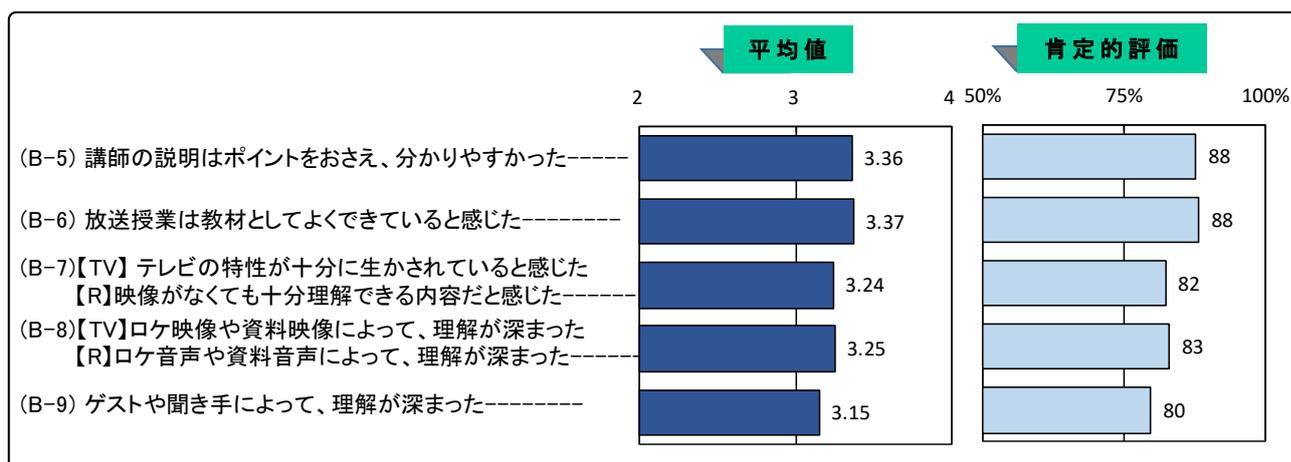


(3) 放送授業

ここからは放送授業について、評価項目ごとに見ていくことにする。

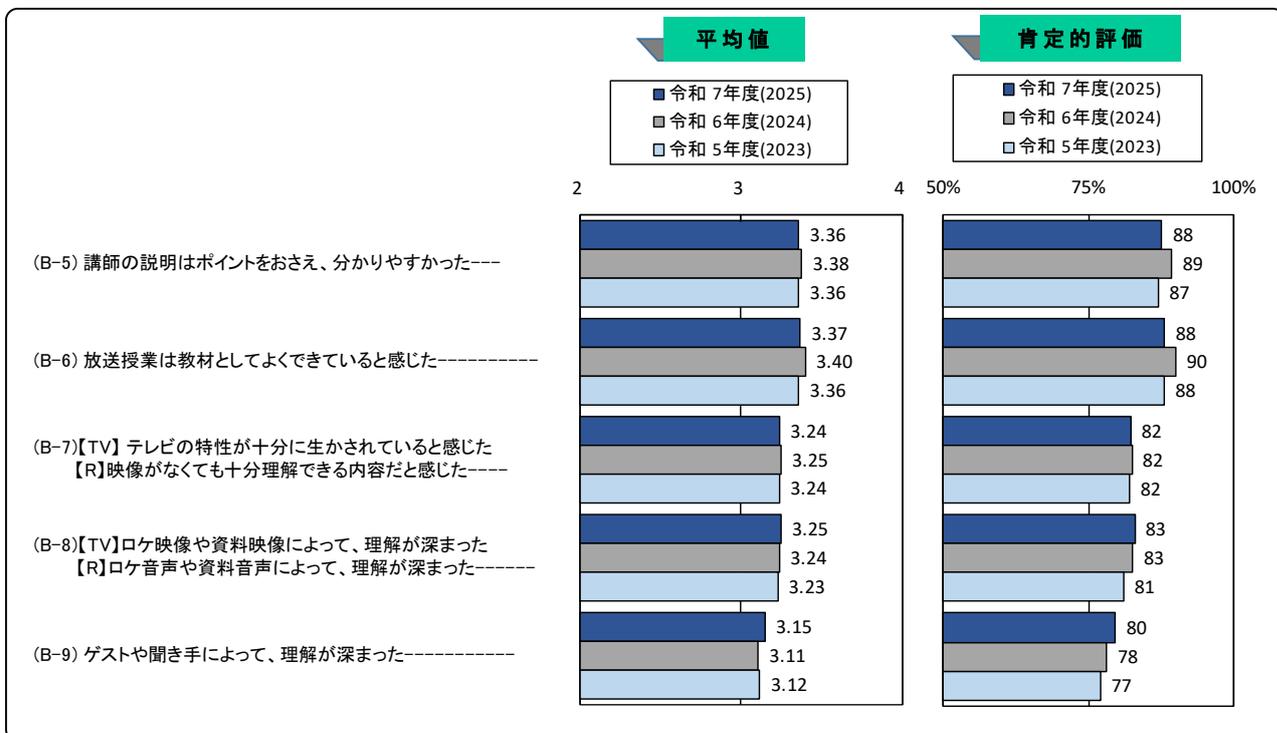
放送授業に関する評価項目（図2-30）では、(B-5)「講師の説明はポイントをおさえ、分かりやすかった」と(B-6)「放送授業は教材としてよくできていると感じた」が88%と高く、(B-9)「ゲストや聞き手によって、理解が深まった」は80%と、他の項目に比べると評価が低かった。

図2-30 【学部】回答者全体の放送授業の評価



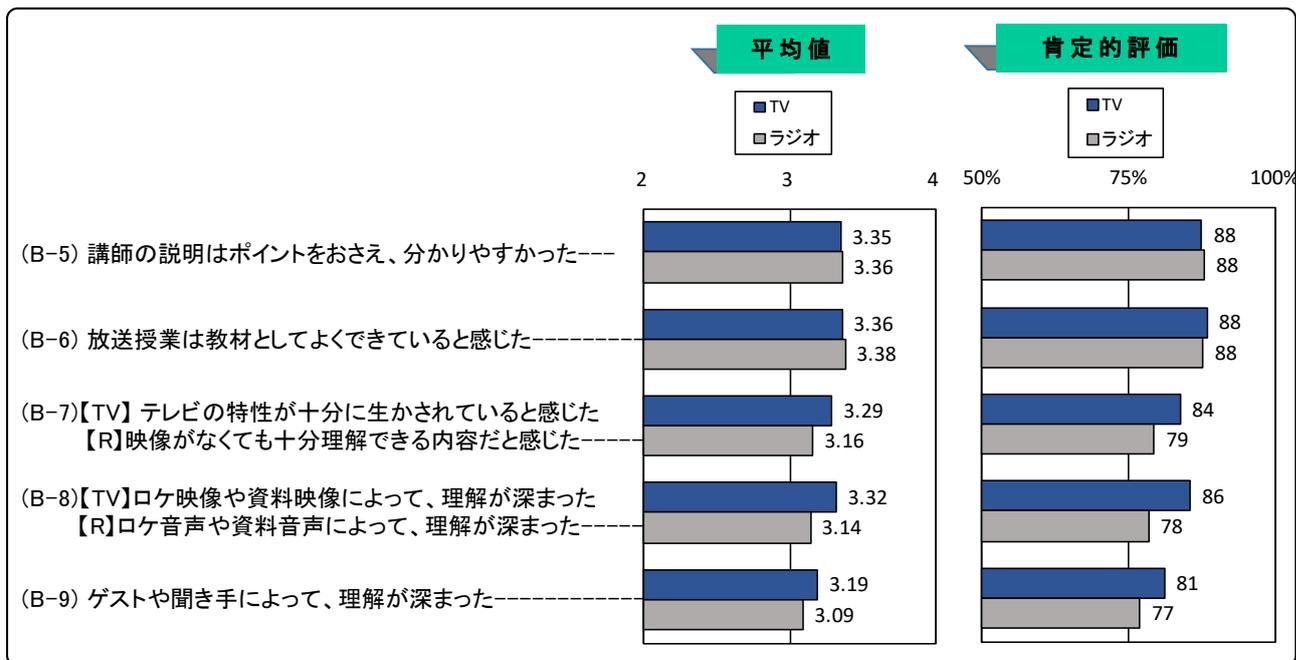
放送授業の評価を時系列で見ると（図2-31）本年度は、昨年度と比べると、(B-9)「ゲストや聞き手によって、理解が深まった」は2ポイント評価が高くなったものの、他項目は横ばいないし評価が下がった。

図2-31 【学部】回答者全体の放送授業の評価（時系列）



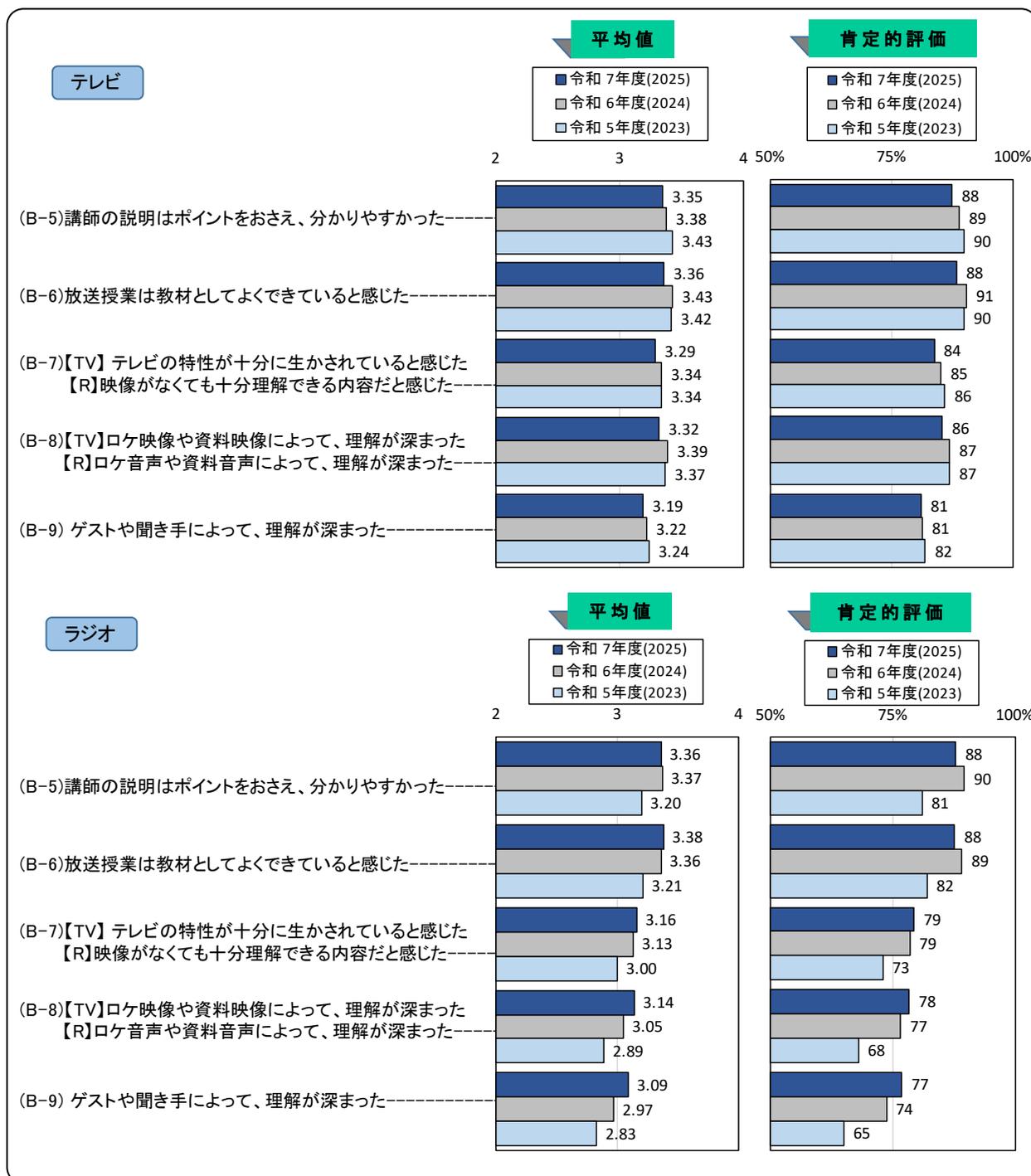
メディア別に放送授業の肯定的評価を見ると（図2-32）、総じてテレビ科目の評価が高く、特に、(B-7)「【TV】テレビの特性が十分に活かされていると感じた／【R】映像がなくても十分理解できる内容だと感じた」では5ポイント、(B-8)「【TV】ロケ映像や資料映像によって、理解が深まった／【R】ロケ音声や資料音声によって、理解が深まった」では8ポイント、テレビ科目の評価が上回った。

図2-32 【学部】メディア別の放送授業の評価



また、メディア別の放送授業の評価を時系列で見ると（図2-33）、テレビ科目については全項目で昨年度と比較して横ばいないし減少。一方でラジオ科目では、（B-5）「講師の説明はポイントをおさえ、分かりやすかった」、（B-6）「放送授業は教材としてよくできていると感じた」が1～2ポイント減少する一方で、（B-7）「【TV】テレビの特性が十分に生かされていると感じた／【R】映像がなくても十分理解できる内容だと感じた」（B-8）「【TV】ロケ映像や資料映像によって、理解が深まった／【R】ロケ音声や資料音声によって、理解が深まった」については、1～3ポイント増加した。

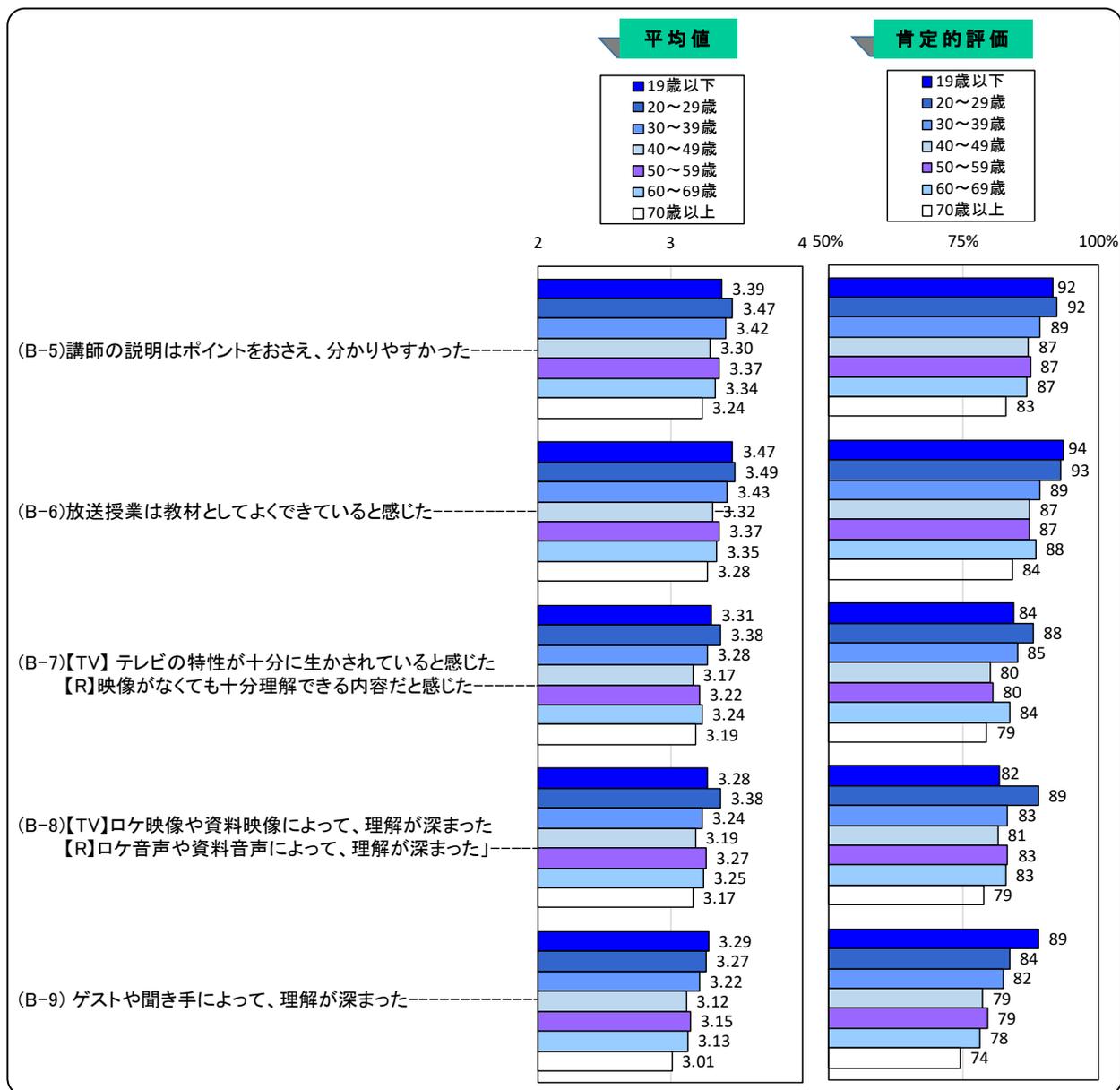
図2-33【学部】メディア別の放送授業の評価（時系列）



年齢階層別の放送授業の評価（図2-34）では、総じて19歳以下・20歳代の評価が高く、(B-6)「放送授業は教材としてよくできていると感じた」では93～94%に達していた。

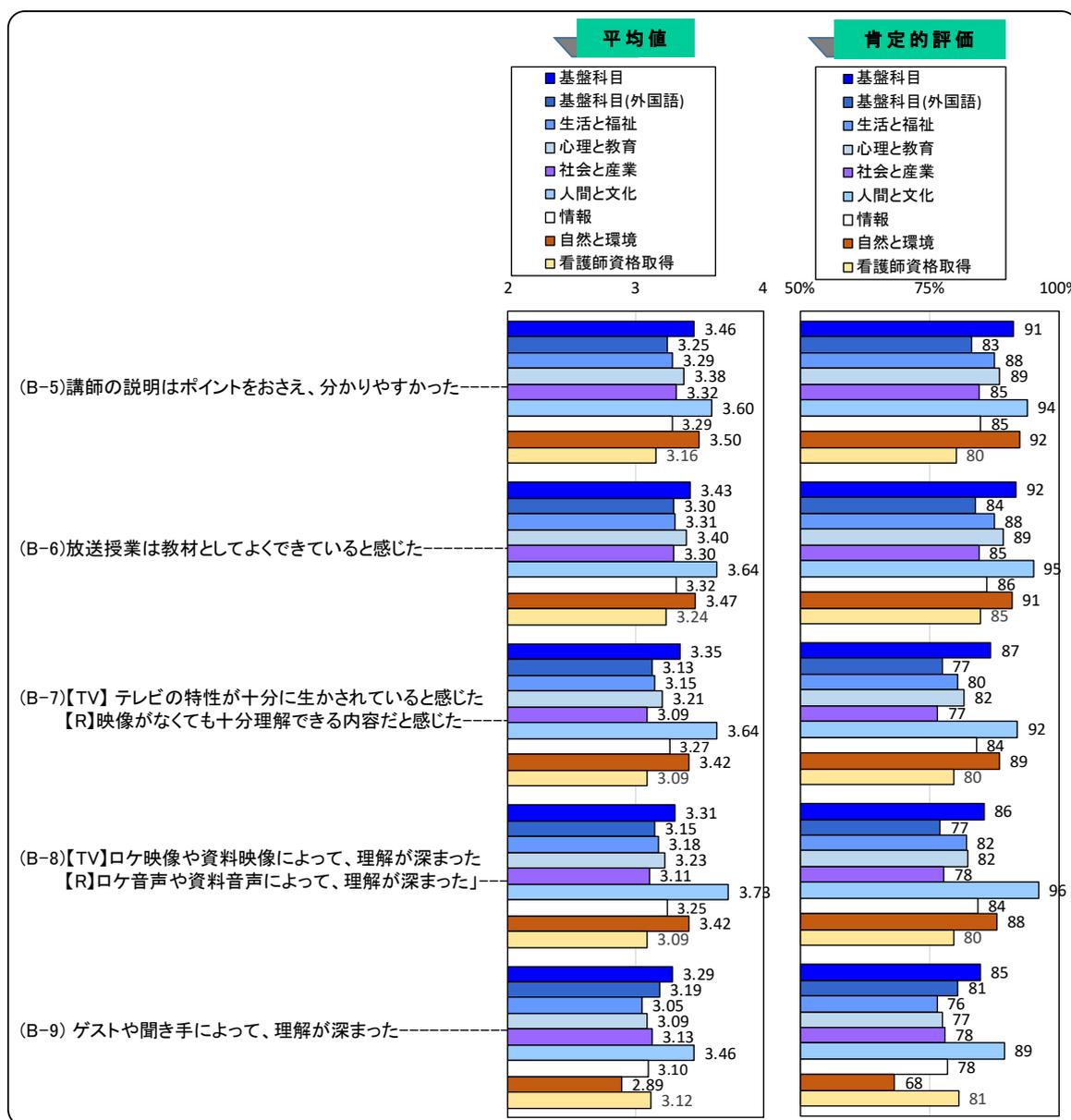
一方で全ての項目で評価が低かったのは70歳代で、(B-9)「ゲストや聞き手によって、理解が深まった」では74%と特に評価が低かった。

図2-34 【学部】年齢階層別の放送授業の評価



所属コース別に放送授業の評価を見ると（図2-35）、「人間と文化」は全ての項目で最も評価が高かった。一方で、「基盤科目(外国語)」「看護師資格取得」「社会と産業」は総じて評価が低く、(B-5)「講師の説明はポイントをおさえ、分かりやすかった」、(B-6)「放送授業は教材としてよくできていると感じた」は80~85%、(B-7)「【TV】テレビの特性が十分に活かされていると感じた／【R】映像がなくても十分理解できる内容だと感じた」、(B-8)「【TV】ロケ映像や資料映像によって、理解が深まった【R】ロケ音声や資料音声によって、理解が深まった」では77~80%であった。また(B-9)「ゲストや聞き手によって、理解が深まった」では「自然と環境」が68%と全項目中、最も評価が低かった。

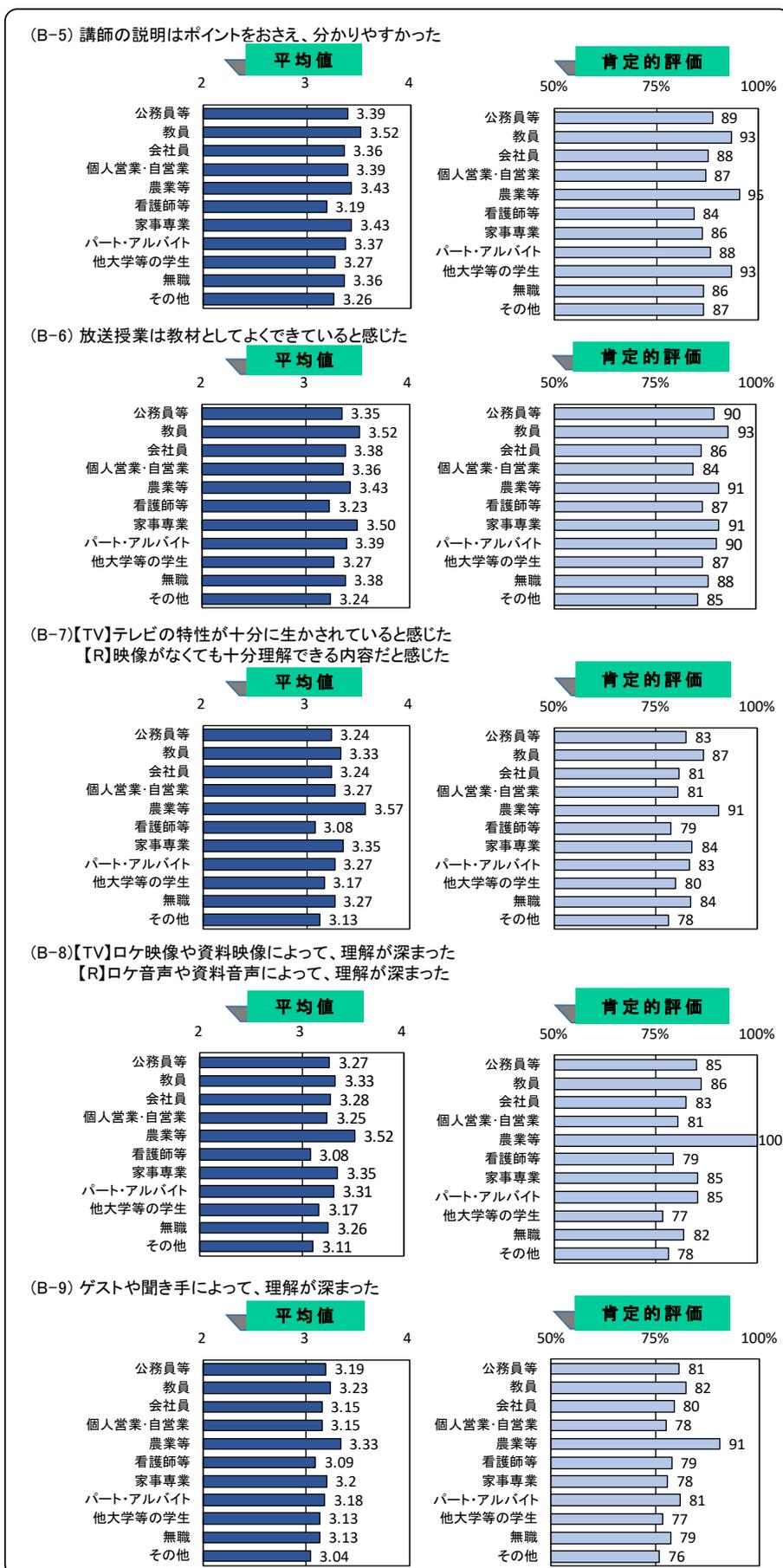
図2-35 【学部】所属コース別の放送授業の評価



職業別の放送授業の評価（次頁図2-36）では、(B-6)「放送授業は教材としてよくできていると感じた」を除く全ての項目で「農業等」が最も高い評価であった。(B-6)「放送授業は教材としてよくできていると感じた」については「教員」が93%と最も高い評価であった。

一方、総じて「その他」「個人営業・自営業」「他大学等の学生」の評価が低く、特に(B-9)「ゲストや聞き手によって、理解が深まった」では「その他」が76%と全項目で最も評価が低かった。

図2-36 【学部】職業別の放送授業の評価

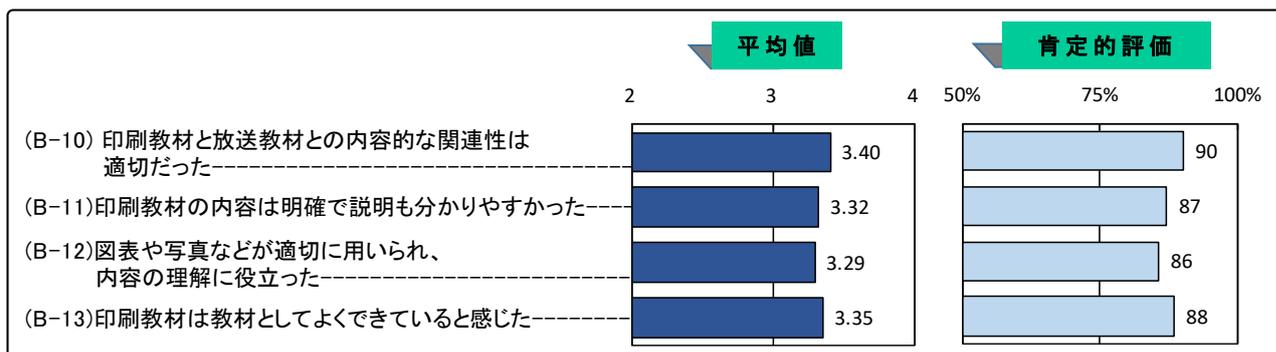


(4) 印刷教材

ここからは印刷教材について、評価項目ごとに見ていくことにする。

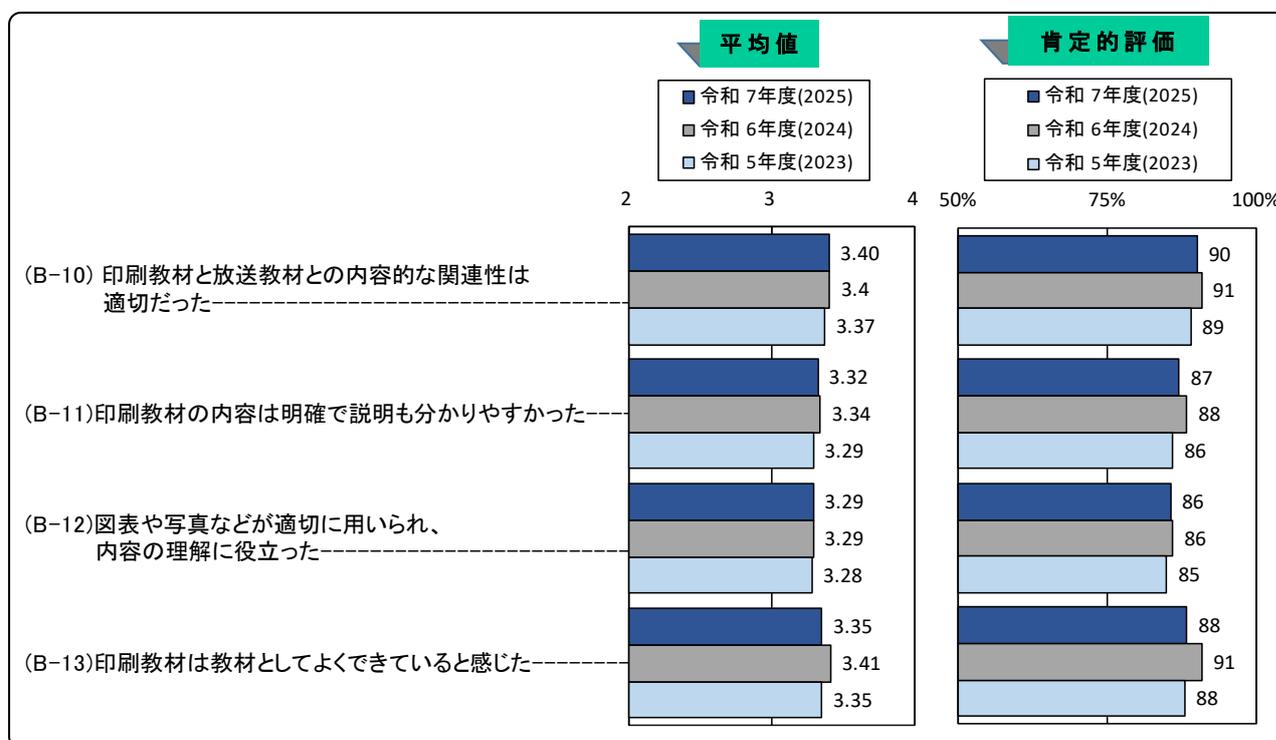
印刷教材の評価項目では（図2-37）、(B-10)「印刷教材と放送教材との内容的な関連性は適切だった」が90%と最も高く、(B-12)「図表や写真などが適切に用いられ、内容の理解に役立った」が86%と最も低かった。

図2-37【学部】回答者全体の印刷教材の評価



印刷教材の評価を時系列で見ると（図2-38）、本年度は全ての項目において、昨年度と比較して横ばいないし評価が下がった。

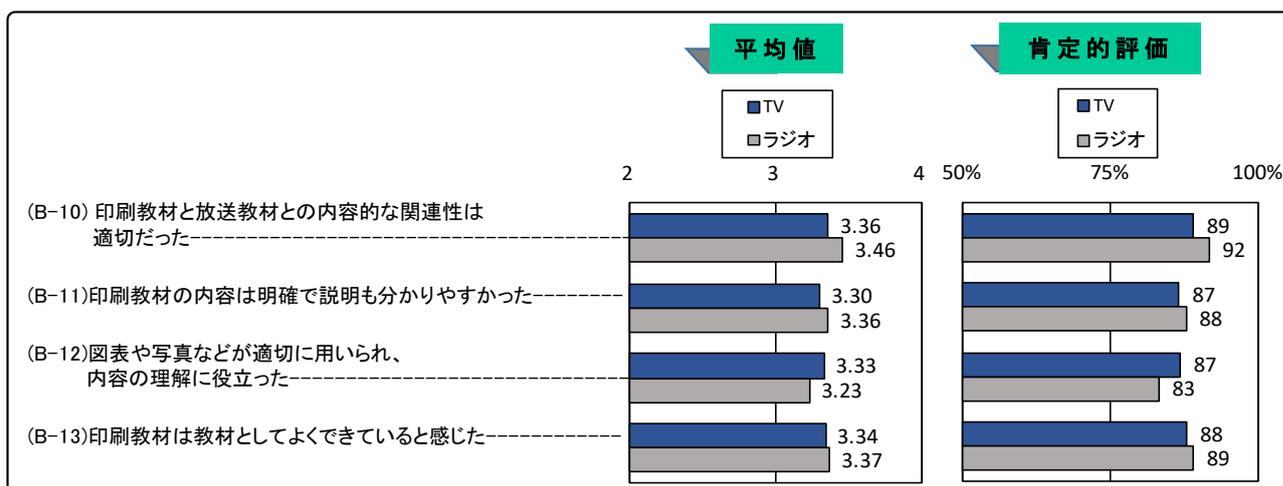
図2-38【学部】回答者全体の印刷教材の評価（時系列）



メディア別に印刷教材の評価を見ると（図2-39）、(B-12)「図表や写真などが適切に用いられ、内容の理解に役立った」以外の項目において、ラジオ科目の評価の方が高かった

一方で、(B-12)「図表や写真などが適切に用いられ、内容の理解に役立った」では、テレビ科目の評価の方がラジオ科目よりも4ポイント高かった。

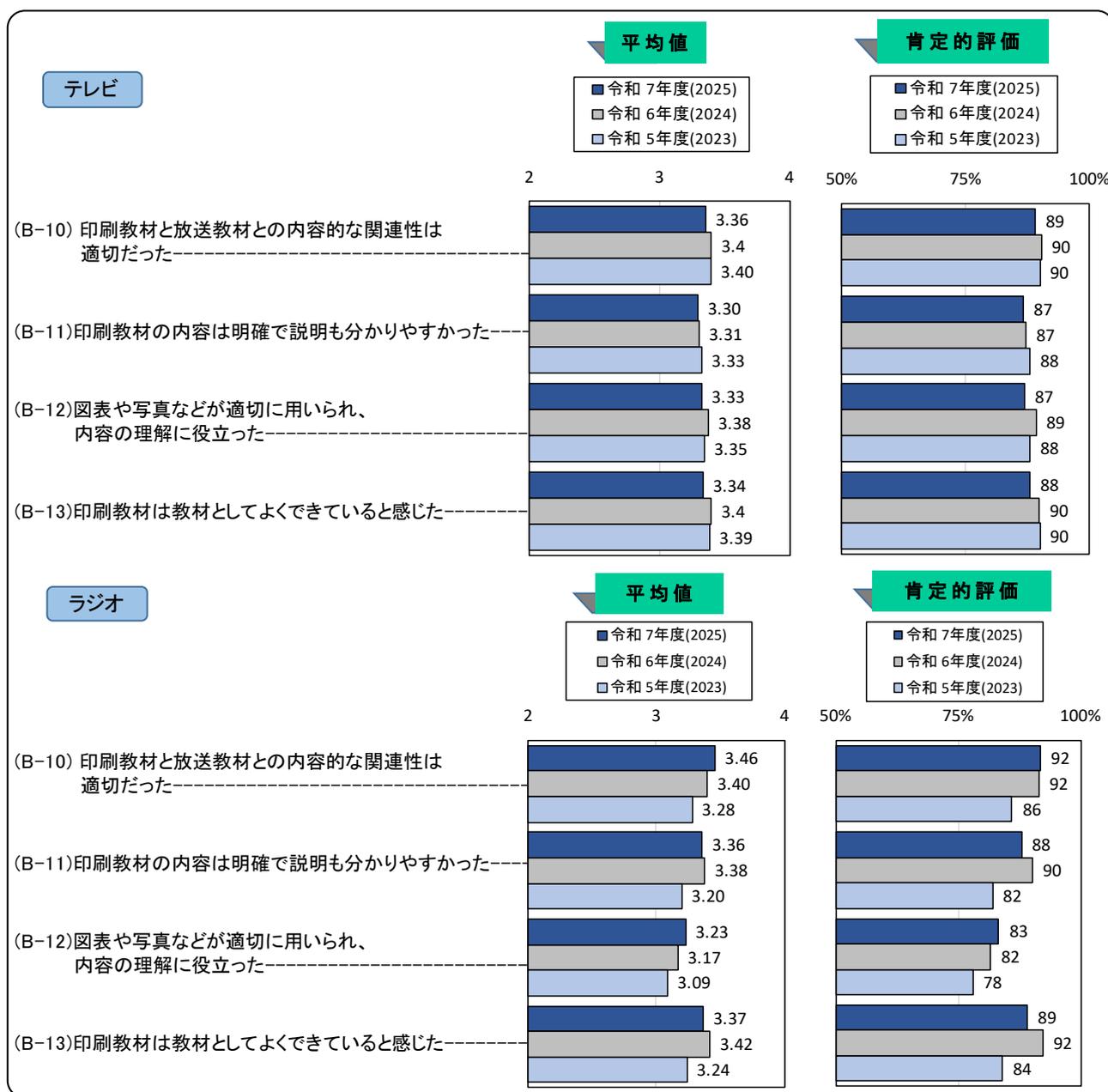
図2-39【学部】メディア別の印刷教材の評価



メディア別の印刷教材の結果を時系列で見ると（図2-40）、テレビ科目では、本年度は、全ての項目で昨年度から1～2ポイント減少した。

一方、ラジオ科目については、(B-12)「図表や写真などが適切に用いられ、内容の理解に役立った」が1ポイント増加するなど評価が高まった項目も見られたが、(B-11)「印刷教材の内容は明確で説明も分かりやすかった」は2ポイント、(B-13)「印刷教材は教材としてよくできていると感じた」は3ポイント減少するなど、評価が下がった項目の方が多かった。

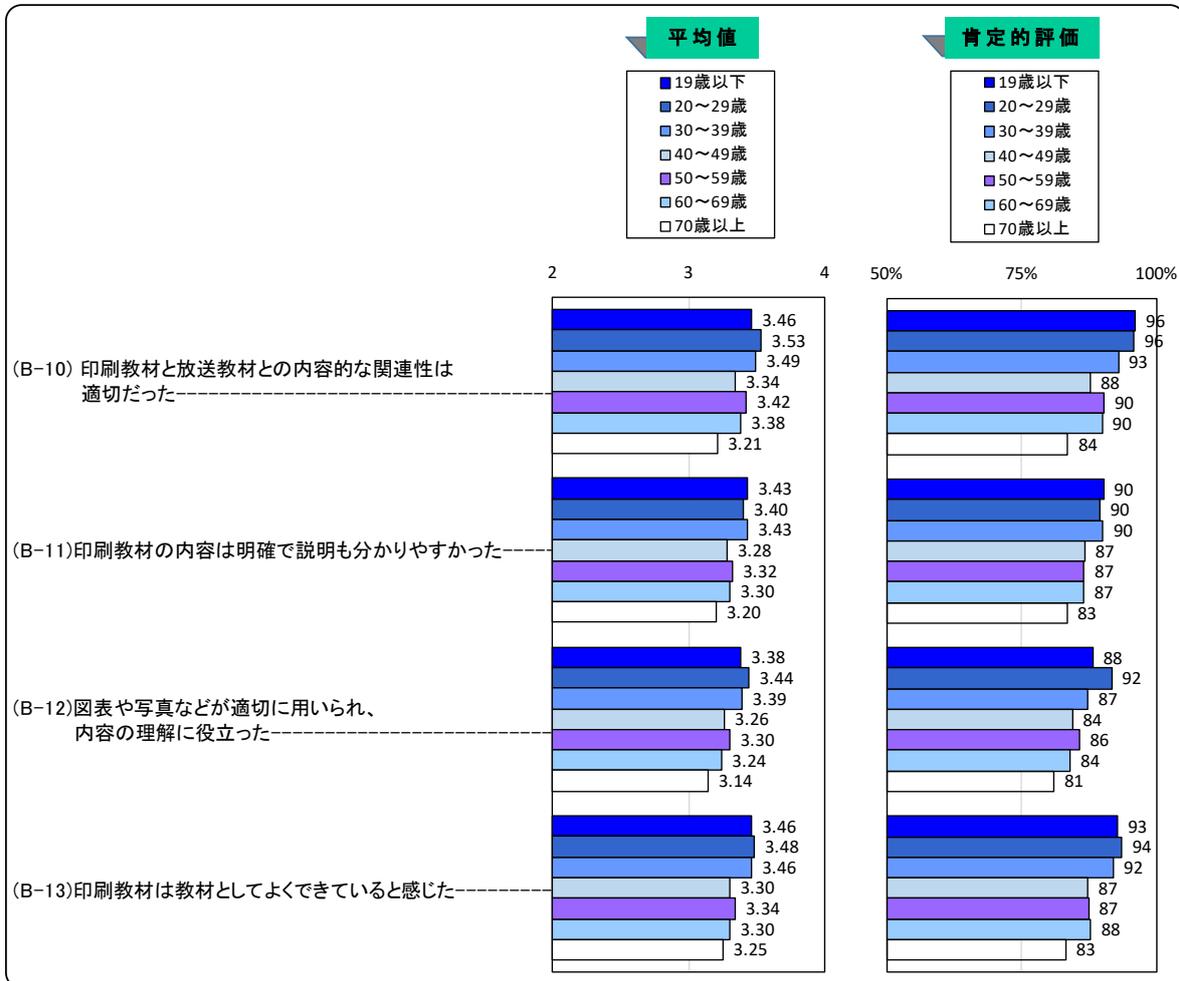
図2-40【学部】メディア別の印刷教材の評価（時系列）



年齢階層別に印刷教材の評価を見ると（図2-41）、全ての項目で若い世代（19歳以下～30歳代）の評価が上位を占めた。

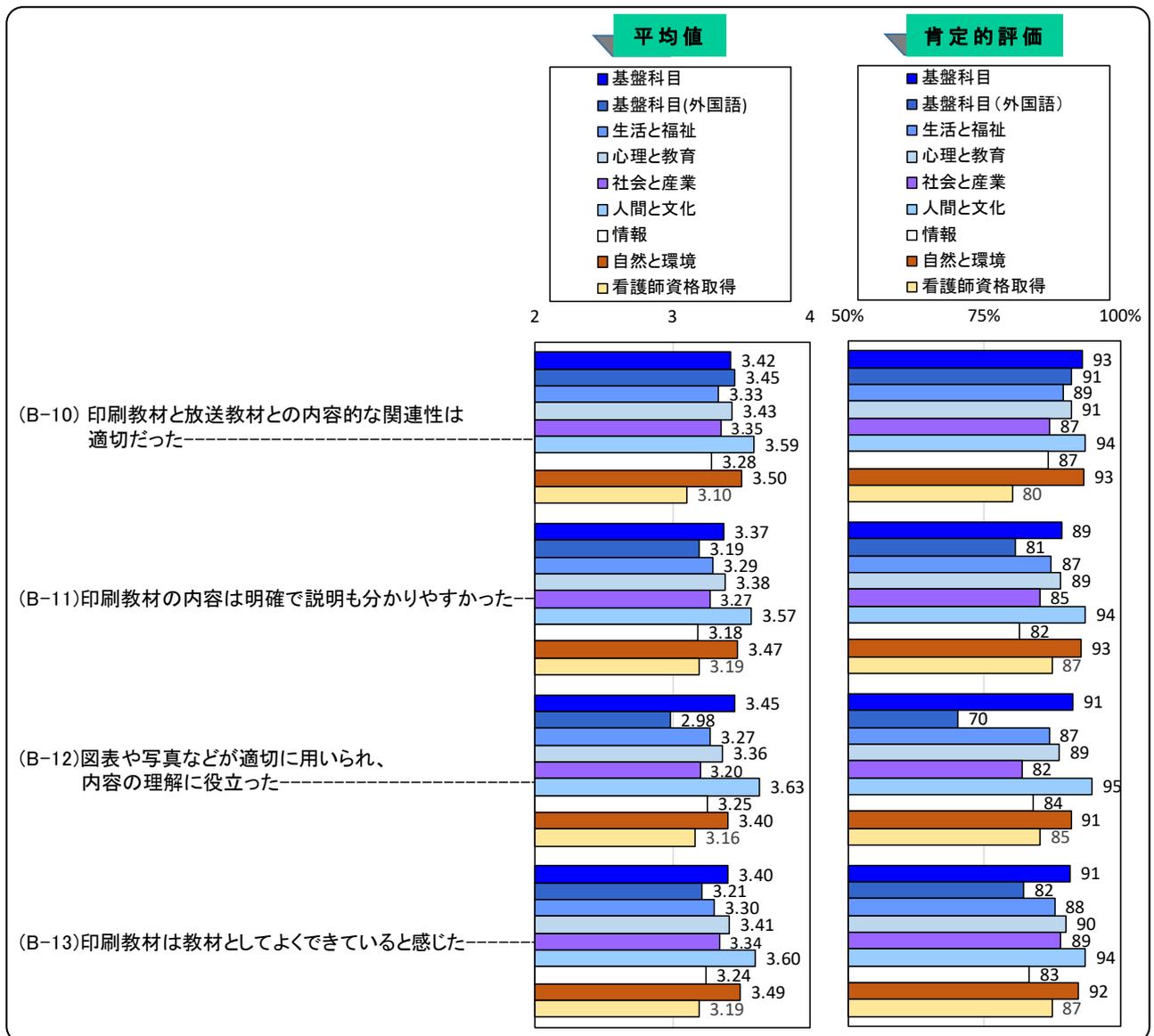
一方で70歳以上は、全ての項目において最も評価が低かった。

図2-41 【学部】年齢階層別の印刷教材の評価



所属コース別に印刷教材の評価を見ると（図2-42）、「人間と文化」「自然と環境」が、全ての項目で90%以上と評価が高かった。一方で、「基盤科目（外国語）」は(B-10)「印刷教材と放送教材との内容的な関連性は適切だった」を除き、最も低い評価となっており、特に(B-12)「図表や写真などが適切に用いられ、内容の理解に役立った」は70%と他コース比で最大25ポイント低い評価となっていた。

図2-42 【学部】所属コース別の印刷教材の評価

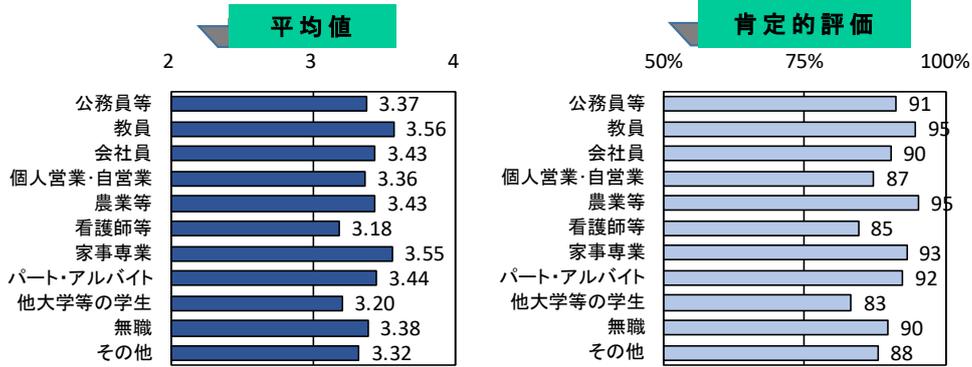


職業別の印刷教材の評価（次頁図2-43）では、「公務員等」と「教員」が、全ての項目において90%以上と高い評価となった。

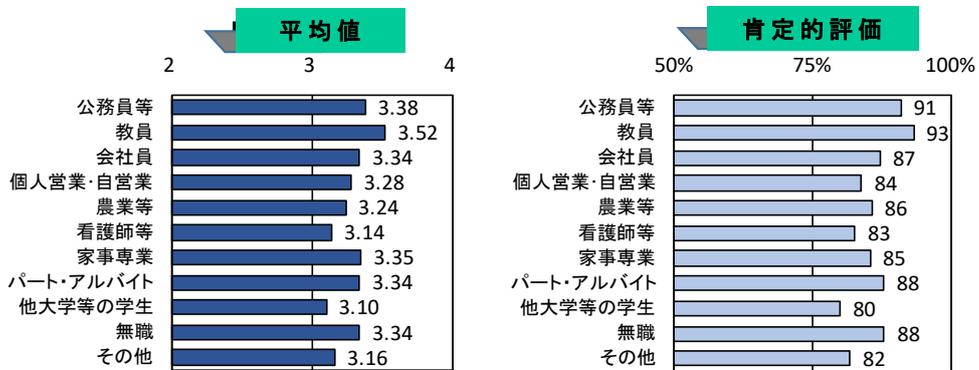
一方で評価が低かったのは「他大学等の学生」で、全項目で最も低い評価となった。また、総じて「看護師等」「その他」の評価が低めであり、(B-10)「印刷教材と放送教材との内容的な関連性は適切だった」では「看護師等」、(B-11)「印刷教材の内容は明確で説明も分かりやすかった」・(B-12)「図表や写真などが適切に用いられ、内容の理解に役立った」(B-13)「印刷教材は教材としてよくできていると感じた」では「その他」が、「他大学等の学生」に次ぐ低い評価であった。

図 2-43 【学部】職業別の印刷教材の評価

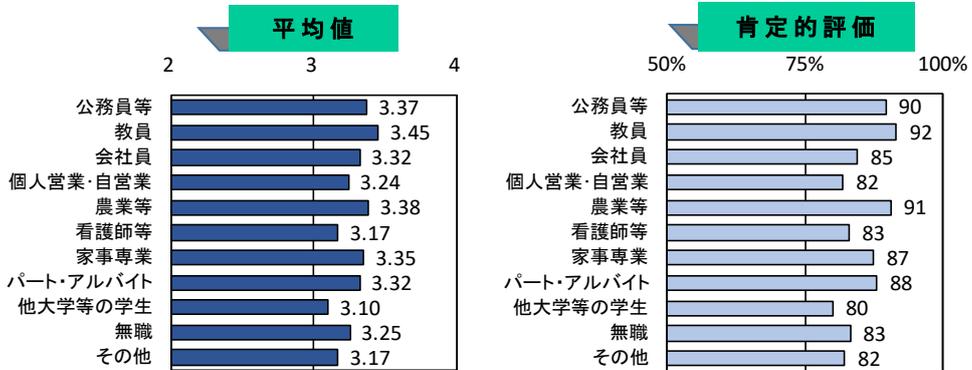
(B-10) 印刷教材と放送教材との内容的な関連性は適切だった



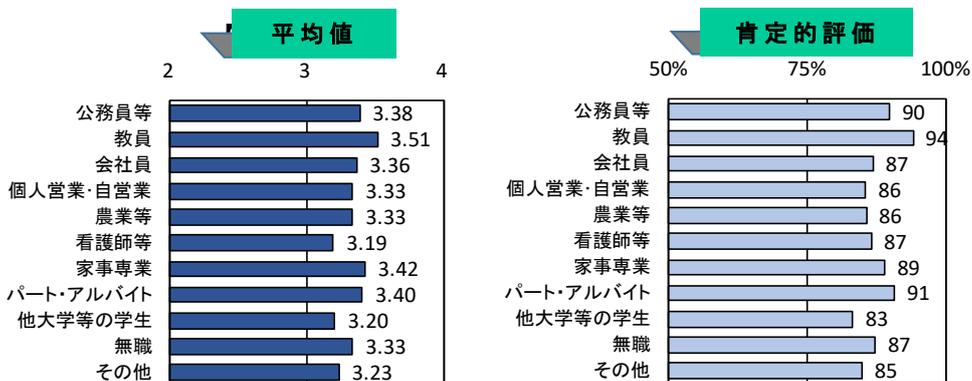
(B-11) 印刷教材の内容は明確で説明も分かりやすかった



(B-12) 図表や写真などが適切に用いられ、内容の理解に役立った



(B-13) 印刷教材は教材としてよくできていると感じた

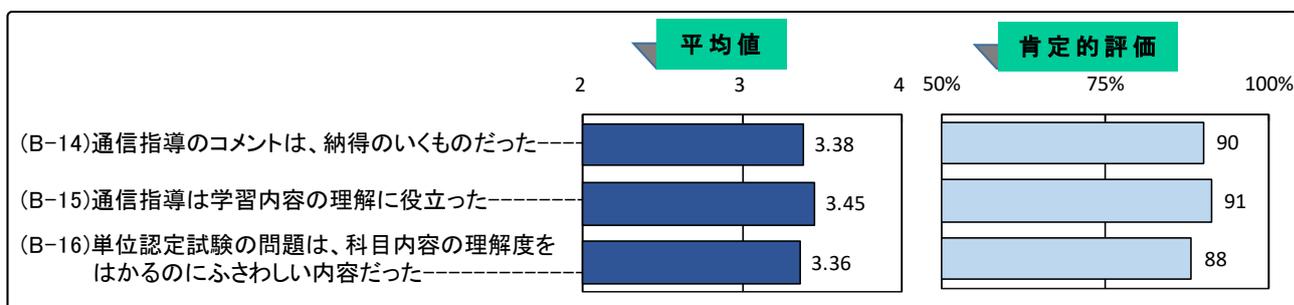


(5) 通信指導・単位認定試験

最後に通信指導・単位認定試験の評価について項目ごとに見ていくことにする。

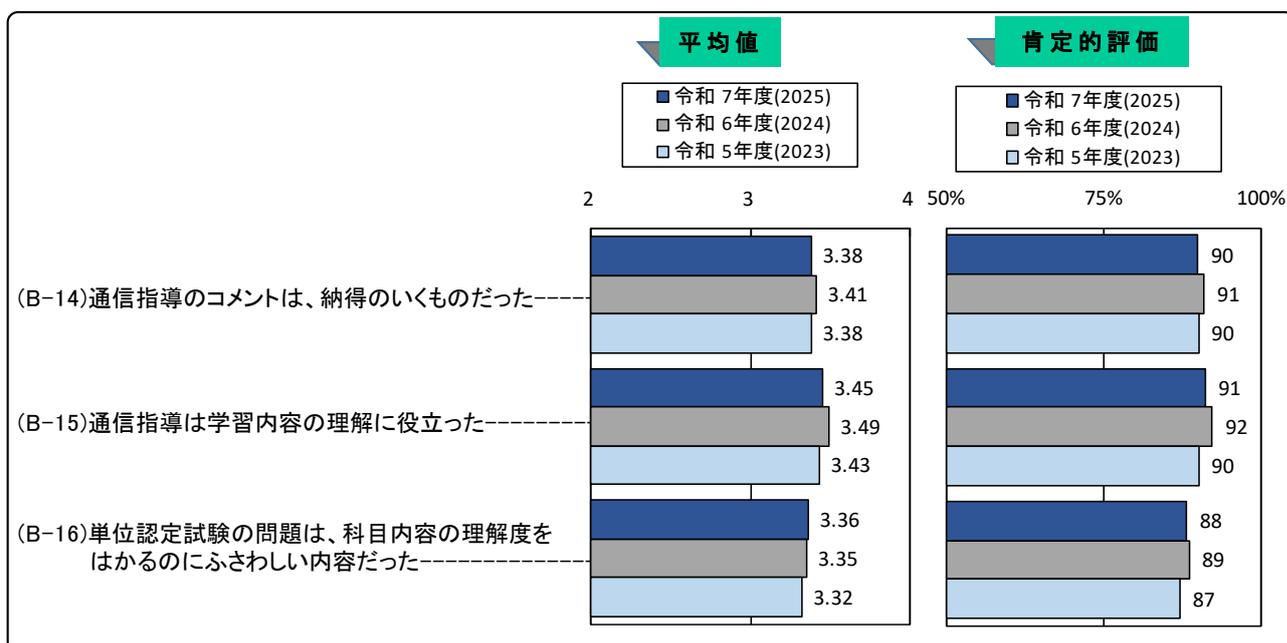
通信指導・単位認定試験については（図2-44）、全ての項目で88～91%と同じような水準であった。

図2-44 【学部】 回答者全体の通信指導・単位認定試験の評価



通信指導・単位認定試験の評価を時系列で見ると（図2-45）、本年度は、下記3項目全てで、昨年度より1ポイント、評価が下がった。

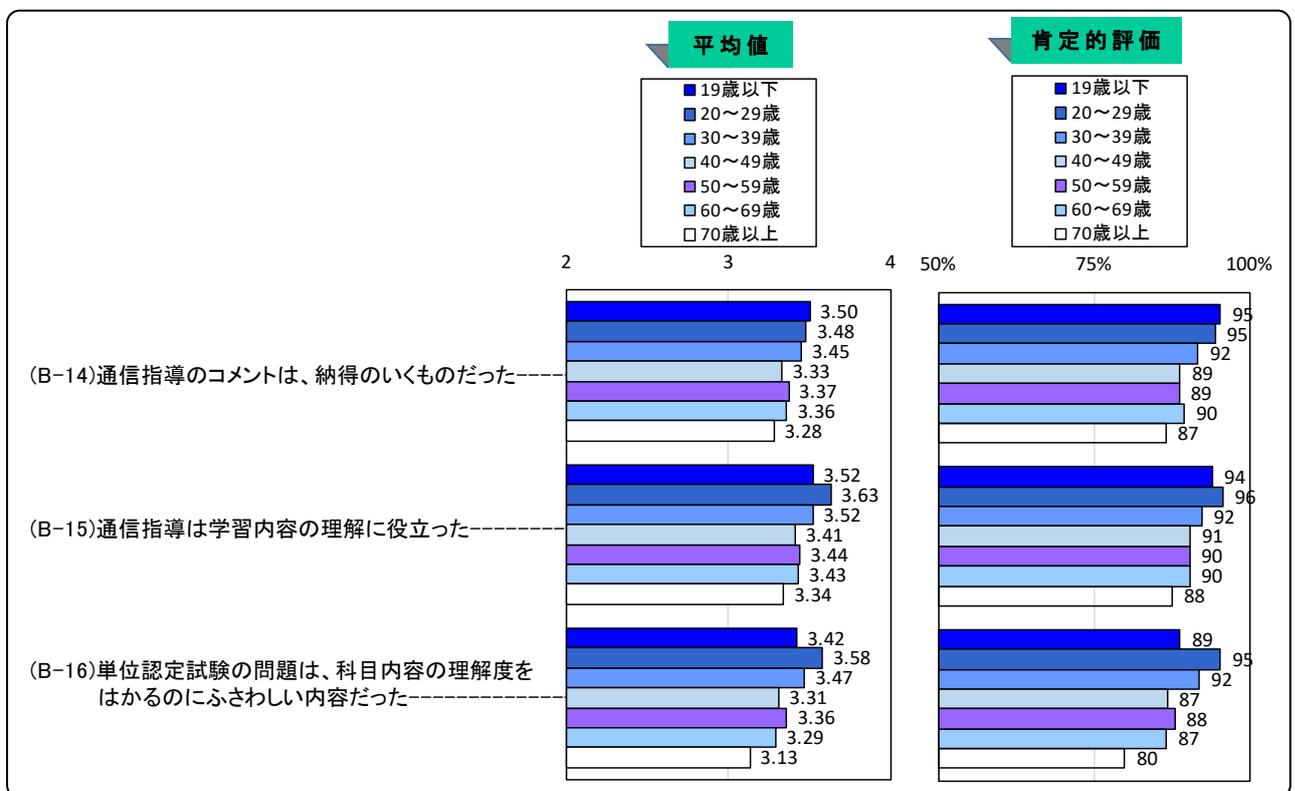
図2-45 【学部】 回答者全体の通信指導・単位認定試験の評価（時系列）



年齢階層別に通信指導・単位認定試験の評価を見ると（図2-46）、全ての項目で20歳代の評価が高かった。また、(B-14)「通信指導のコメントは、納得のいくものだった」、(B-15)「通信指導は学習内容の理解に役立った」は、比較的評価が低めの70歳代以上でも87～88%と全体的に一定の評価を得られていた。

一方で(B-16)「単位認定試験の問題は、科目内容の理解度をはかるのにふさわしい内容だった」は(B-14)「通信指導のコメントは、納得のいくものだった」、(B-15)「通信指導は学習内容の理解に役立った」と比較すると評価が低めであり、特に70歳以上では80%と、最も高かった20歳代と比較して15ポイント差がついた。

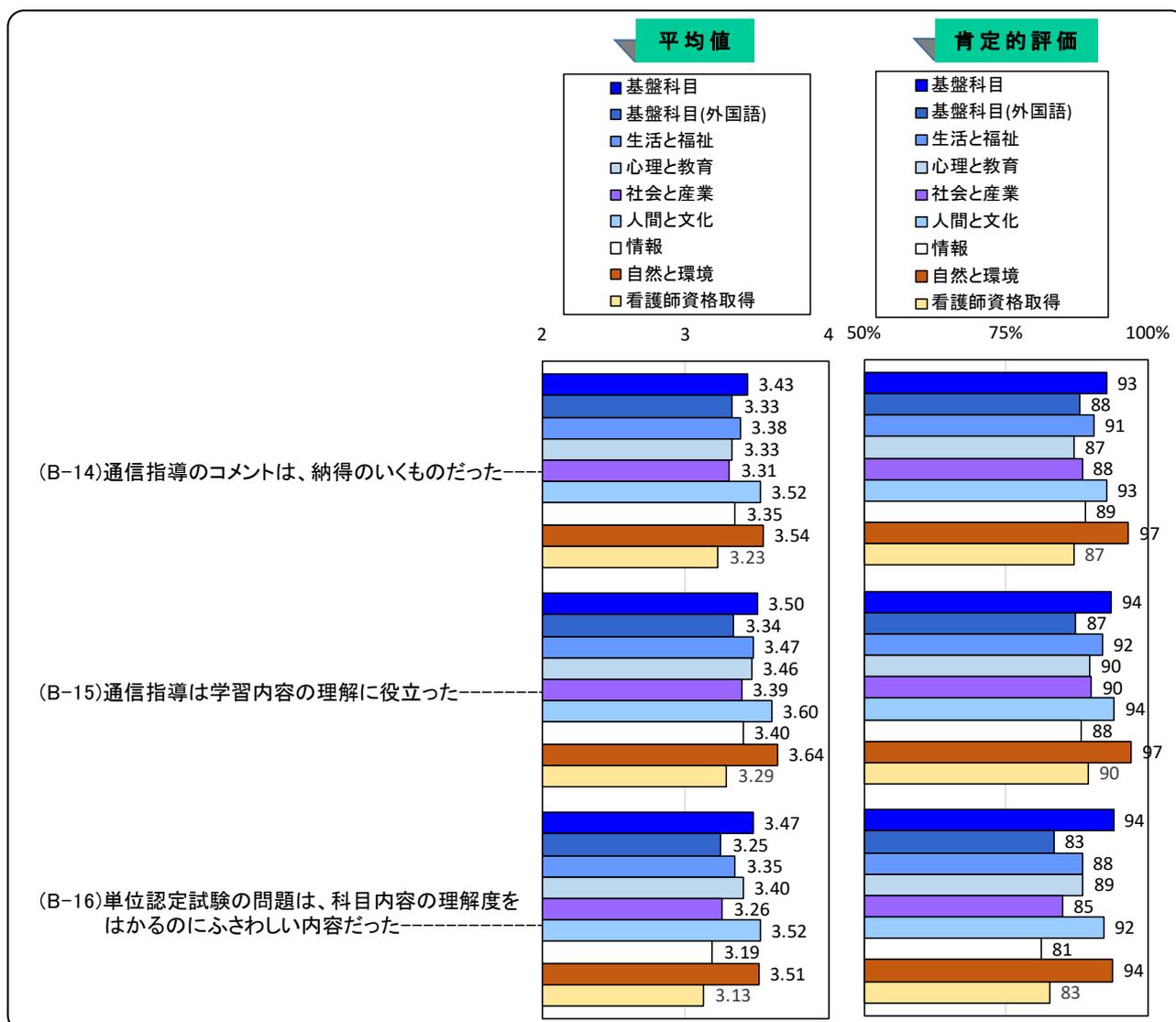
図2-46 【学部】年齢階層別の通信指導・単位認定試験の評価



所属コース別に通信指導・単位認定試験の評価を見ると（図2-47）、「基盤科目」「人間と文化」「自然と環境」が全項目で90%以上となった。

一方で、(B-14)「通信指導のコメントは、納得のいくものだった」では「心理と教育」「看護師資格取得」が87%、(B-15)「通信指導は学習内容の理解に役立った」では「基盤科目(外国語)」が87%、(B-16)「単位認定試験の問題は、科目内容の理解度をはかるのにふさわしい内容だった」では「情報」が81%と、評価が低かった。

図2-47【学部】所属コース別の通信指導・単位認定試験の評価



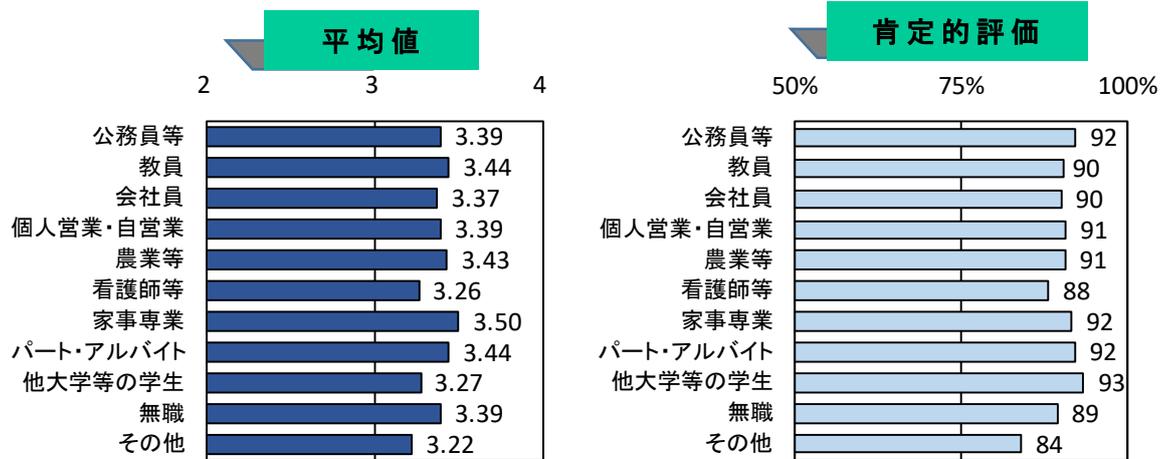
職業別に通信指導・単位認定試験の評価を見ると（次頁図2-48）、(B-14)「通信指導のコメントは、納得のいくものだった」は「他大学等の学生」(93%)と「公務員等」「家事専業」「パート・アルバイト」(92%)の評価が高く、一方で「その他」が84%と低かった。

(B-15)「通信指導は学習内容の理解に役立った」は、「家事専業」が96%で最も高く、「パート・アルバイト」が93%で続いた。最も評価が低かったのは「農業等」で86%であった。

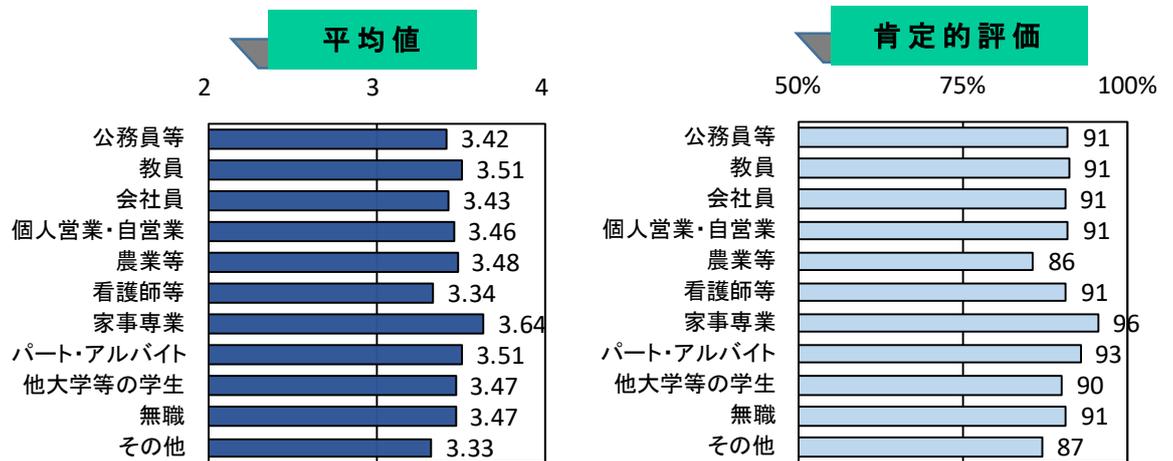
(B-16)「単位認定試験の問題は、科目内容の理解度をはかるのにふさわしい内容だった」は「家事専業」「他大学等の学生」が93%と最も高く、他に「農業等」「パート・アルバイト」がそれぞれ91%と比較的高かった。一方で、「その他」が84%と最も低かった。

図2-48【学部】職業別の通信指導・単位認定試験の評価

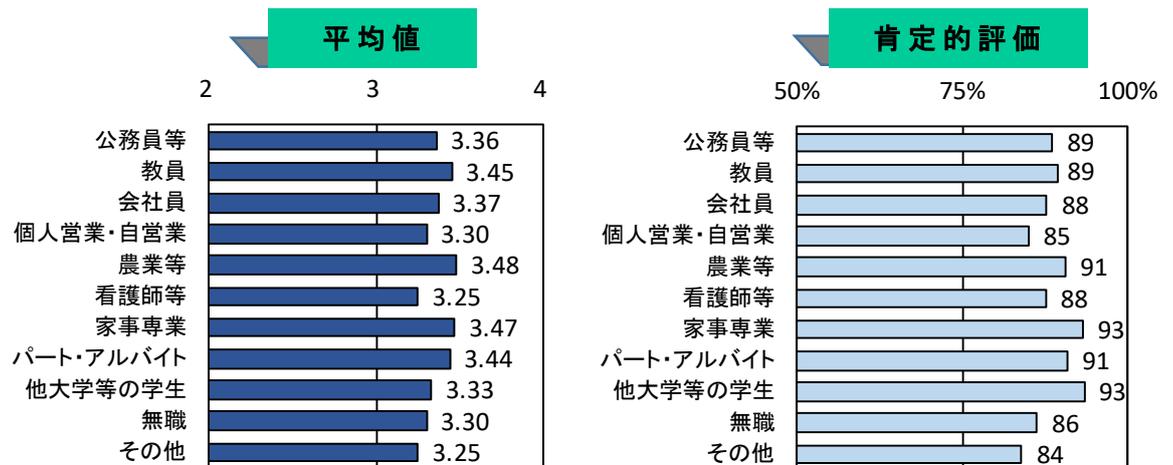
(B-14) 通信指導のコメントは、納得のいくものだった



(B-15) 通信指導は学習内容の理解に役立った



(B-16) 単位認定試験の問題は、科目内容の理解度をはかるのにふさわしい内容だった



Ⅱ-1-4. 学部の重回帰分析

重回帰分析とは、数量データである目的変数と説明変数の関係を調べ、重回帰式（モデル式）を導き出す解析手法である。

今回も、全体の満足度（B-21）「この科目の内容には全体として満足している」を目的変数とし、調査票 I.A「授業への取り組み姿勢」を除く B-1～B-20 の各項目を説明変数として分析を試みる。

本調査の選択肢はカテゴリーデータであるが、平均値の算出と同様『あてはまる→4』のように数値をポイント化する事で数量として扱い、重回帰分析を適用する。

最終的には「全体の満足度」に寄与する項目を明らかにすると共に、その影響力の強さを知る事を目的としている。

| 項目名 | 変数 | 対象 |
|------|-------------------|-------------------------|
| 目的変数 | y | 全体の満足度：B-21 |
| 説明変数 | x_1, x_2, \dots | 各項目 B-1～B-20：全 20 問（項目） |
| 係数 | a_1, a_2, \dots | 重回帰分析によって得られる偏回帰係数 |

重回帰式 $y = a_0 + a_1x_1 + a_2x_2 + \dots + a_{20}x_{20}$ （説明変数が全 20 問の場合）

分析には、IBM SPSS Statistics 24 を使用した。変数選択方法は、ステップワイズ法を採用した。変数の選択基準は、F 検定有意確率で、投入 $F \leq .05$ 、除去 $F \geq .10$ とした。VIF はすべて 10 未満で多重共線性がないことを確認したうえで重回帰分析を行った。

使用したデータは質問項目 I.B の全設問を全て回答した 5,108 人のローデータを使用した。

最終的に 9 変数が除去され、11 変数のモデルとなった。結果は以下の通りである。

■分析精度

自由度修正済み決定係数とは、得られた重回帰式が目的変数に対してどれだけ説明力（寄与度）があるかを示す指標で、「1」に近いほど良い結果で、この分析では 0.746 となった。

ダーヴィンワトソン比とは、残差同士の系列相関（自己相関）を示す指標で 0～4 までの値を示し、1 以下や 3 以上だと残差（誤差）に規則性があり、解析自体あるいはデータ自体に問題があり、「2」近辺の値ならよいとされるもので、その値は 1.987 となった。以上の結果から、問題のない結果が得られた事が示されている。

◆分析精度

| | |
|-------------|-------|
| 決定係数 | 0.746 |
| 自由度修正済み決定係数 | 0.746 |
| ダーヴィンワトソン比 | 1.987 |
| 残差の標準偏差 | 0.381 |

今回の重回帰分析は、分散分析表が示すとおり、有意水準 0.01 の判定で、かなりの精度で式の当てはまりの良さが確認できた。

(有意水準とは危険率と同義で 0.01 の場合、判定を誤る確率が 1%である事を表している。)

◆分散分析表

| 変動 | 偏差平方和 | 自由度 | 不偏分散 | 分散比 | p値 | 判定 |
|-----------|----------|-------|-------|-----------|-------|------|
| 全体変動 | 2930.300 | 5,107 | | | | |
| 回帰による変動 | 2187.387 | 11 | 199 | 1,364.031 | 0.000 | [**] |
| 回帰からの残差変動 | 742.913 | 5,096 | 0.146 | | | |

| 凡例 | 有意水準 | 凡例 | 有意水準 |
|------|------|-----|------|
| [**] | 0.01 | [*] | 0.05 |

下表にある標準偏回帰係数とは説明変数の相互比較を可能にするためのもので、各説明変数の目的変数に対する影響力の度合いがこれで分かる。

その結果から「全体の満足度(B-21)」に寄与する項目で、その寄与度が最も高かったのは、B-20「この科目の内容を全体としてよく理解できた。」(0.249)、次いで B-18「学習意欲や興味・関心が高まる授業内容だった。」(0.205)、B-19「新しい知識が身につく視野が広がった。」(0.169)と続いていた。

今後、「全体の満足度」(本年度の肯定的評価 87.4%)を上げるためには、前述の3項目、さらには、印刷教材・放送授業を充実させ、肯定的評価を上げる事が効果的であると考えられる。

| 目的変数 | 標準変回帰係数 | 説明変数 | 判定 |
|-------------|---------|--|------|
| B-21-全体の満足度 | 0.249 | B-20-この科目の内容を全体としてよく理解できた。 | [**] |
| | 0.205 | B-18-学習意欲や興味・関心が高まる授業内容だった。 | [**] |
| | 0.169 | B-19-新しい知識が身につく視野が広がった。 | [**] |
| | 0.097 | B-13-印刷教材は教材としてよくできていると感じた。 | [**] |
| | 0.083 | B-6-放送授業は教材としてよくできていると感じた。 | [**] |
| | 0.063 | B-5-<放送授業>講師の説明はポイントをおさえ、分かりやすかった。 | [**] |
| | 0.058 | B-16-単位認定試験の問題は、科目内容の理解度をはかるのにふさわしい内容だった。 | [**] |
| | 0.055 | B-17-<全体評価>授業科目案内はこの科目の内容を知る上で役に立った。 | [**] |
| | 0.042 | B-3-印刷教材の難易度は適切だった。 | [**] |
| | 0.034 | B-7-(テレビ科目の場合) テレビの特性が十分に生かされていると感じた。 (ラジオ科目の場合) 映像がなくても十分理解できる内容だと感じた。 | [**] |
| | 0.023 | B-14-<通信指導・単位認定試験>通信指導のコメントは、納得のいくものだった。 | [*] |
| | 定数項 | [**] | |

Ⅱ-2. 大学院の分析結果

Ⅱ-2-1. 項目平均から見た全体的傾向

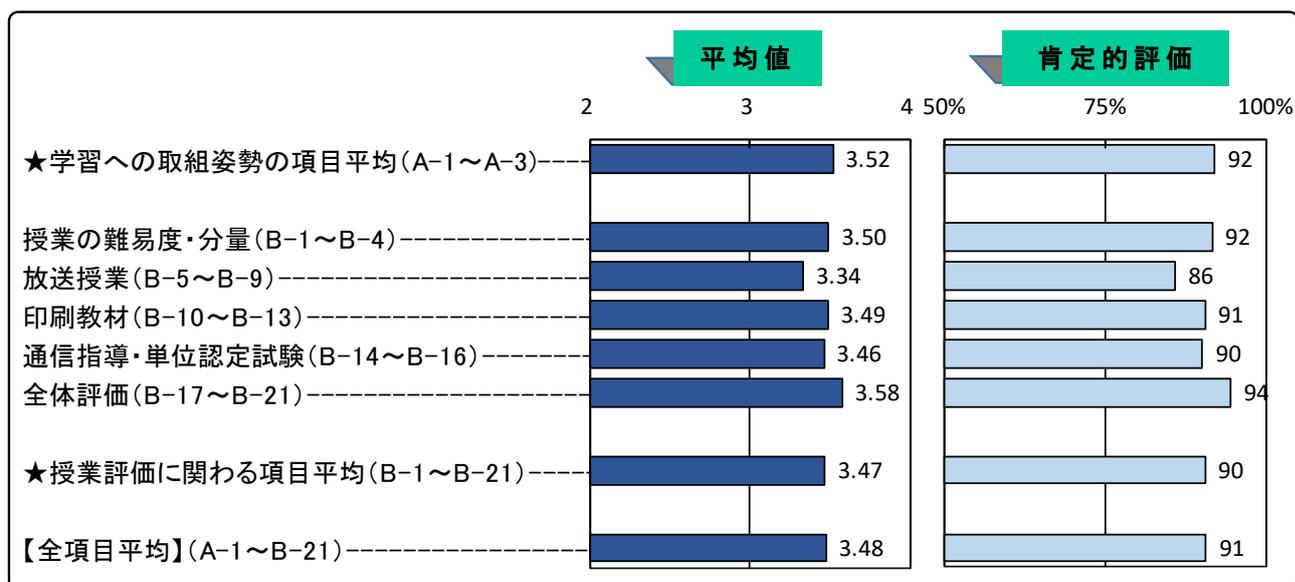
評価項目の内容ごとに回答者全体の平均値と肯定的評価を A-1～A-3 等の複数の項目の平均を算出しグラフ化（図 2-49）した。

学部同様、肯定的な評価（「あてはまる」＋「ややあてはまる」）の方が（例えば回答者の 80%）イメージしやすく、下図左側の平均値と肯定的評価に齟齬が生じた場合、どちらを採用するか合理的に判断出来ないため、コメントについては肯定的評価を用いて、平均値は参考値として扱っていきたい。

また、回答者数が小サンプルの場合、%表記にすると、誤差が大きくなるため、いずれも参考値としてグラフに記載しているが、コメントを割愛する事にする。年齢階層別の職業別の「家事専業」（7人）、「他大学等の学生」（4人）、「農業等」（2人）が挙げられる。

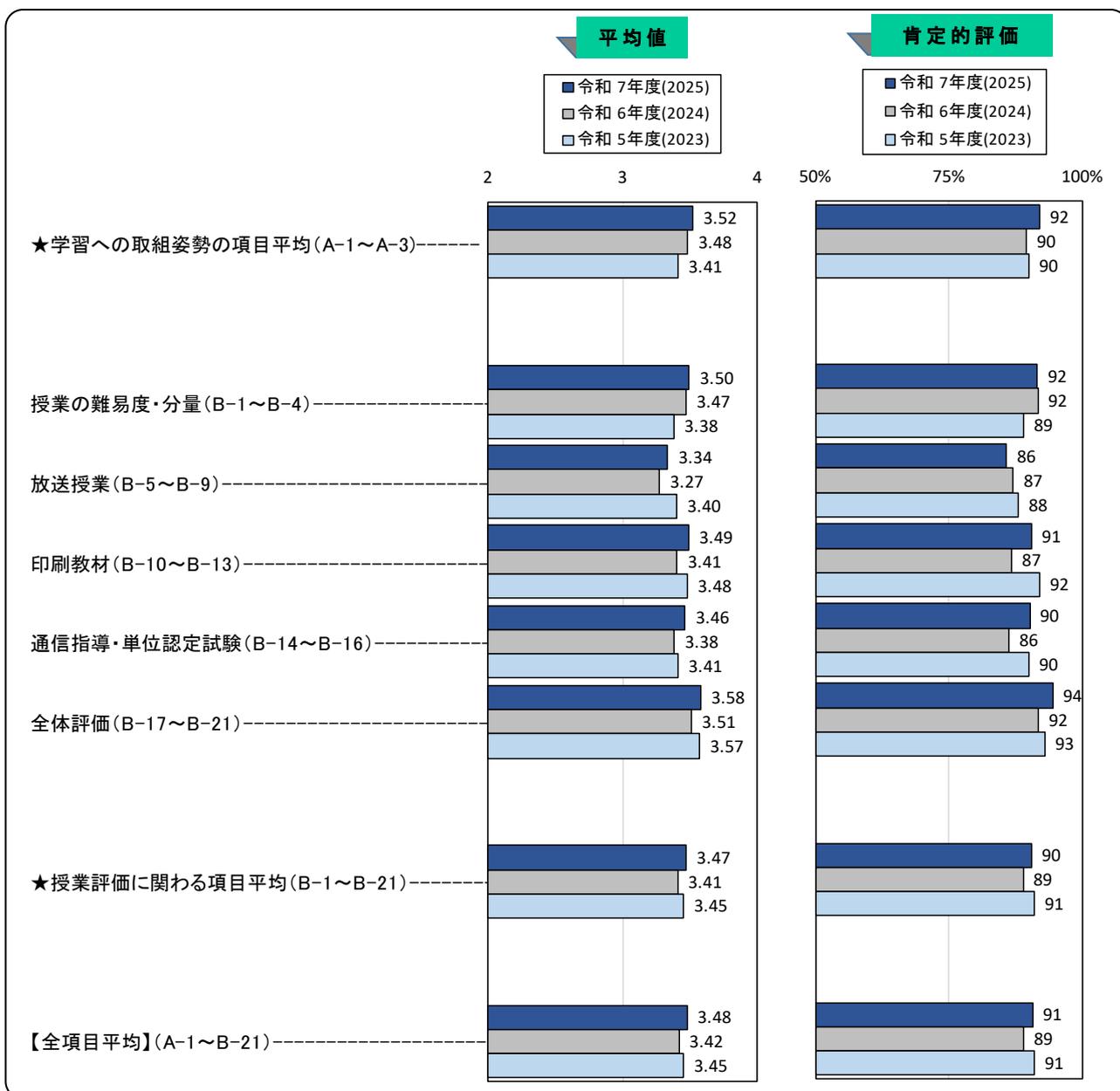
項目平均による全体的傾向をみると（図 2-49）、『放送授業』を除き 90%以上と高かったが、『放送授業』は 86%とやや評価が低かった。

図 2-49 【大学院】項目平均による全体的傾向



項目平均を科目の開設年度で比較して見ると（図2-50）、本年度は昨年度と比べ『放送授業』が1ポイント減少した他は、総じて横ばいないし2~4ポイント増加した。

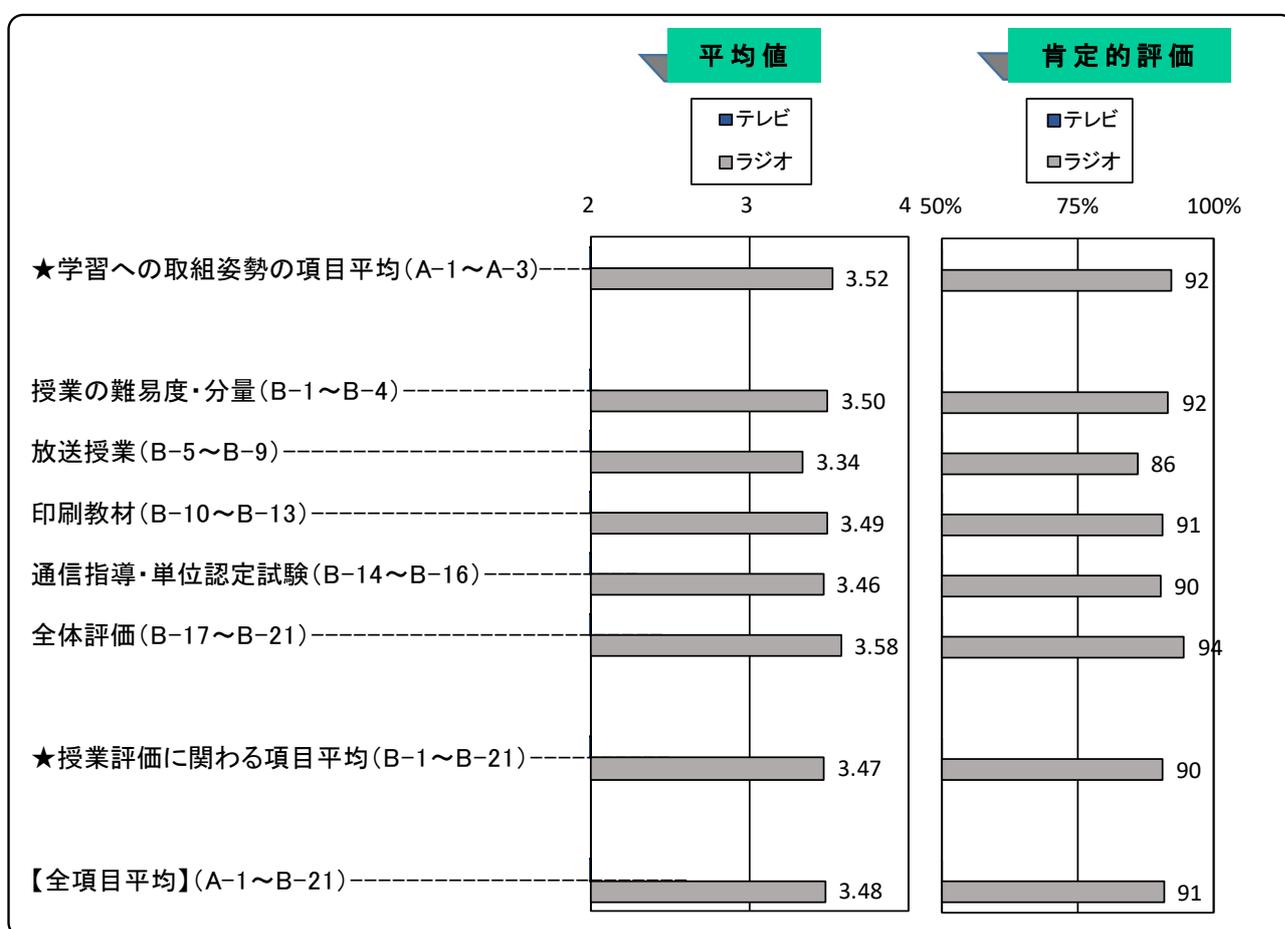
図2-50 【大学院】項目平均による全体的傾向（開設年度比較）



メディア別では、テレビ科目が調査対象ではないため全体傾向同様『放送授業』が86%とやや低かった以外は、90%以上の高い評価となった。

図2-51 【大学院】項目平均によるメディア別全体的傾向

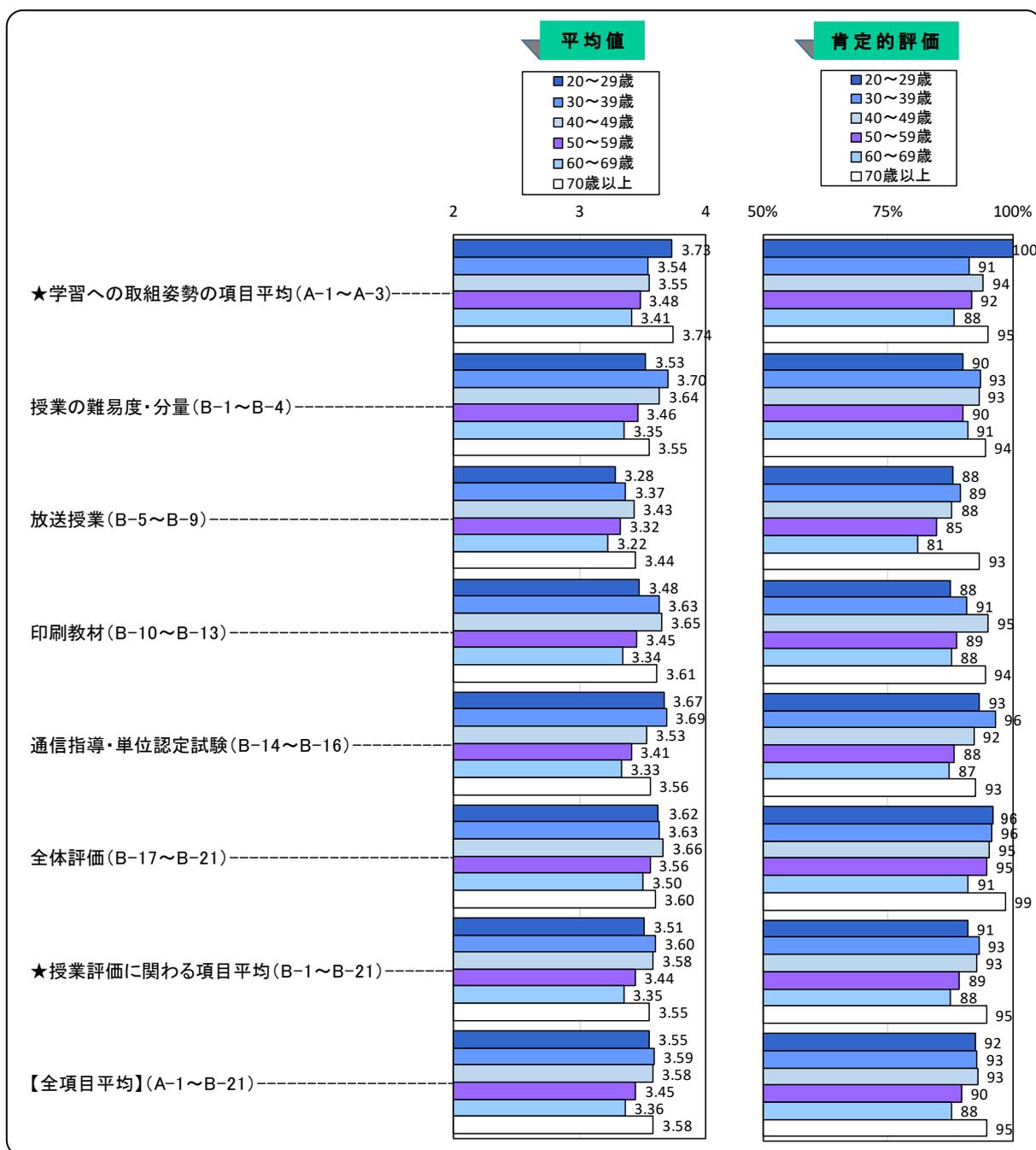
※本年度の今回調査対象科目には、大学院のテレビ科目は含まれないため、ラジオ科目のグラフのみを記載している。またこれ以降のページについても同様とする。



年齢階層別では（図2-52）、『学習への取組姿勢の項目平均』『通信指導・単位認定試験』以外では70歳以上が最も高く、『学習への取組姿勢の項目平均』では20歳代が100%、『通信指導・単位認定試験』では30歳代が96%と評価が高かった。

一方で、60歳代は『授業の難易度・分量』を除いて、最も低い評価となっていた。

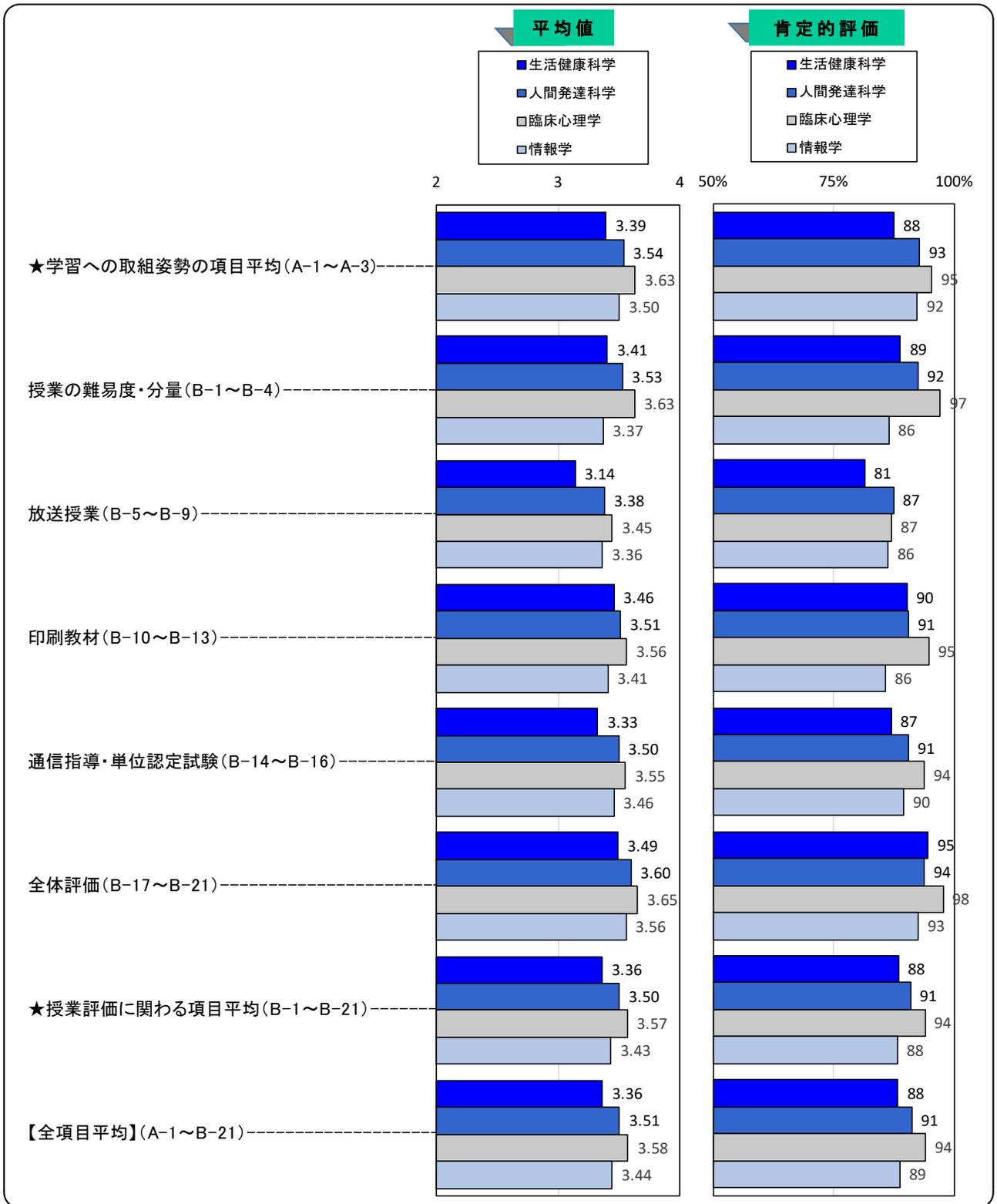
図2-52 【大学院】項目平均による年齢階層別全体的傾向



所属プログラム別に項目平均を見ると（次頁図 2 - 5 3）、「臨床心理学」は総じて評価が高く、「生活健康科学」「情報学」の評価が低かった。

『放送授業』は、最も高い「人間発達科学」「臨床心理学」でも 87% と全体的に評価が低かった。

図2-53 【大学院】項目平均による所属プログラム別全体的傾向

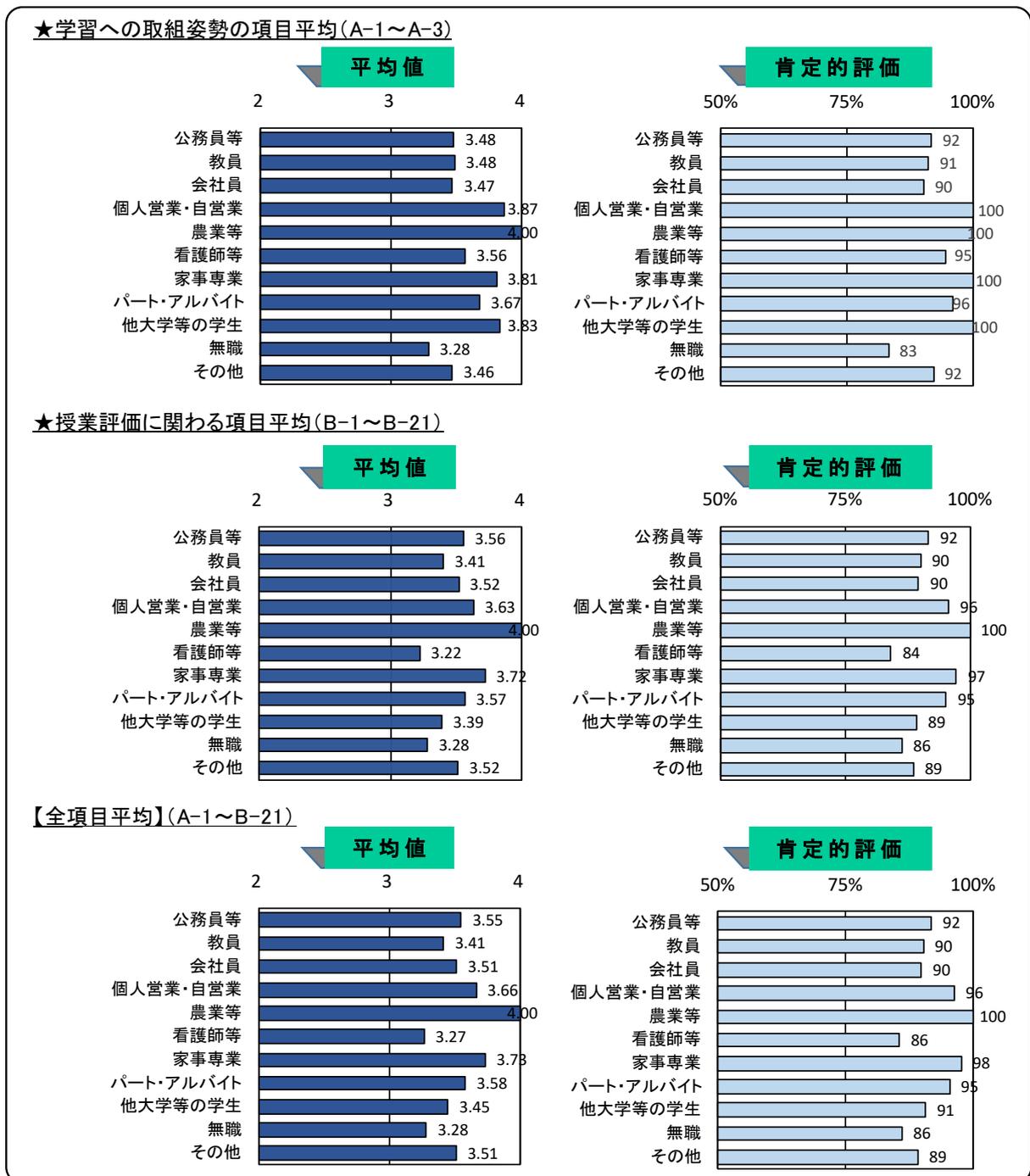


職業別では（図2-54）、全項目で「個人営業・自営業」「パート・アルバイト」が95%～100%と評価が高く、「無職」が83～86%と評価が低かった。

また『授業評価に関わる項目平均』では「看護師等」が95%、『授業評価に関わる項目平均』『【全項目平均】』では、「会社員」が92%と比較的評価が高かった。

※「家事専業」（7人）「他大学等の学生」（4人）「農業等」（2人）は回答者が少人数だった為、誤差が大きく極端な値を取る場合がある為、コメントを割愛した。また、これ以降のページも同様とする。

図2-54 【大学院】項目平均による職業別全体的傾向

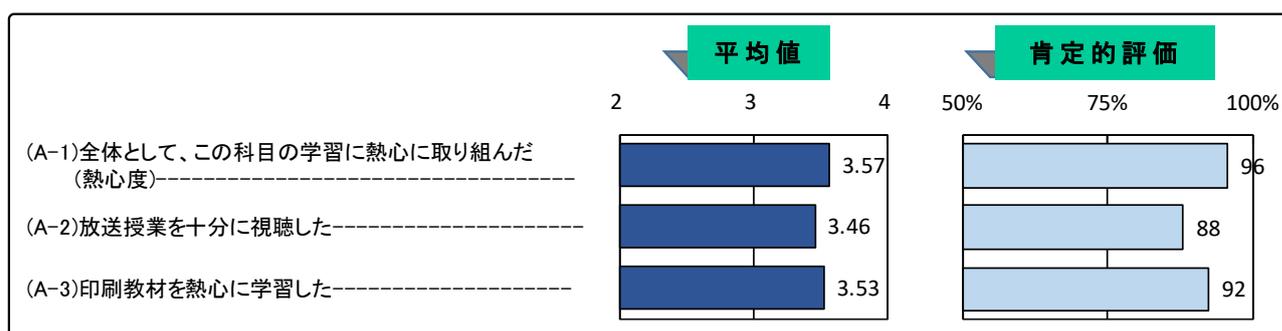


Ⅱ-2-2. 学習への取組み姿勢

ここからはそれぞれ評価項目ごとに調査結果を見ていく。

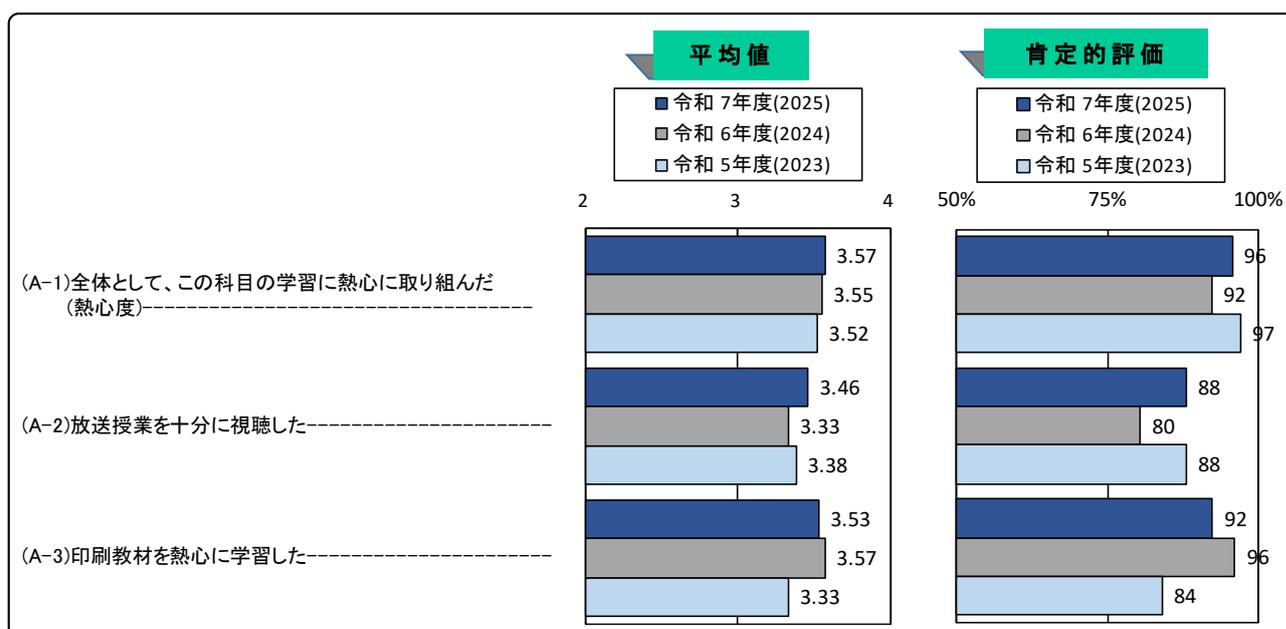
『学習への取組姿勢』（図2-55）では、(A-1)「全体としてこの科目の学習に熱心に取り組んだ（熱心度）」と (A-3)「印刷教材を熱心に学習した」は 90%以上となったが、(A-2)「放送授業を十分に視聴した」は 88%と、前述の 2 項目に比べると低かった。

図2-55 【大学院】回答者全体の取組姿勢



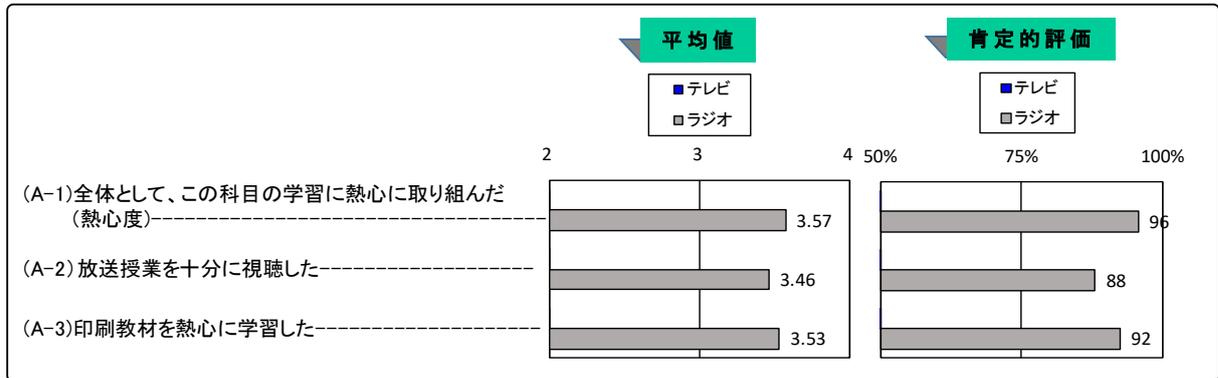
『学習への取組姿勢』を時系列で見ると（図2-56）、本年度の評価は昨年度と比べ、(A-1)「全体として、この科目の学習に熱心に取り組んだ（熱心度）」は 4 ポイント、(A-2)「放送授業を十分に視聴した」は 8 ポイント増加したものの、(A-3)「印刷教材を熱心に学習した」は 4 ポイント減少した。

図2-56 【大学院】回答者全体の取組姿勢（時系列）



メディア別の取組姿勢では（図2-57）、全体同様(A-1)「全体としてこの科目の学習に熱心に取り組んだ（熱心度）」と(A-3)「印刷教材を熱心に学習した」は90%以上となったが、(A-2)「放送授業を十分に視聴した」は88%と、前述の2項目に比べると低かった。

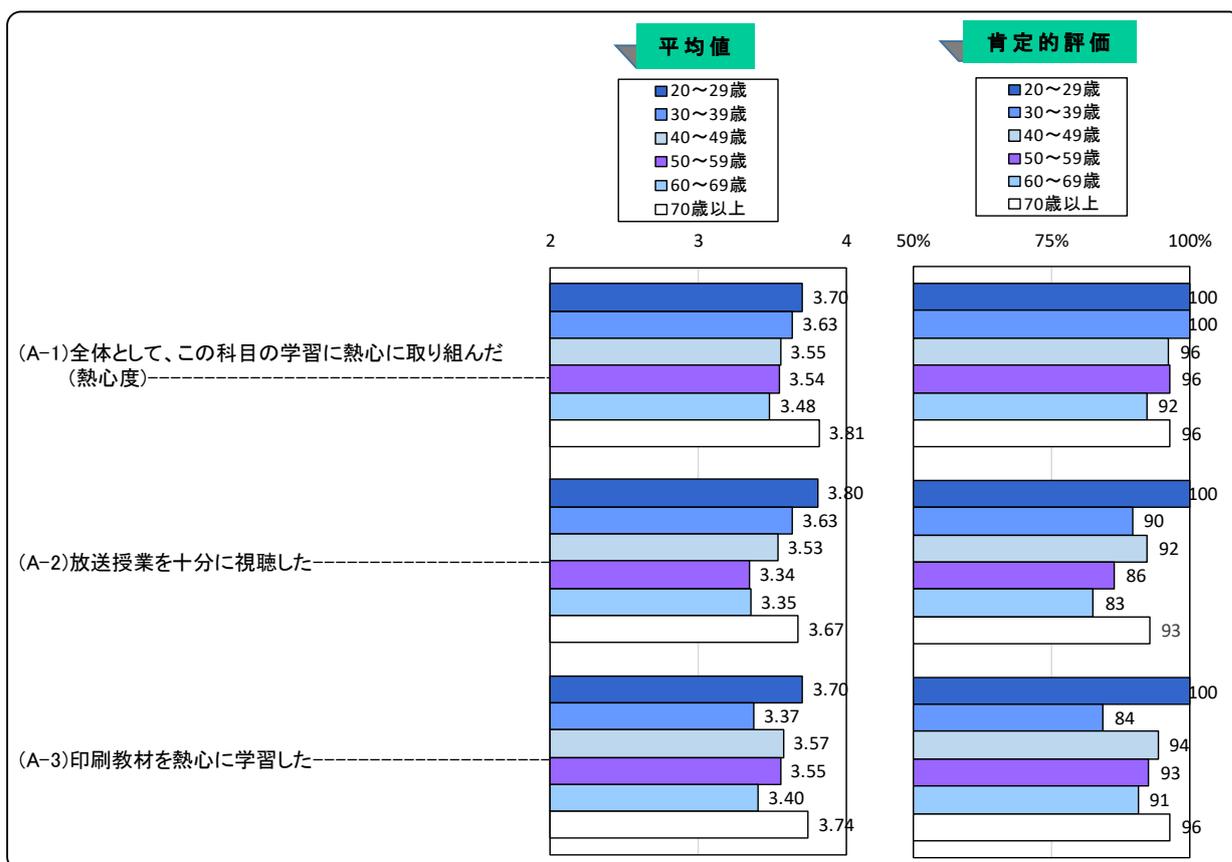
図2-57 【大学院】メディア別の取組姿勢



年齢階層別では（図2-58）、(A-1)「全体として、この科目の学習に熱心に取り組んだ（熱心度）」は、20歳代、30歳代の100%を始め、最も低い60歳代でも92%と全世代で熱心に取り組んだ様子が見えてきた。

一方で(A-2)「放送授業を十分に視聴した」は、20歳代が100%と高かったものの、50歳代は86%、60歳代では83%、(A-3)「印刷教材を熱心に学習した」については、30歳代が84%と世代間で差が出た。

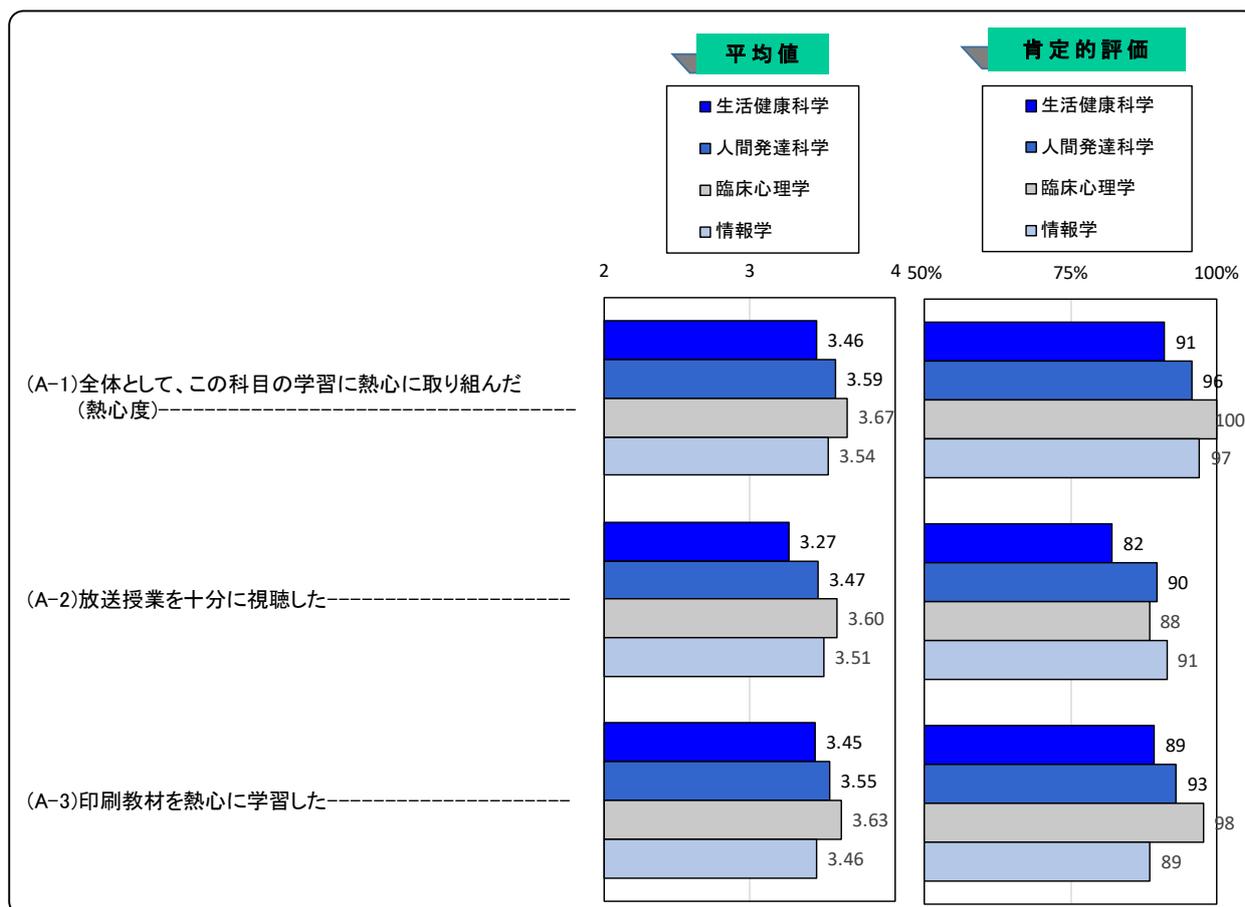
図2-58 【大学院】年齢階層別の取組姿勢



所属プログラム別の取組姿勢（図2-59）では、(A-1)「全体としてこの科目の学習に熱心に取り組んだ（熱心度）」、(A-3)「印刷教材を熱心に学習した」では「臨床心理学」の評価が最も高かった。

一方で(A-2)「放送授業を十分に視聴した」は、「生活健康科学」の82%を始め、他2項目と比較すると、全体的に評価が低かった。

図2-59 【大学院】所属プログラム別の取組姿勢



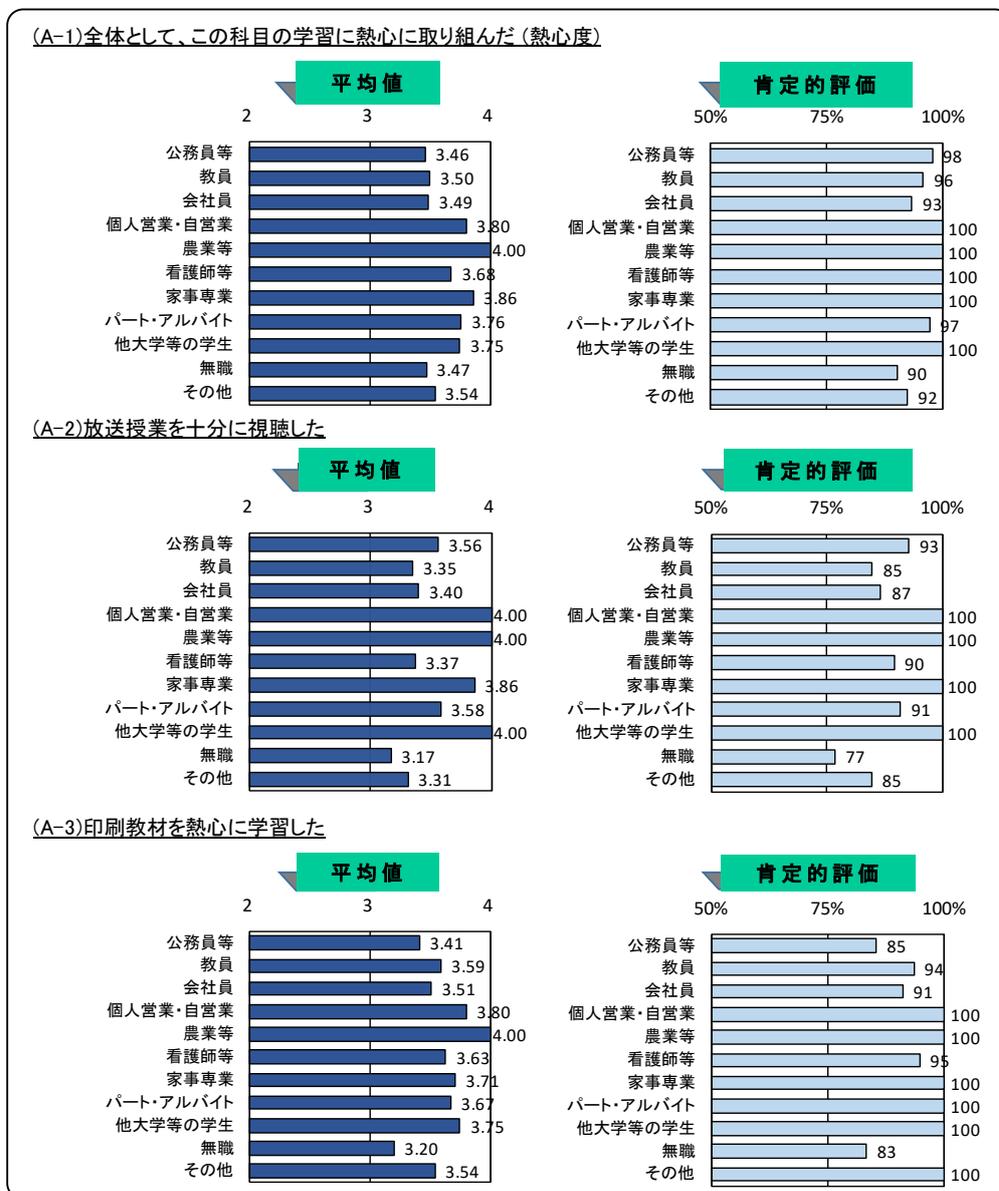
職業別の取組姿勢は（図2-60）、(A-1)「全体としてこの科目の学習に熱心に取り組んだ（熱心度）」では、「個人営業・自営業」「看護師等」が100%と最も高かった。また最も低い「無職」でも90%となっており全体的に評価が高かった。

(A-2)「放送授業を十分に視聴した」は「個人営業・自営業」が100%と最も高かった。一方で「無職」が77%と最も低く、次いで「教員」「その他」が85%、「会社員」が87%となった。

(A-3)「印刷教材を熱心に学習した」については、「公務員等」「無職」以外は90%以上となった。

※「家事専業」(7人)「他大学等の学生」(4人)「農業等」(2人)は回答者が少人数だった為、誤差が大きく極端な値を取る場合がある為、コメントを割愛した。また、これ以降のページも同様とする。

図2-60【大学院】職業別の取組姿勢



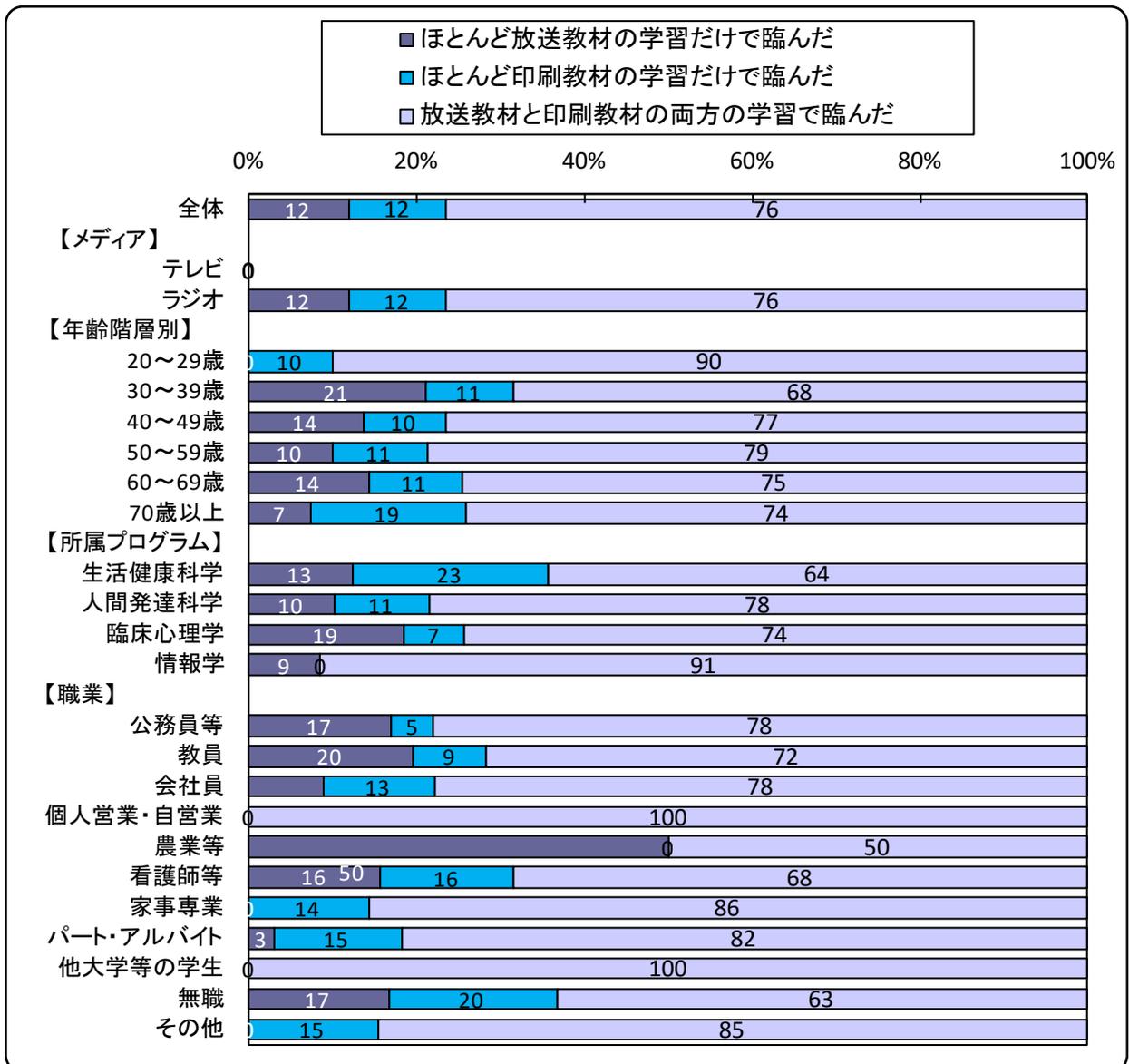
単位認定のための学習方法（図2-61）を見ると全体では、「放送教材と印刷教材の両方の学習で臨んだ」が76%と大半を占め、「ほとんど印刷教材の学習だけで臨んだ」「ほとんど放送教材の学習だけで臨んだ」は12%と同割合であった。

年齢階層別では、20歳代は「放送教材と印刷教材の両方の学習で臨んだ」が90%と、他の年代に比べ高かった。

所属プログラム別では、「放送教材と印刷教材の両方の学習で臨んだ」が「情報学」では91%と、「生活健康科学」の64%を大きく上回った。

「個人営業・自営業」は、「放送教材と印刷教材の両方の学習で臨んだ」が100%と、他の職業と比べ高かった。

図2-61 【大学院】単位認定のための学習方法



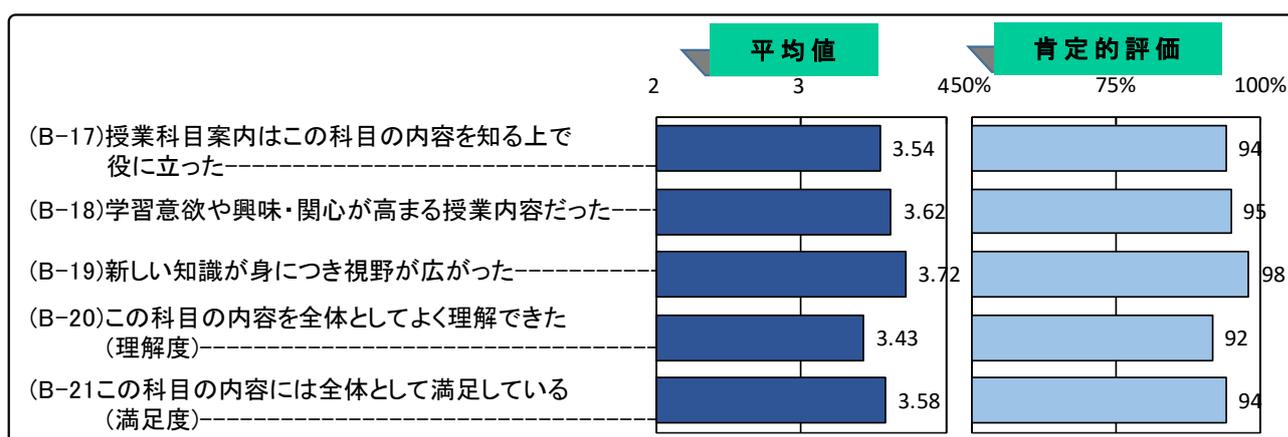
Ⅱ－2－3. 大学院の授業評価

ここからは大学院の授業評価について、評価項目ごとに見ていくことにする。

全体評価の項目では（図2－62）、(B-19)「新しい知識が身につく視野が広がった」が98%と最も評価が高かった。

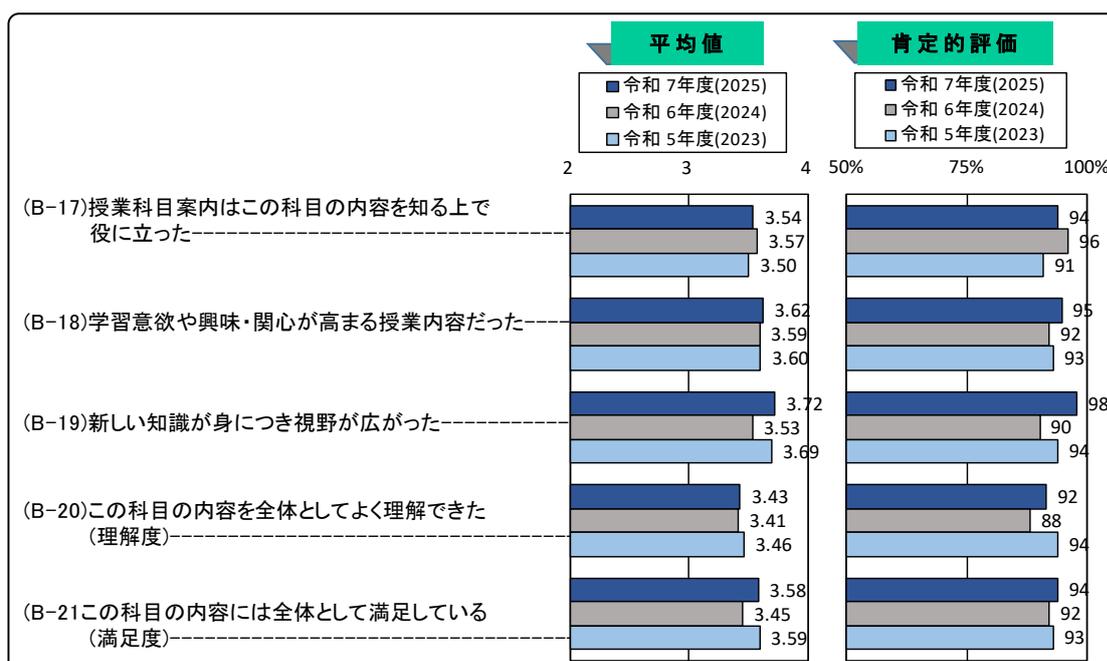
総じて肯定的評価は90%を超えており、最も低かった(B-20)「この科目の内容を全体としてよく理解できた」でも92%であった。

図2－62【大学院】回答者全体の全体評価



全体評価を時系列で見ると（図2－63）、(B-17)「授業科目案内はこの科目の内容を知る上で役に立った」が94%と昨年度と比べ2ポイント減少した以外は、肯定的評価が2～8ポイント増加していた。

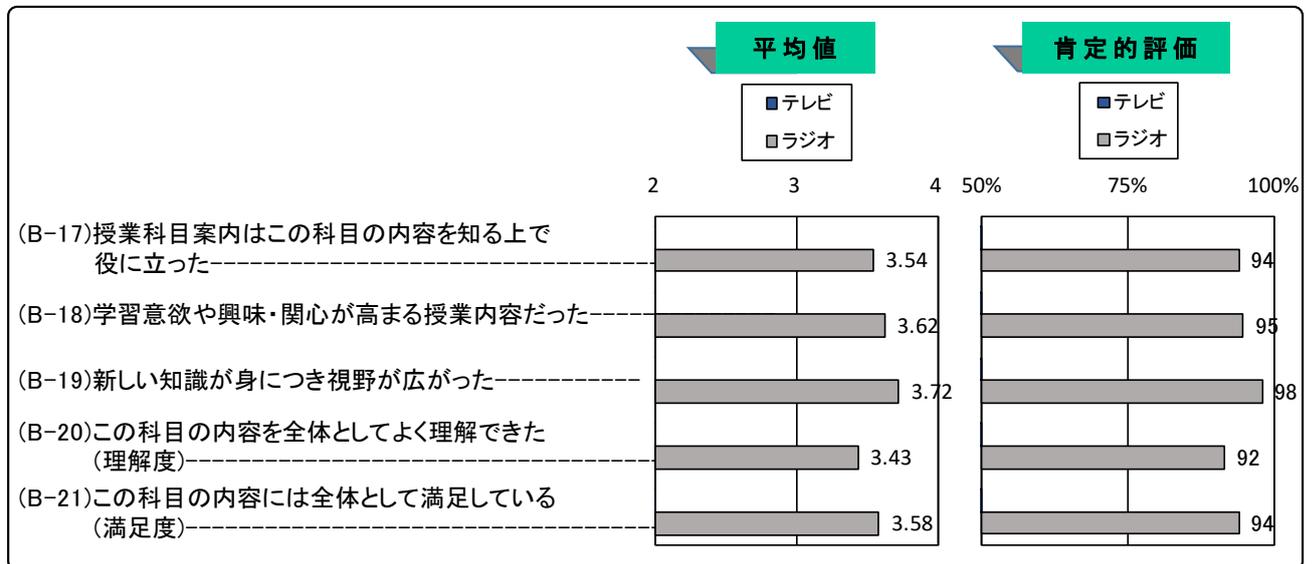
図2－63【大学院】回答者全体の全体評価（時系列）



ラジオ科目では（図2-64）のみのため、全体と傾向は変わらず、(B-19)「新しい知識が身につく視野が広がった」が98%と最も評価が高かった。

総じて肯定的評価は90%を超えており、最も低かった(B-20)「この科目の内容を全体としてよく理解できた」でも92%であった。

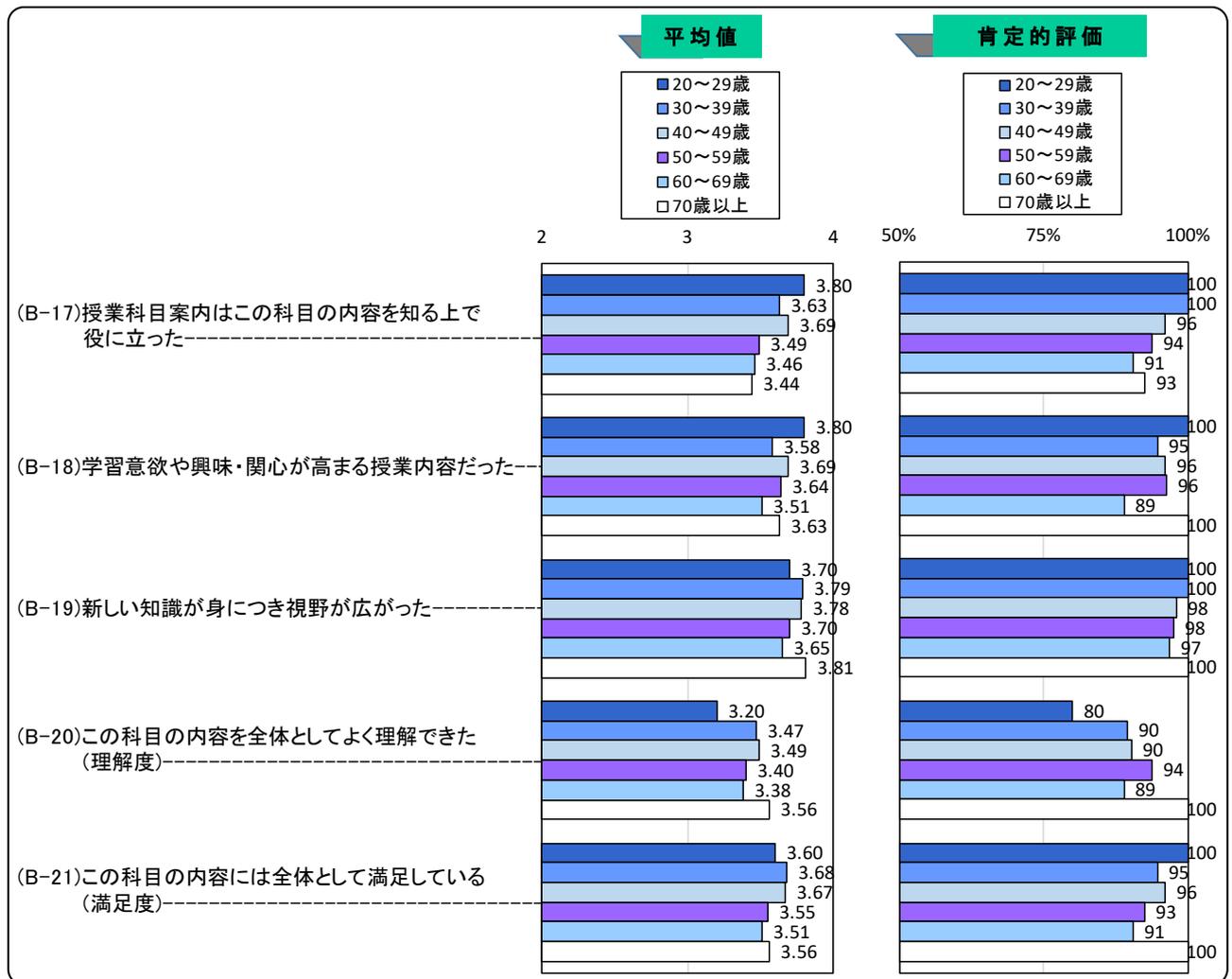
図2-64【大学院】メディア別の全体評価



年齢階層別では（図2-65）、20歳代は(B-20)「この科目の内容を全体としてよく理解できた」、70歳代は(B-17)「授業科目案内はこの科目の内容を知る上で役に立った」以外は、100%と評価が高かった。

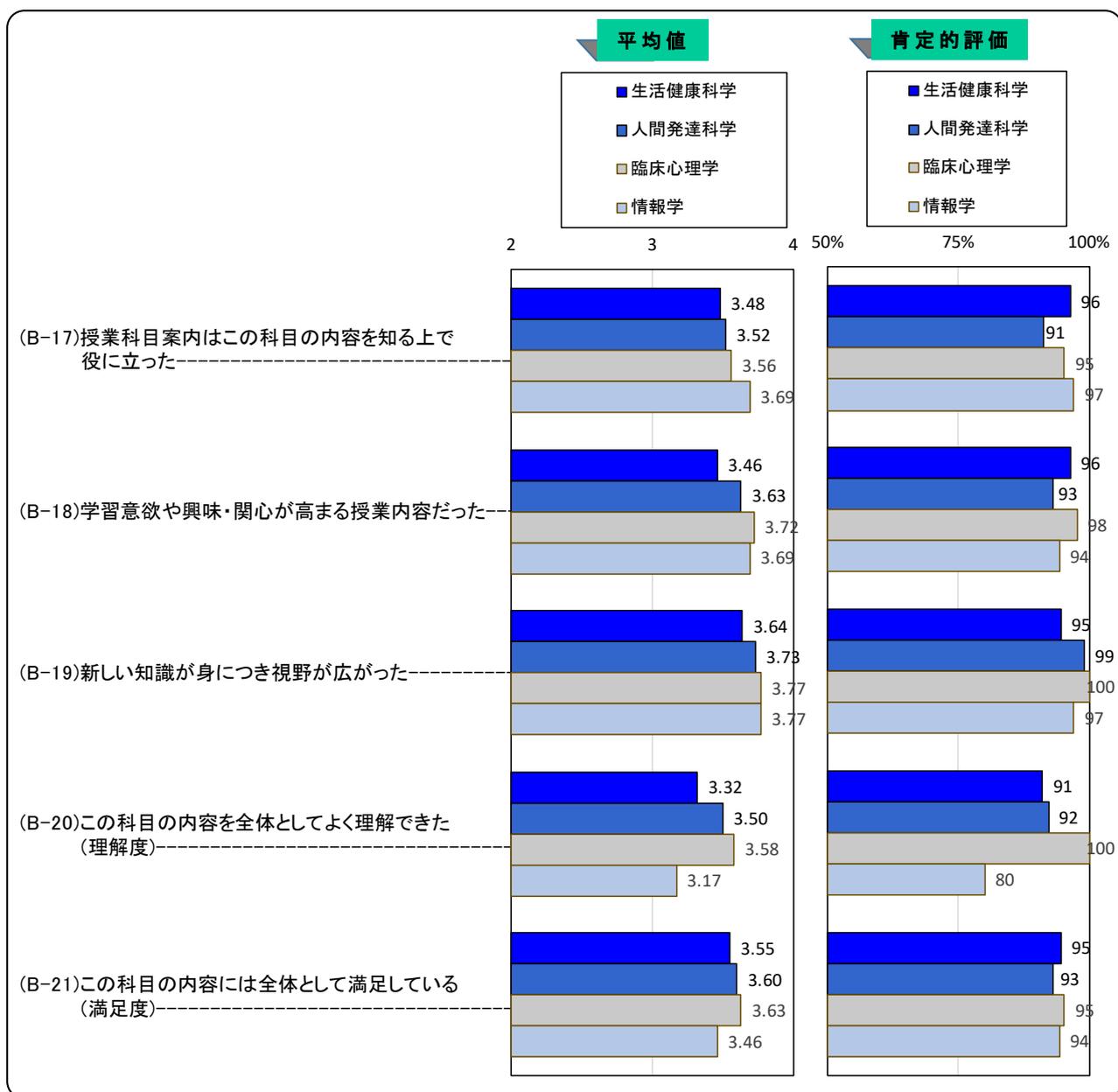
一方で、60歳代は(B-19)「新しい知識が身につく視野が広がった」が97%となった他は、90%前後と他年代と比較するとやや評価が低めであった。

図2-65【大学院】年齢階層別の全体評価



所属プログラム別に全体評価を見ると（図2-66）、(B-17)「授業科目案内はこの科目の内容を知る上で役に立った」で「情報学」が97%と最も高い評価となった以外は、「臨床心理学」の評価が高く、(B-19)「新しい知識が身につき視野が広がった」、(B-20)「この科目の内容を全体としてよく理解できた」では100%であった。

図2-66【大学院】所属プログラム別の全体評価



職業別（次頁図2-67）では、(B-17)「授業科目案内はこの科目の内容を知る上で役に立った」は、「パート・アルバイト」「その他」の評価が100%と最も高かった一方で、「看護師等」が79%と顕著に低かった。

(B-18)「学習意欲や興味・関心が高まる授業内容だった」は、「個人営業・自営業」は100%と評価が高かった一方で、「無職」は87%と評価が低かった。

(B-19)「新しい知識が身につく視野が広がった」は、「公務員等」「教員」「個人営業・自営業」「パート・アルバイト」「その他」は100%と評価が高かった。最も低い「無職」も90%と全体的に評価が高い項目であった。

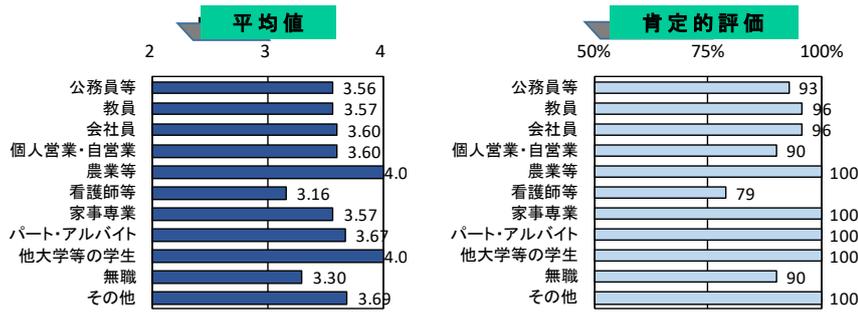
(B-20)「この科目の内容を全体としてよく理解できた(理解度)」については、「パート・アルバイト」は97%と評価が高かったが、「無職」は83%と評価が低かった。

(B-21)「この科目の内容には全体として満足している(満足度)」では「個人営業・自営業」「パート・アルバイト」は100%であった一方で、「看護師等」は84%と低い評価であった。

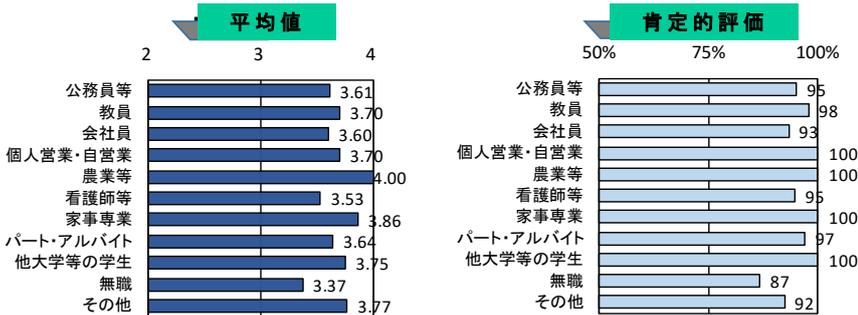
※「家事専業」(7人)「他大学等の学生」(4人)「農業等」(2人)は回答者が少人数だった為、誤差が大きく極端な値を取る場合がある為、コメントを割愛した。また、これ以降のページも同様とする。

図 2-67 【大学院】職業別の全体評価

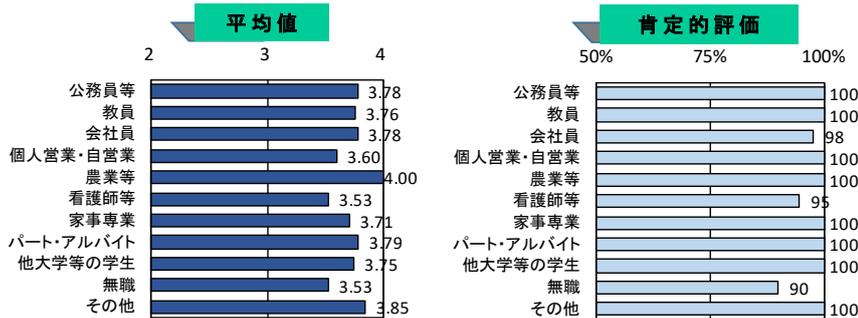
(B-17) 授業科目案内はこの科目の内容を知る上で役に立った



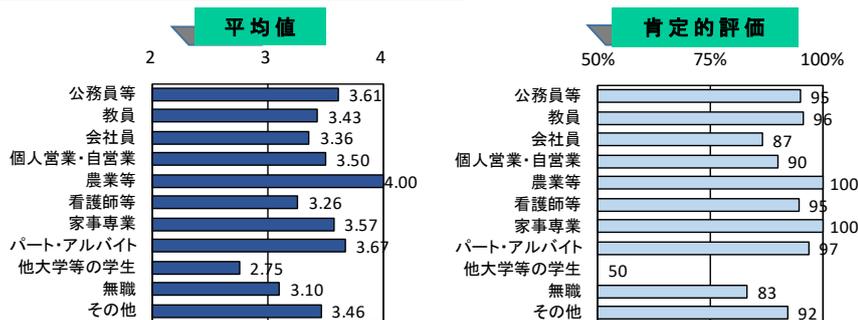
(B-18) 学習意欲や興味・関心が高まる授業内容だった



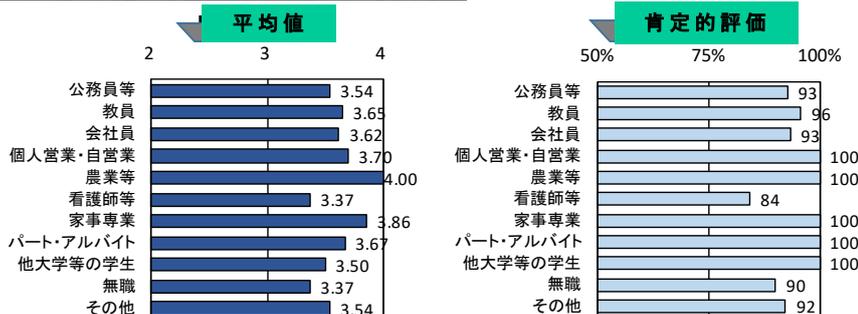
(B-19) 新しい知識が身につつき視野が広がった



(B-20) この科目の内容を全体としてよく理解できた(理解度)



(B-21) この科目の内容には全体として満足している(満足度)

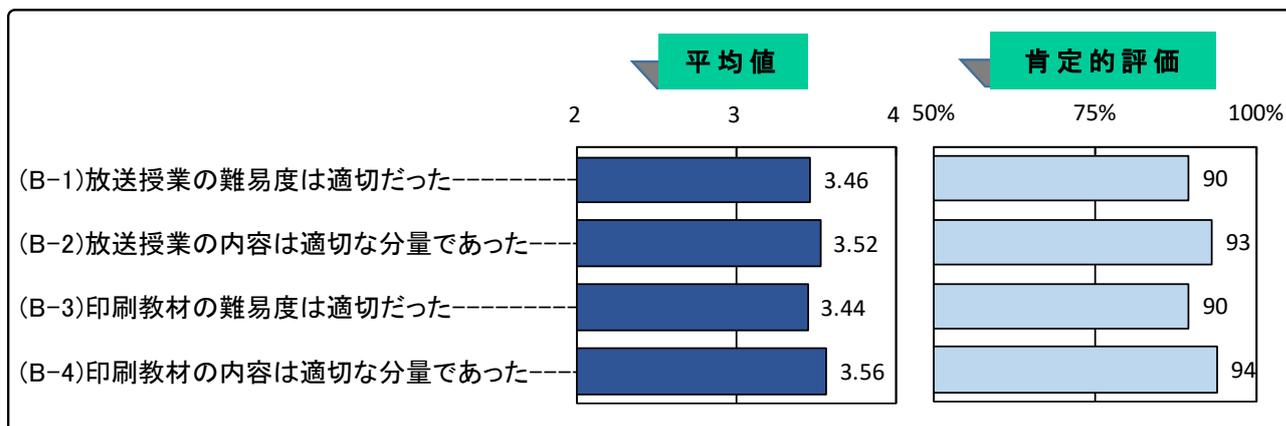


(2) 授業の難易度・分量

次に授業の難易度・分量について評価項目ごとに見ていく。

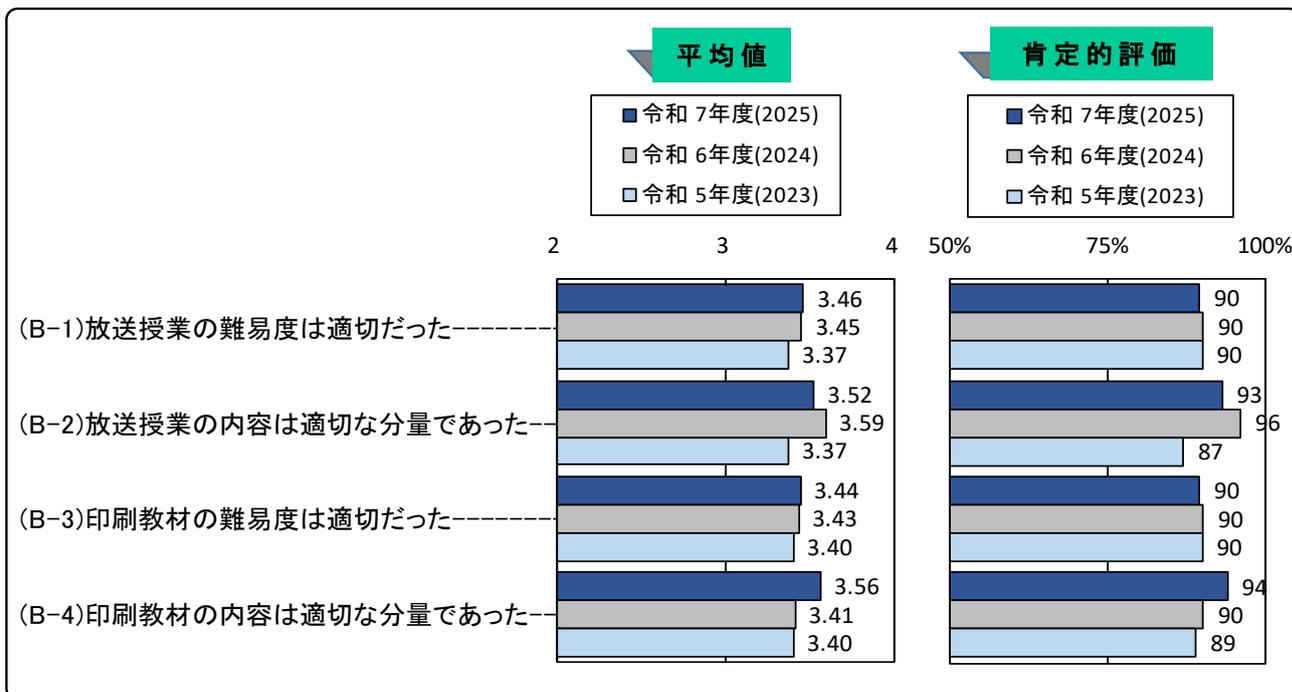
授業の難易度・分量の評価は（図2-68）は、全ての項目で90～94%と評価が高かった。

図2-68 【大学院】回答者全体の授業難易度・分量の評価



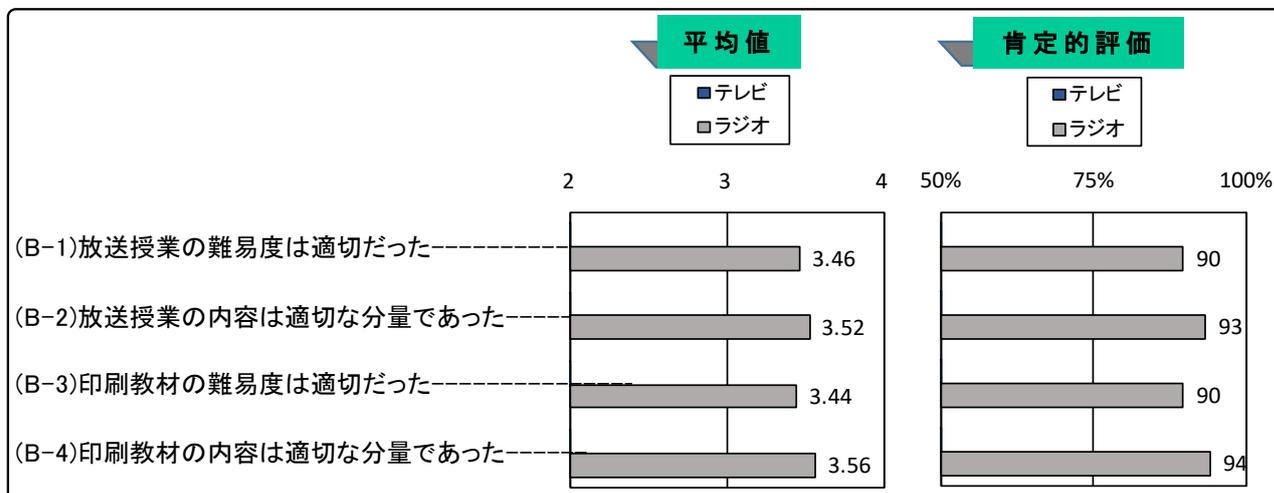
開設年度別では（図2-69）、本年度と昨年度を比較すると、(B-2)「放送授業の内容は適切な分量であった」は3ポイント減の93%となったのに対して、(B-4)「印刷教材の内容は適切な分量であった」は4ポイント増の94%となった。

図2-69 【大学院】回答者全体の授業難易度・分量の評価（開設年度比較）



ラジオ科目では（図2-70）、全体傾向同様、(B-4)「印刷教材の内容は適切な分量であった」が94%と最も評価が高かった。

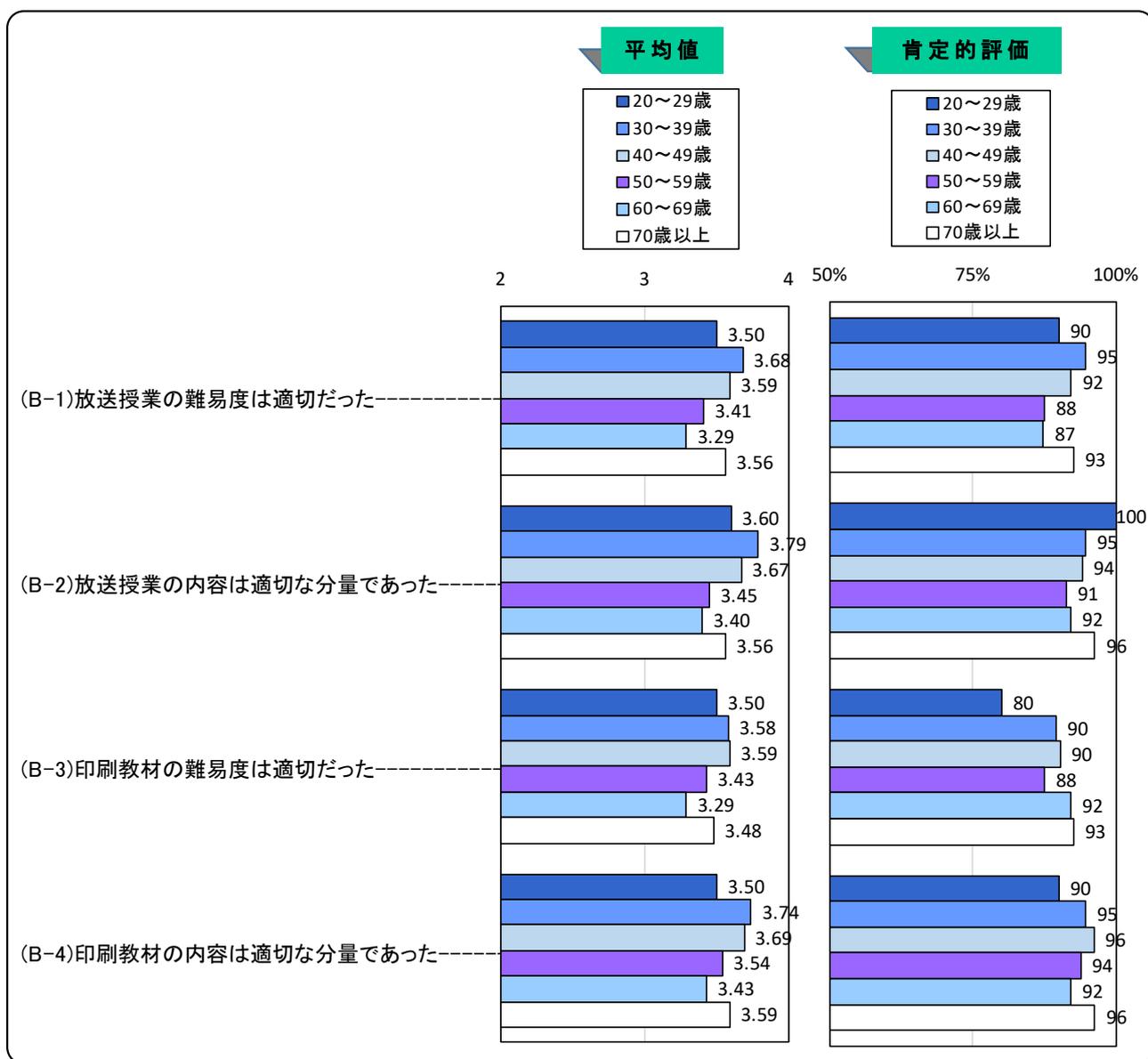
図2-70 【大学院】メディア別の授業難易度・分量の評価



年齢階層別に授業の難易度・分量を見ると（図2-71）、(B-1)「放送授業の難易度は適切だった」では30歳代が95%、(B-2)「放送授業の内容は適切な分量であった」では20歳代が100%、(B-3)「印刷教材の難易度は適切だった」(93%)、(B-4)「印刷教材の内容は適切な分量であった」(96%)では60歳代の評価が最も高かった。

一方で(B-1)「放送授業の難易度は適切だった」では、50歳代が88%、60歳代が87%、(B-3)「印刷教材の難易度は適切だった」では20歳代が80%と評価が低かった。

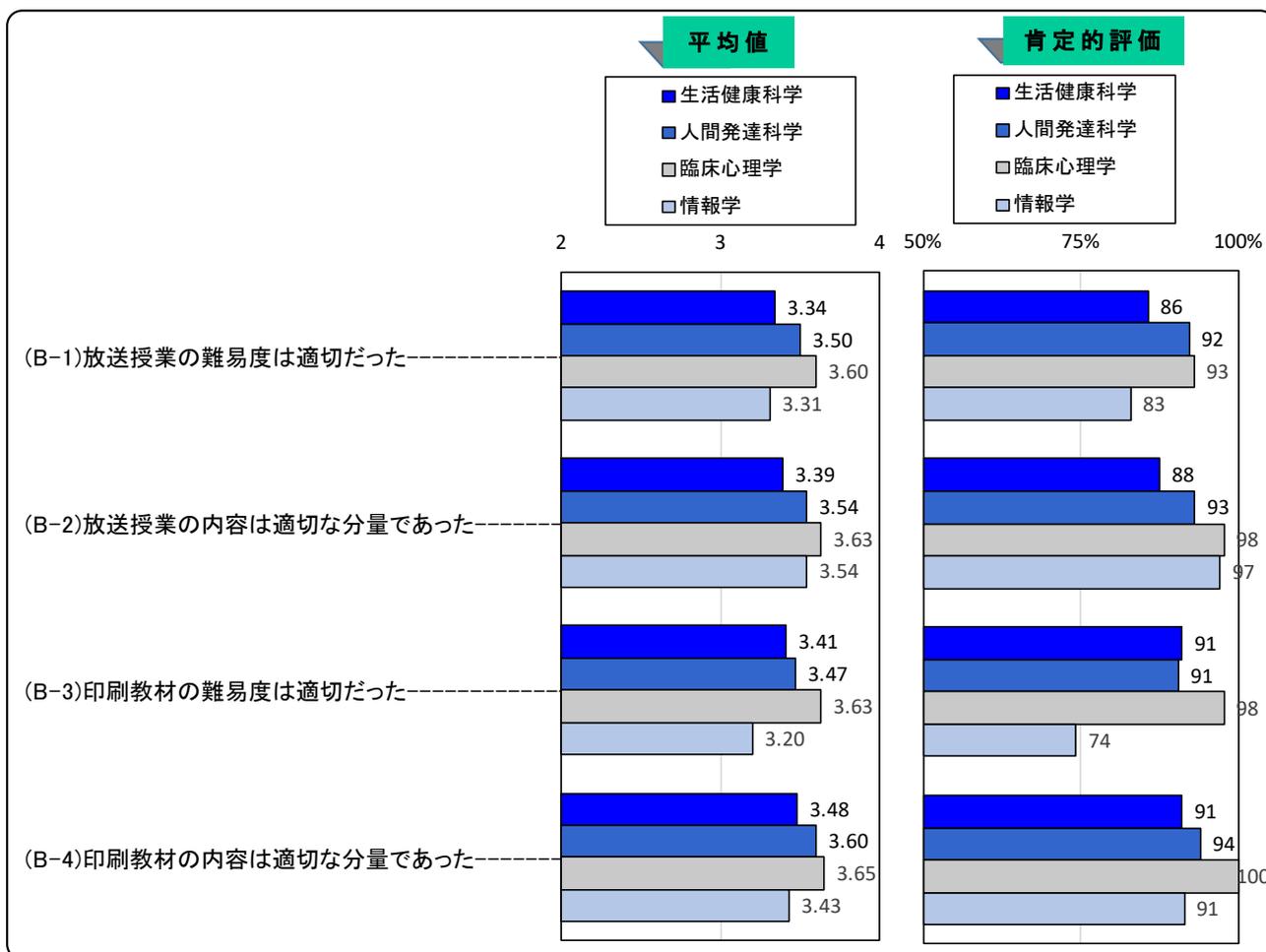
図2-71 【大学院】年齢階層別の授業難易度・分量の評価



所属プログラム別に授業の難易度・分量を見ると、全項目で「臨床心理学」が最も高い評価となった。また、(B-1)「放送授業の難易度は適切だった」では「人間発達科学」、(B-2)「放送授業の内容は適切な分量であった」では「情報学」も比較的高い評価となっていた。

一方で(B-3)「印刷教材の難易度は適切だった」では「情報学」が74%と顕著に低い評価となった。

図2-72【大学院】所属プログラム別の授業難易度・分量の評価

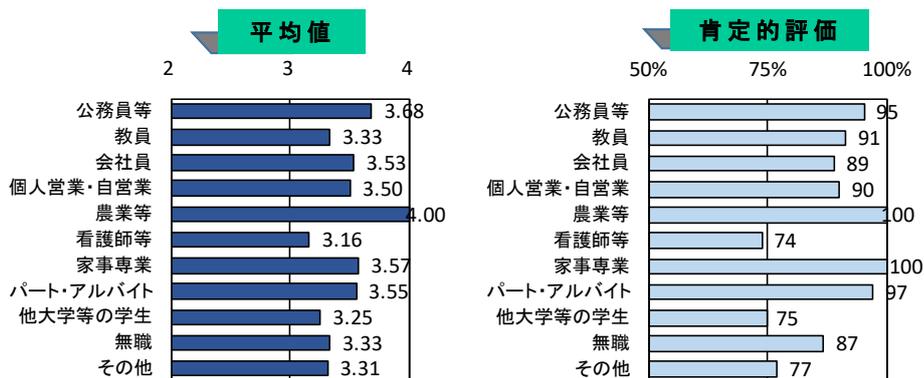


職業別に授業の難易度を見ると（次頁図2-73）、全ての項目で「公務員等」「個人営業・自営業」「パート・アルバイト」は90%以上と高い評価であった。一方で、「看護師等」「その他」は(B-1)「放送授業の難易度は適切だった」が74~77%、(B-2)「放送授業の内容は適切な分量であった」が84~85%となるなど、比較的評価が低かった。

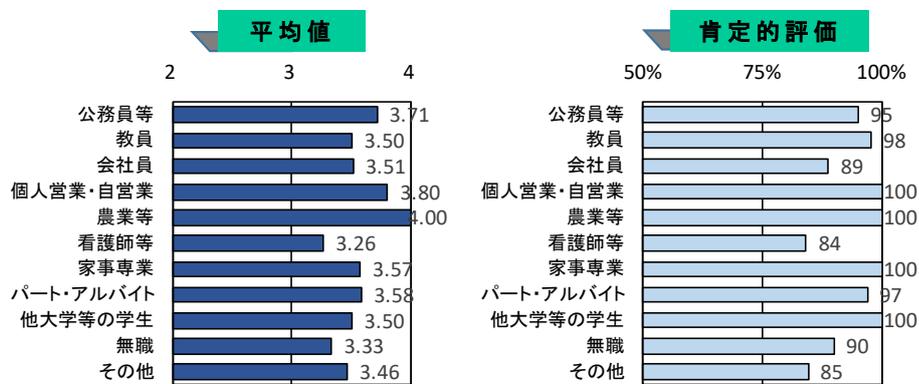
※「家事専業」（7人）「他大学等の学生」（4人）「農業等」（2人）は回答者が少人数だった為、誤差が大きく極端な値を取る場合がある為、コメントを割愛した。また、これ以降のページも同様とする。

図2-73【大学院】職業別の授業難易度の評価

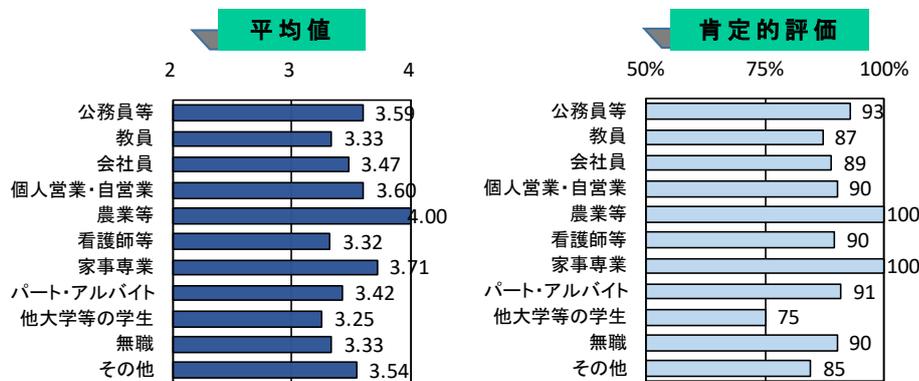
(B-1)放送授業の難易度は適切だった



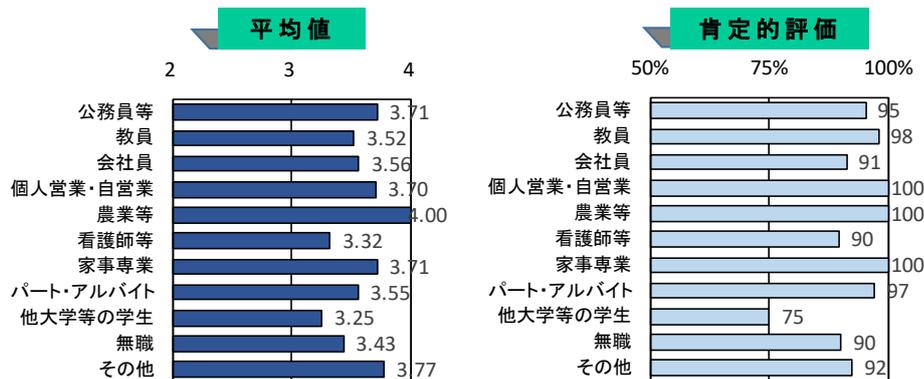
(B-2) 放送授業の内容は適切な分量であった



(B-3)印刷教材の難易度は適切だった



(B-4) 印刷教材の内容は適切な分量であった

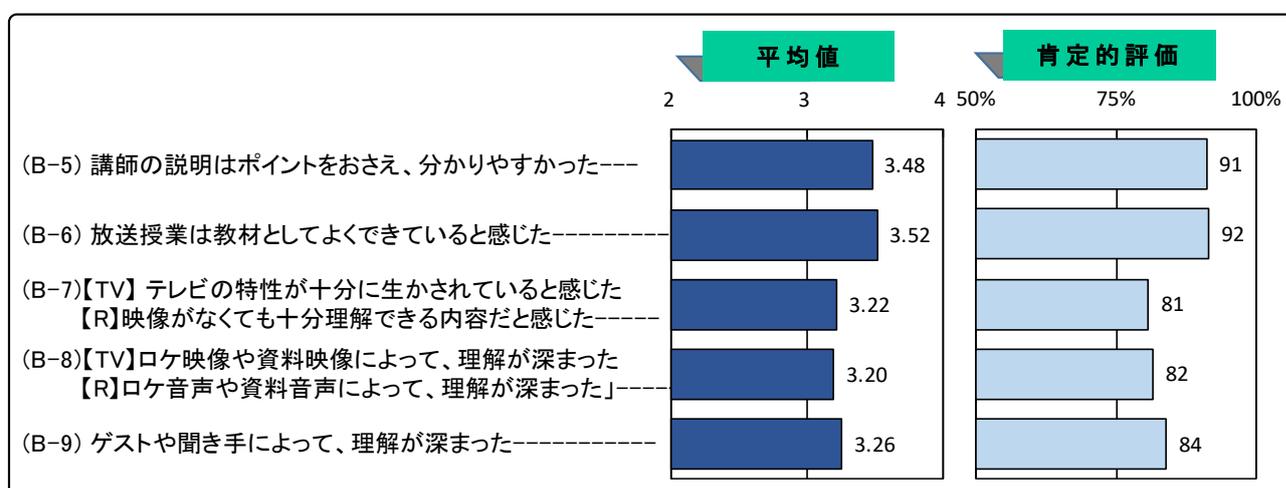


(3) 放送授業

ここからは放送授業について評価項目ごとに見ていく。

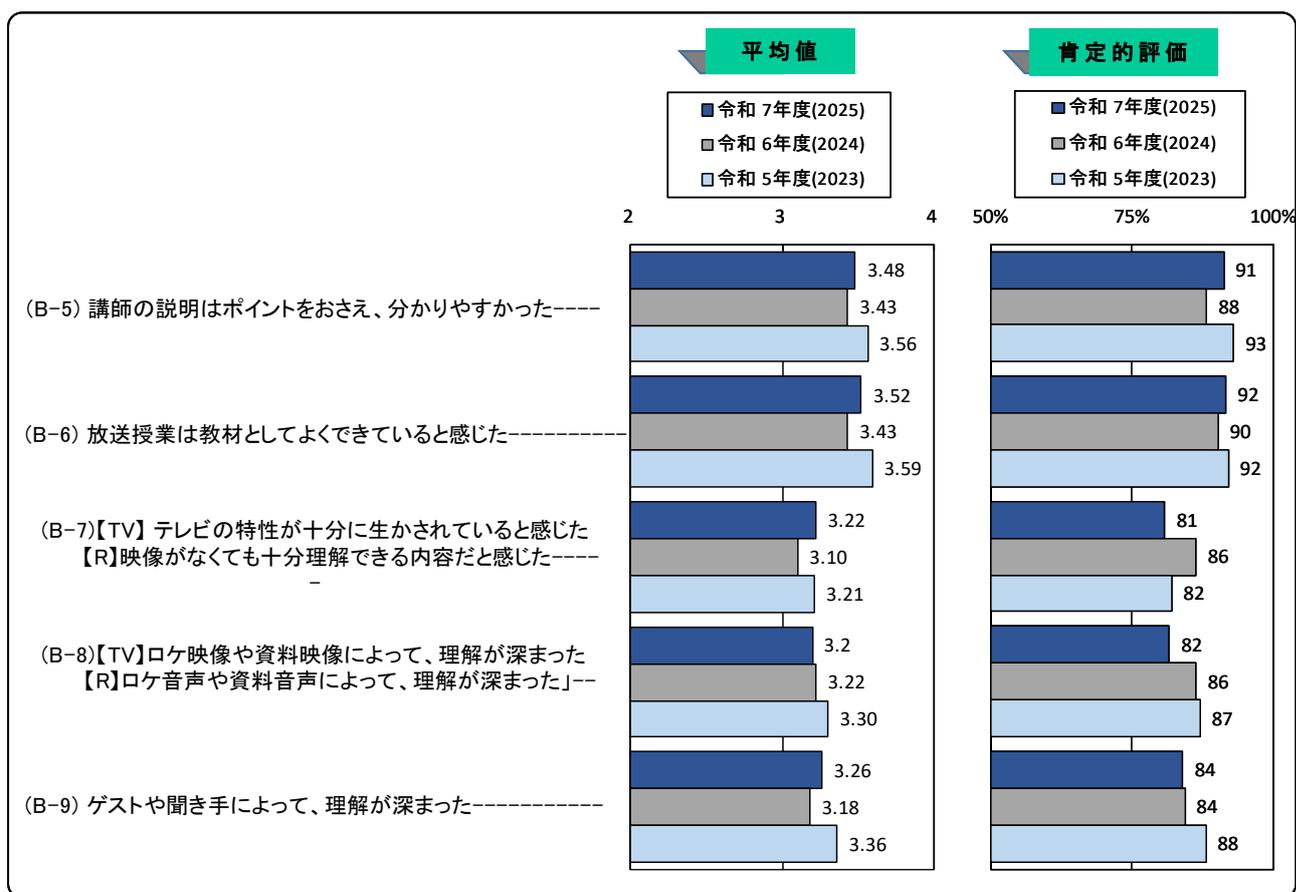
放送授業に関する評価項目を見ると（図2-74）、(B-5)「講師の説明はポイントをおさえ、分かりやすかった」は91%、(B-6)「放送授業は教材としてよくできていると感じた」は92%と評価が高かった一方で、(B-7)「【TV】テレビの特性が十分に生かされていると感じた【R】映像がなくても十分理解できる内容だと感じた」、(B-8)「【TV】ロケ映像や資料映像によって、理解が深まった/【R】ロケ音声や資料音声によって、理解が深まった」、(B-9)「ゲストや聞き手によって、理解が深まった」は81~84%と比較的評価が低かった。

図2-74 【大学院】回答者全体の放送授業の評価



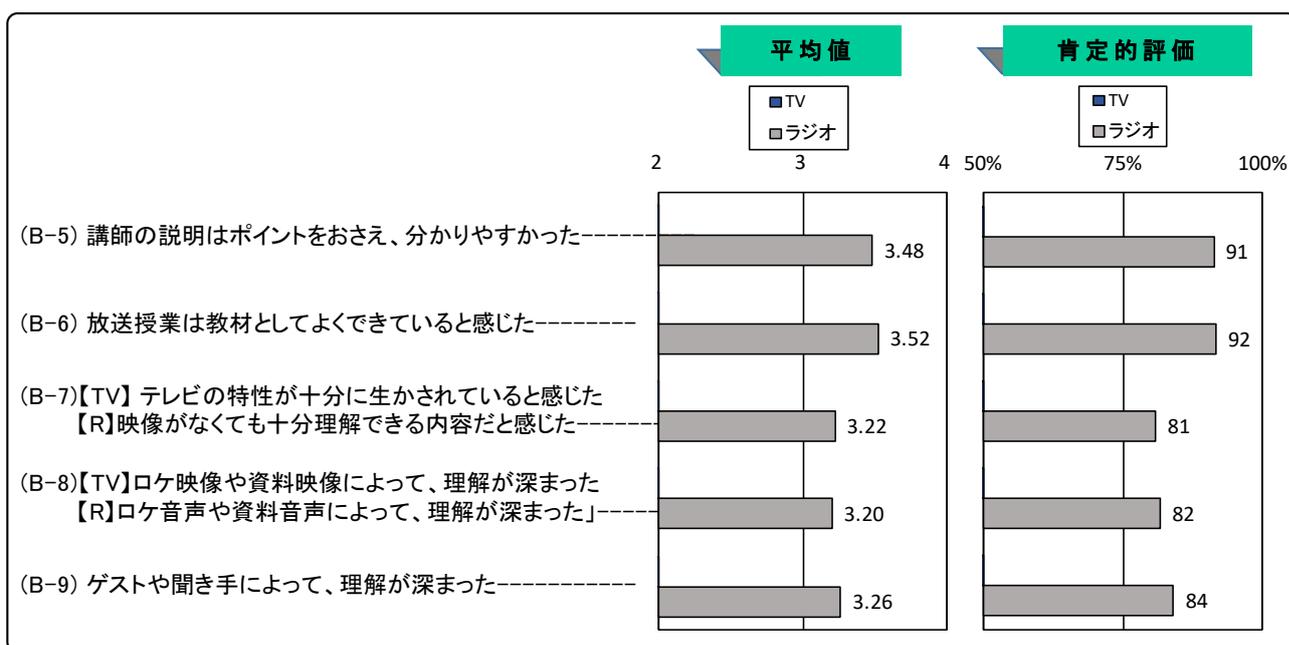
放送授業の評価を時系列で見ると（図2-75）、(B-5)「講師の説明はポイントをおさえ、分かりやすかった」は91%、(B-6)「放送授業は教材としてよくできていると感じた」はそれぞれ昨年度から1~3ポイント増加したものの、(B-7)「【TV】テレビの特性が十分に生かされていると感じた【R】映像がなくても十分理解できる内容だと感じた」は5ポイント、(B-8)「【TV】ロケ映像や資料映像によって、理解が深まった【R】ロケ音声や資料音声によって、理解が深まった」は4ポイント評価が下がった。

図2-75 【大学院】回答者全体の放送授業の評価（時系列）



ラジオ科目の放送授業の肯定的評価を見ると（図2-76）、(B-5)「講師の説明はポイントをおさえ、分かりやすかった」は91%、(B-6)「放送授業は教材としてよくできていると感じた」は92%と評価が高かった一方で、(B-7)「【TV】テレビの特性が十分に生かされていると感じた【R】映像がなくても十分理解できる内容だと感じた」、(B-8)「【TV】ロケ映像や資料映像によって、理解が深まった/【R】ロケ音声や資料音声によって、理解が深まった」、(B-9)「ゲストや聞き手によって、理解が深まった」は81～84%と比較的評価が低かった。

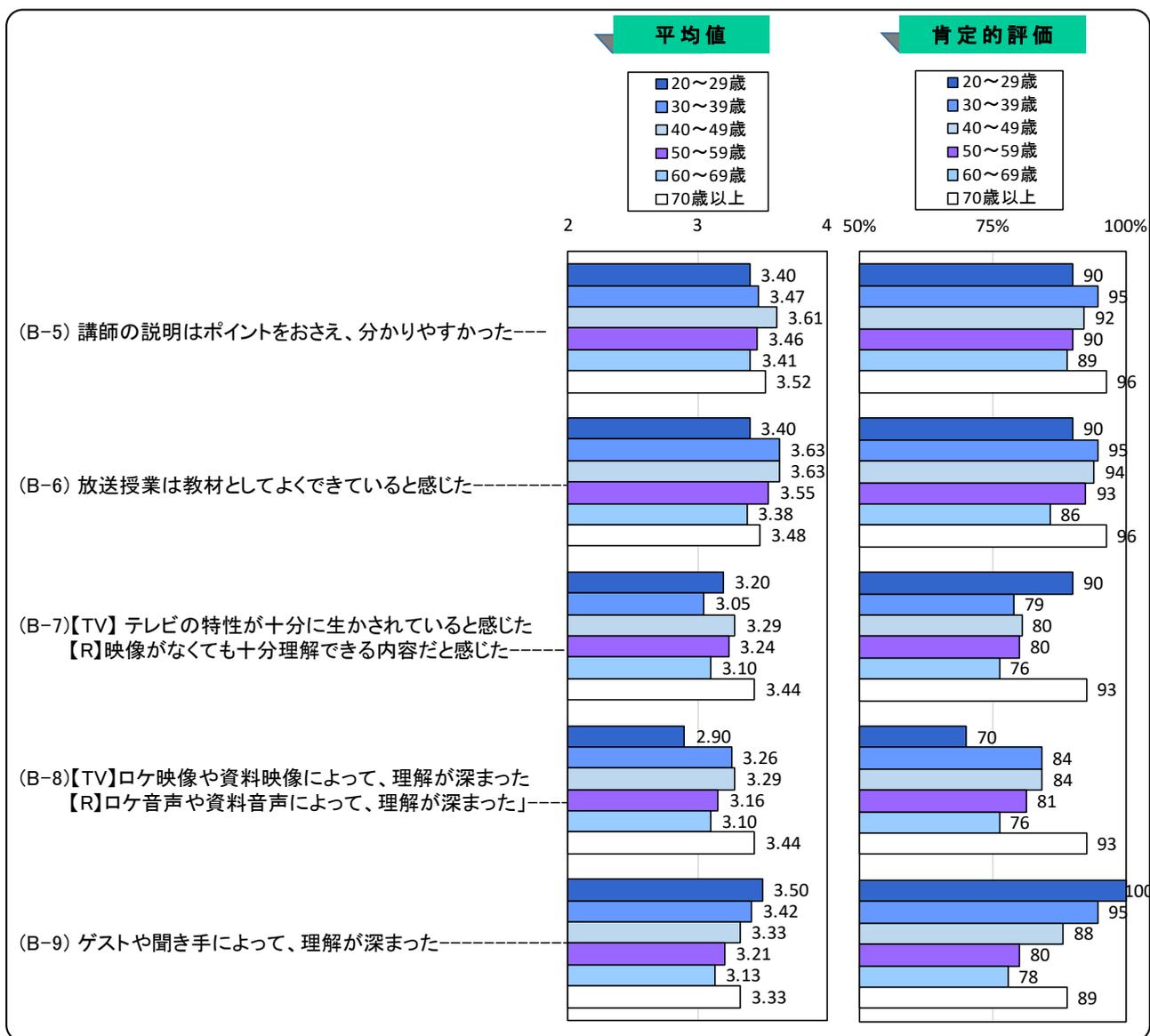
図2-76【大学院】メディア別の放送授業の評価（時系列）



年齢階層別では（図2-77）、(B-9)「ゲストや聞き手によって、理解が深まった」を除く全ての項目で70歳以上の評価が最も高かった。一方で(B-9)「ゲストや聞き手によって、理解が深まった」は20歳代・30歳代の評価が高かった。

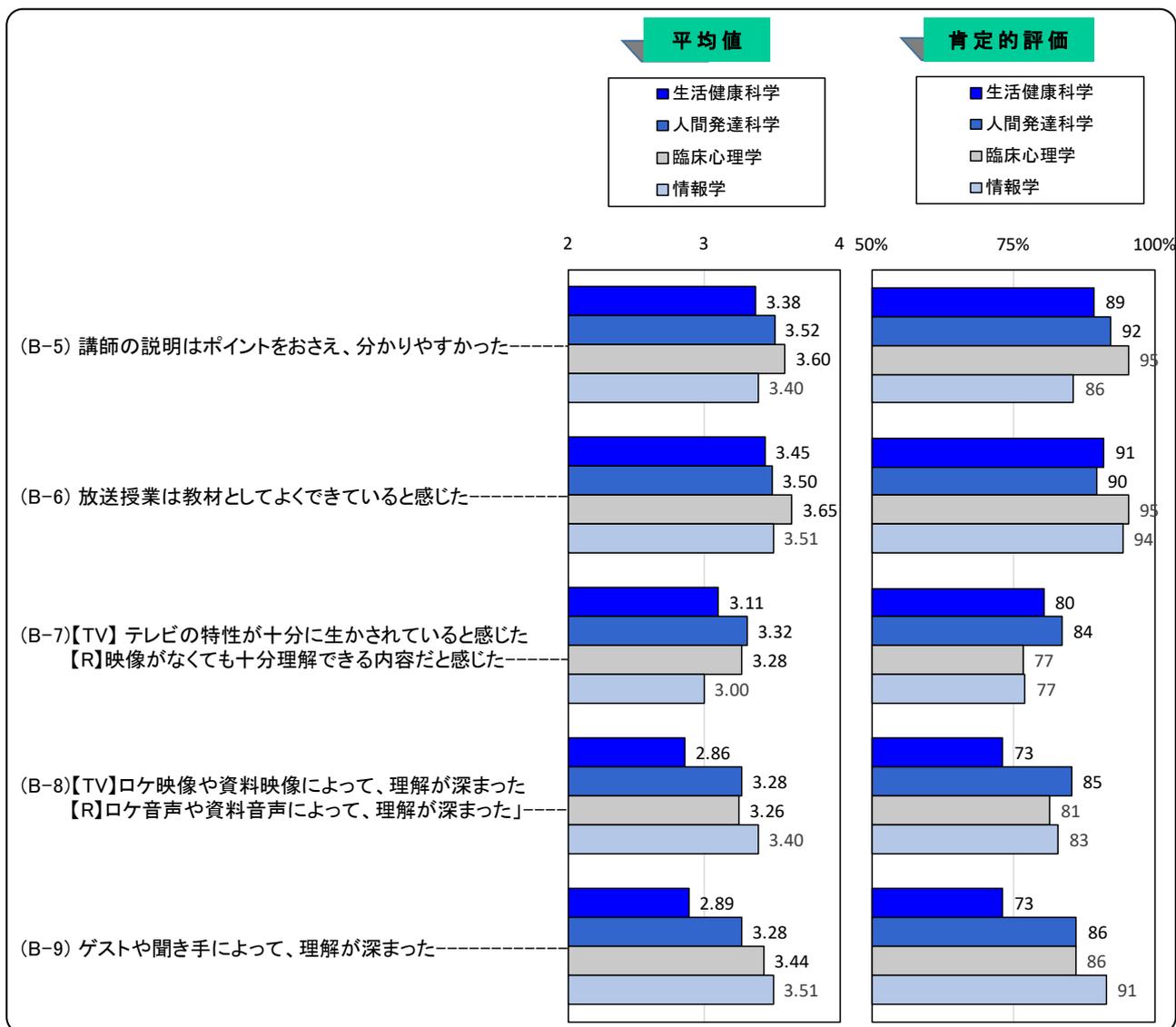
全体的に評価が低かったのは60歳代で、(B-8)「【TV】ロケ映像や資料映像によって、理解が深まった/【R】ロケ音声や資料音声によって、理解が深まった」を除く項目で最も低い評価となっていた。

図2-77【大学院】年齢階層別の放送授業の評価



所属プログラム別では（図 2-78）、(B-5)「講師の説明はポイントをおさえ、分かりやすかった」、(B-6)「放送授業は教材としてよくできていると感じた」は、「臨床心理学」が 95%と最も評価が高かった。一方で、(B-7)「【TV】テレビの特性が十分に生かされていると感じた【R】映像がなくても十分理解できる内容だと感じた」、(B-8)「【TV】ロケ映像や資料映像によって、理解が深まった【R】ロケ音声や資料音声によって、理解が深まった」では「人間発達科学」、(B-9)「ゲストや聞き手によって、理解が深まった」は「情報学」の評価が最も高いなど、プログラムによって評価が高い項目にばらつきが見られた。

図 2-78 【大学院】所属プログラム別の放送授業の評価

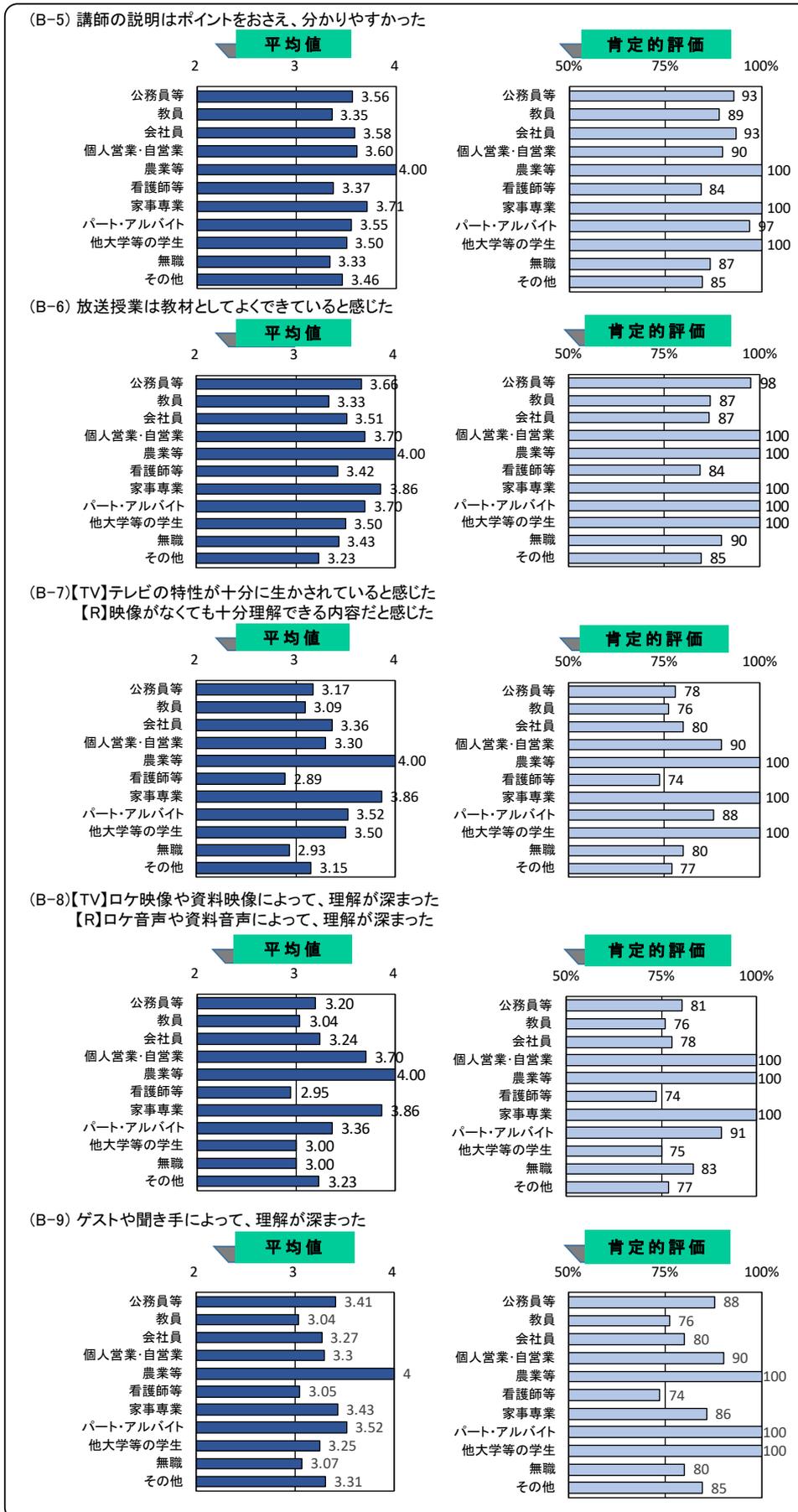


職業別では（次頁図 2 - 7 9）、「個人営業・自営業」「パート・アルバイト」が総じて評価が高かった。

一方で「教員」「看護師等」「その他」は、全項目で総じて低い評価となった。中でも、(B-7)「【TV】テレビの特性が十分に活かされていると感じた【R】映像がなくても十分理解できる内容だと感じた」、(B-8)「【TV】ロケ映像や資料映像によって、理解が深まった【R】ロケ音声や資料音声によって、理解が深まった」、(B-9)「ゲストや聞き手によって、理解が深まった」では、「教員」「看護師等」が全て 70%台となるなど、特に評価が低かった。

※「家事専業」（7 人）「他大学等の学生」（4 人）「農業等」（2 人）は回答者が少人数だった為、誤差が大きく極端な値を取る場合がある為、コメントを割愛した。また、これ以降のページも同様とする。

図2-79【大学院】職業別の放送授業の評価

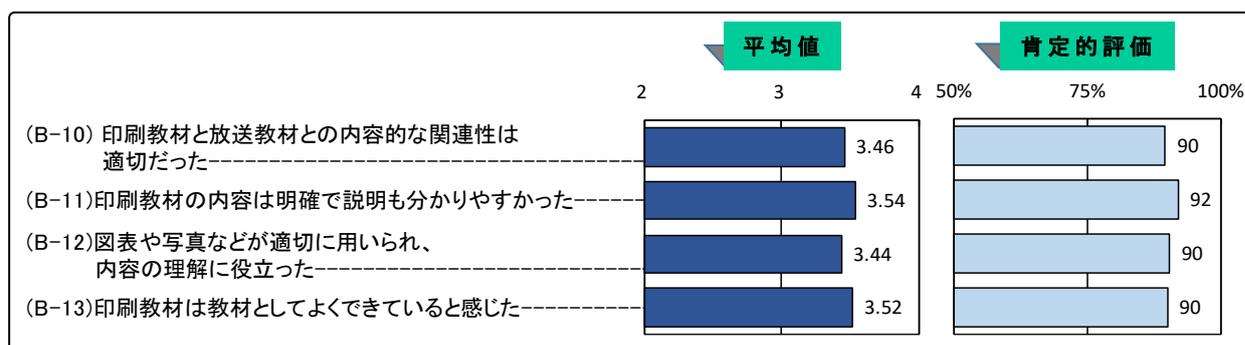


(4) 印刷教材

ここからは印刷教材について、評価項目ごとに見ていく。

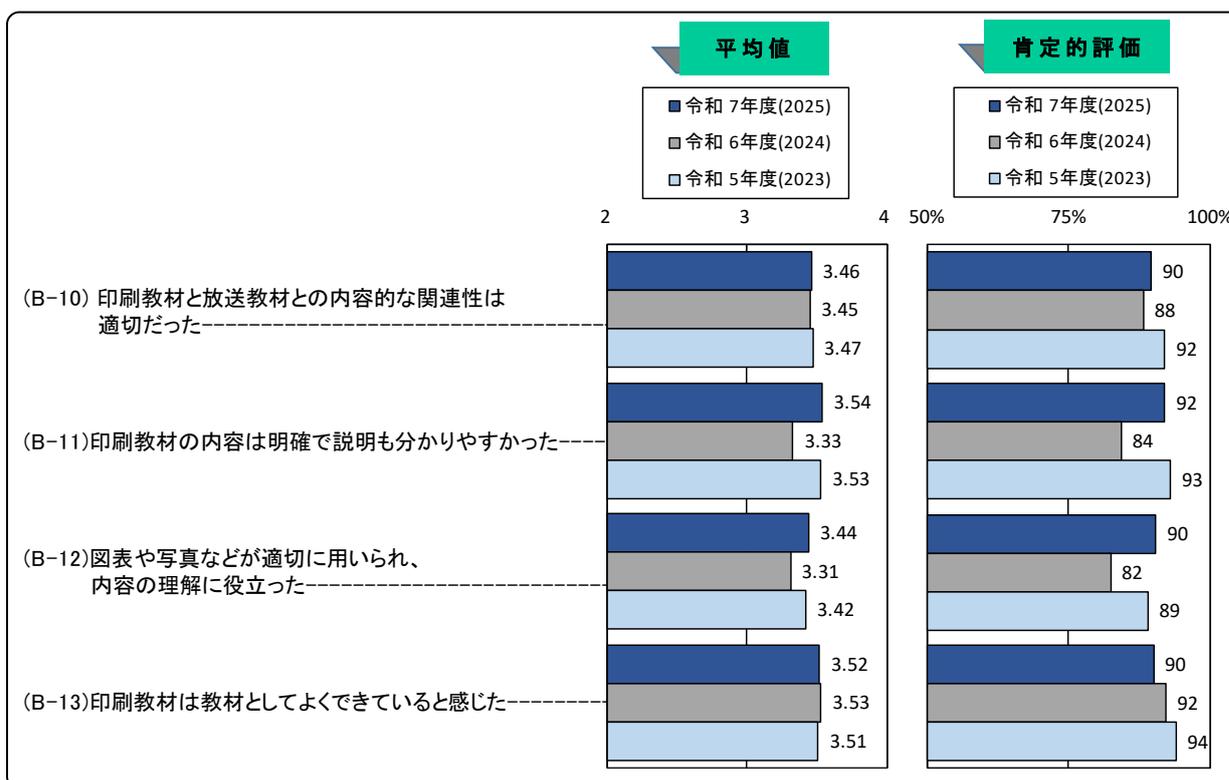
印刷教材の評価項目では（図2-80）、全項目で90%以上と評価が高かった。

図2-80【大学院】回答者全体の印刷教材の評価



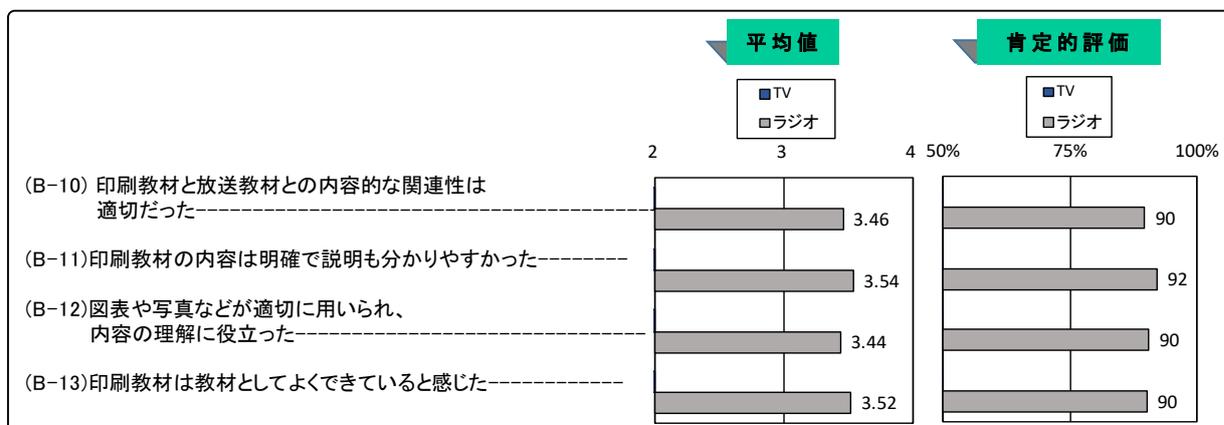
印刷教材の評価を時系列で見ると（図2-81）、本年度は昨年度と比べ(B-11)「印刷教材の内容は明確で説明も分かりやすかった」、(B-12)「図表や写真などが適切に用いられ、内容の理解に役立った」は8ポイント増加。一方で、「(B-13)印刷教材は教材としてよくできていると感じた」は2ポイント減少した。

図2-81 【大学院】回答者全体の印刷教材の評価（時系列）



ラジオ科目は、全体傾向同様、全項目で90%以上と高い評価であった。

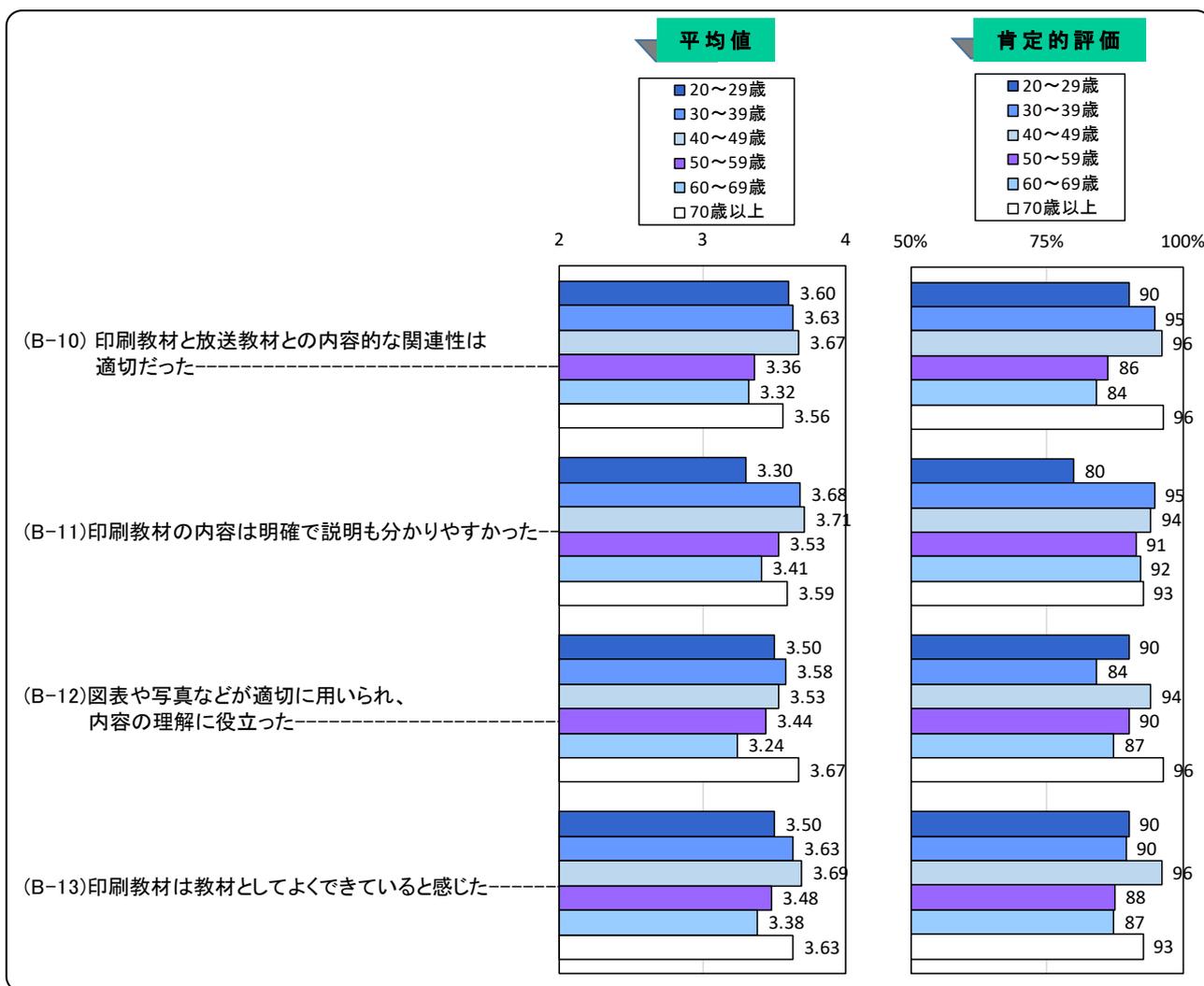
図2-82【大学院】メディア別の印刷教材の評価



年齢階層別の評価（図2-83）では、全ての項目で40歳代、70歳以上の評価が90%以上と高かった。また、(B-10)「印刷教材と放送教材との内容的な関連性は適切だった」、(B-11)「印刷教材の内容は明確で説明も分かりやすかった」では30歳代の評価が高く、特に(B-11)は95%で最も評価が高かった。

全体的に著しく評価の低い項目は見られないものの、(B-10)「印刷教材と放送教材との内容的な関連性は適切だった」は50歳代が86%、60歳代が84%とやや評価が低かった。

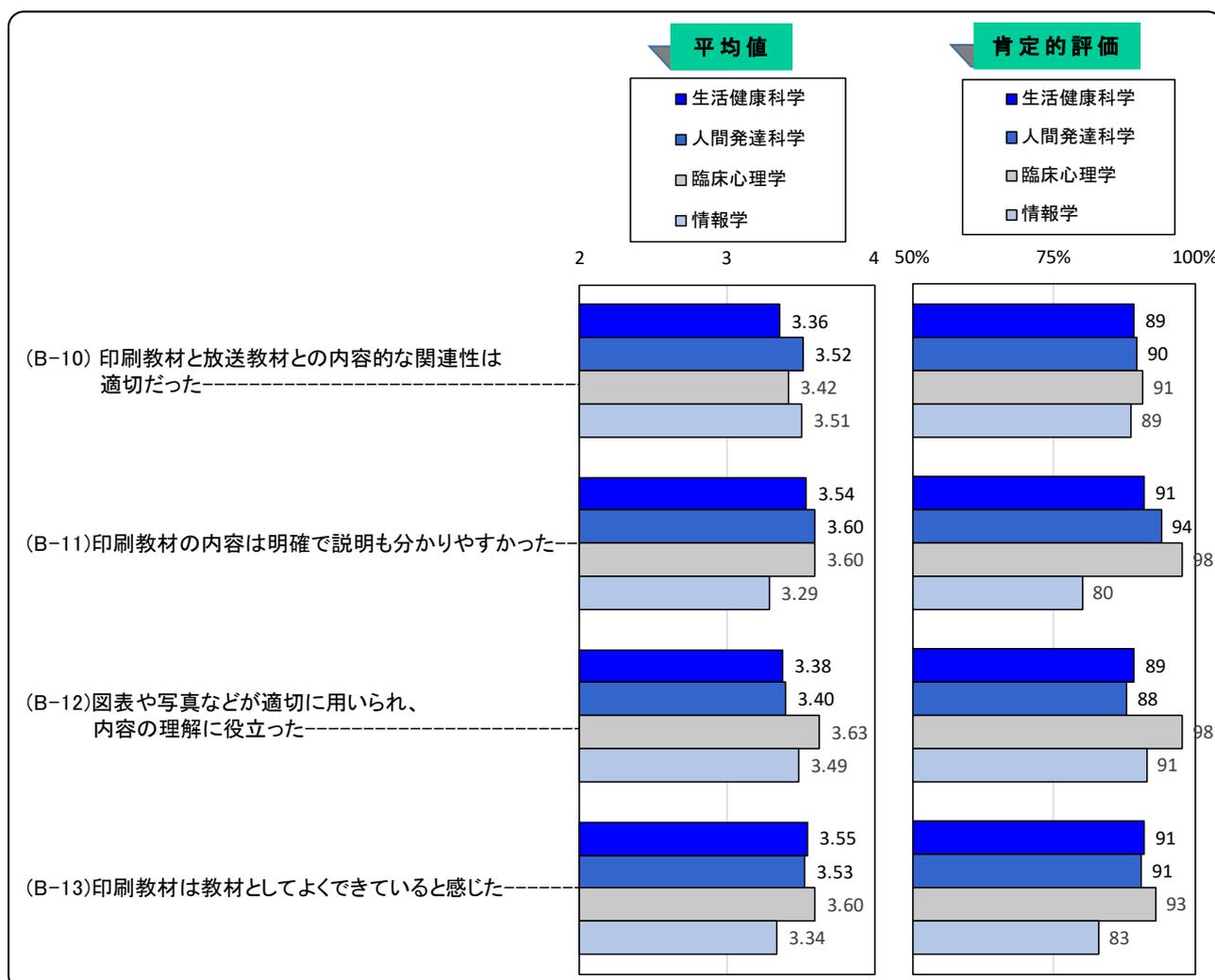
図2-83 【大学院】年齢階層別の印刷教材の評価



所属プログラム別の評価を見ると（図2-84）、全項目で「臨床心理学」の評価が最も高かった。

一方で「情報学」は、(B-12)「図表や写真などが適切に用いられ、内容の理解に役立った」以外の項目で最も低い評価となっており、特に(B-11)「印刷教材の内容は明確で説明も分かりやすかった」は80%と低い評価となった。

図2-84 【大学院】所属プログラム別の印刷教材の評価



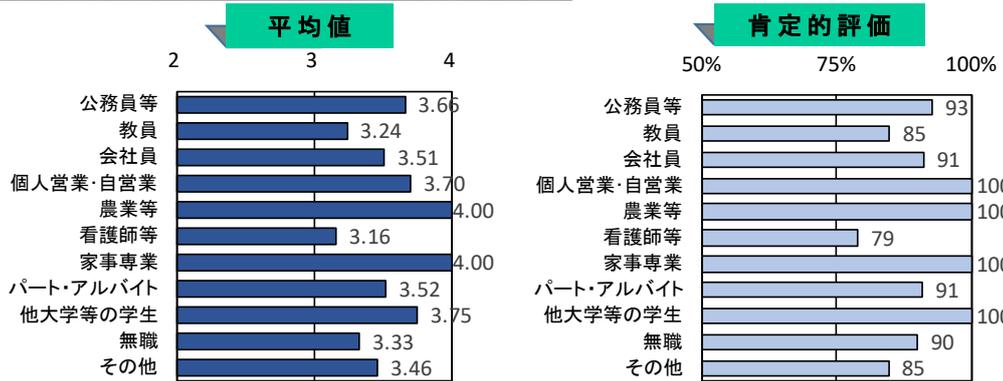
職業別では（次頁図 2 - 8 5）、(B-11)「印刷教材の内容は明確で説明も分かりやすかった」を除いて、「個人営業・自営業」が 100%と評価が高かった。また、「パート・アルバイト」も、(B-12)「図表や写真などが適切に用いられ、内容の理解に役立った」が 100%、他項目も 90%以上と比較的評価が高かった。

一方、「看護師等」は(B-11)「印刷教材の内容は明確で説明も分かりやすかった」を除いて 79～84%、「無職」は(B-10)「印刷教材と放送教材との内容的な関連性は適切だった」を除いて 77～83%と評価が低かった。

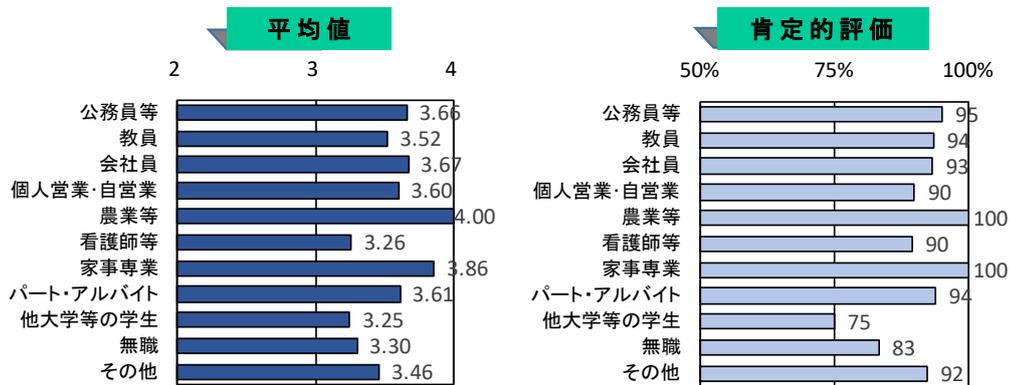
※「家事専業」（7 人）「他大学等の学生」（4 人）「農業等」（2 人）は回答者が少人数だった為、誤差が大きく極端な値を取る場合がある為、コメントを割愛した。また、これ以降のページも同様とする。

図2-85【大学院】職業別の印刷教材の評価

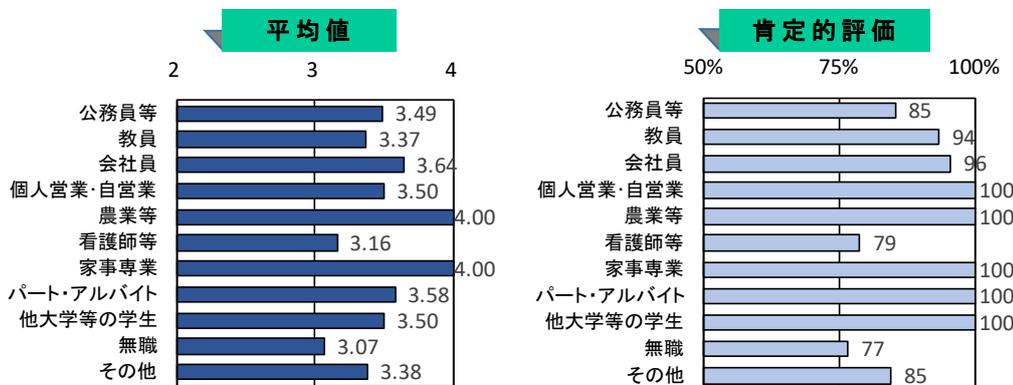
(B-10) 印刷教材と放送教材との内容的な関連性は適切だった



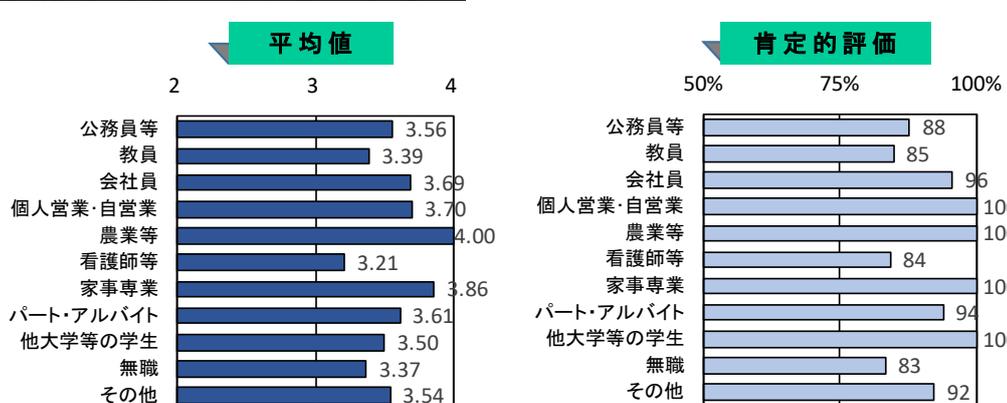
(B-11) 印刷教材の内容は明確で説明も分かりやすかった



(B-12) 図表や写真などが適切に用いられ、内容の理解に役立った



(B-13) 印刷教材は教材としてよくできていると感じた

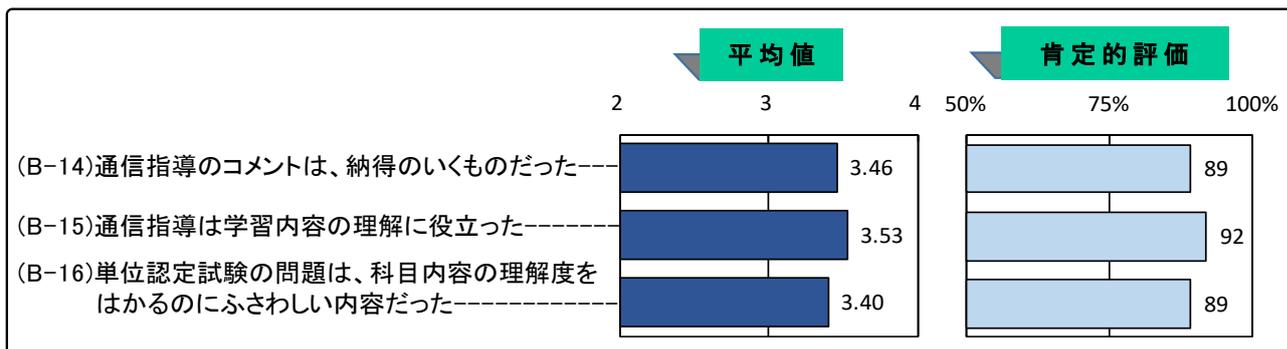


(5) 通信指導・単位認定試験

最後に通信指導・単位認定試験の評価について項目ごとに見ていくことにする。

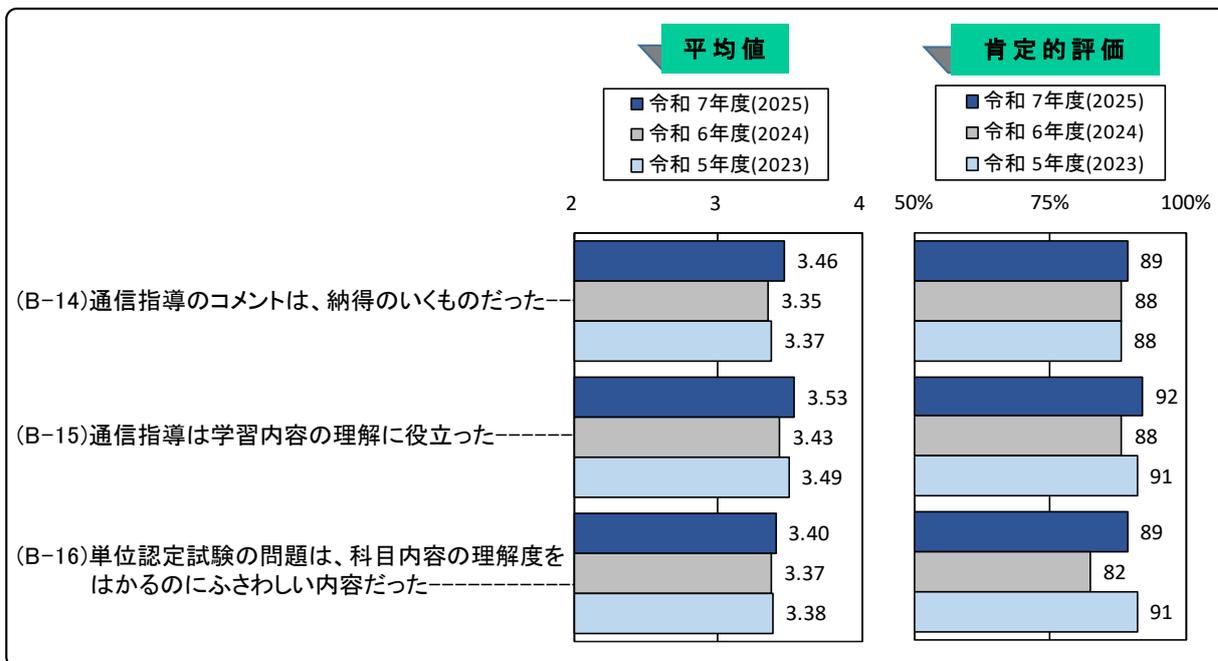
(図2-86)の通信指導については、(B-15)「通信指導は学習内容の理解に役立った」が92%、(B-14)「通信指導のコメントは、納得のいくものだった」、(B-16)「単位認定試験の問題は、科目内容の理解度ををはかるのにふさわしい内容だった」は89%であった。

図2-86【大学院】回答者全体の通信指導・単位認定試験の評価



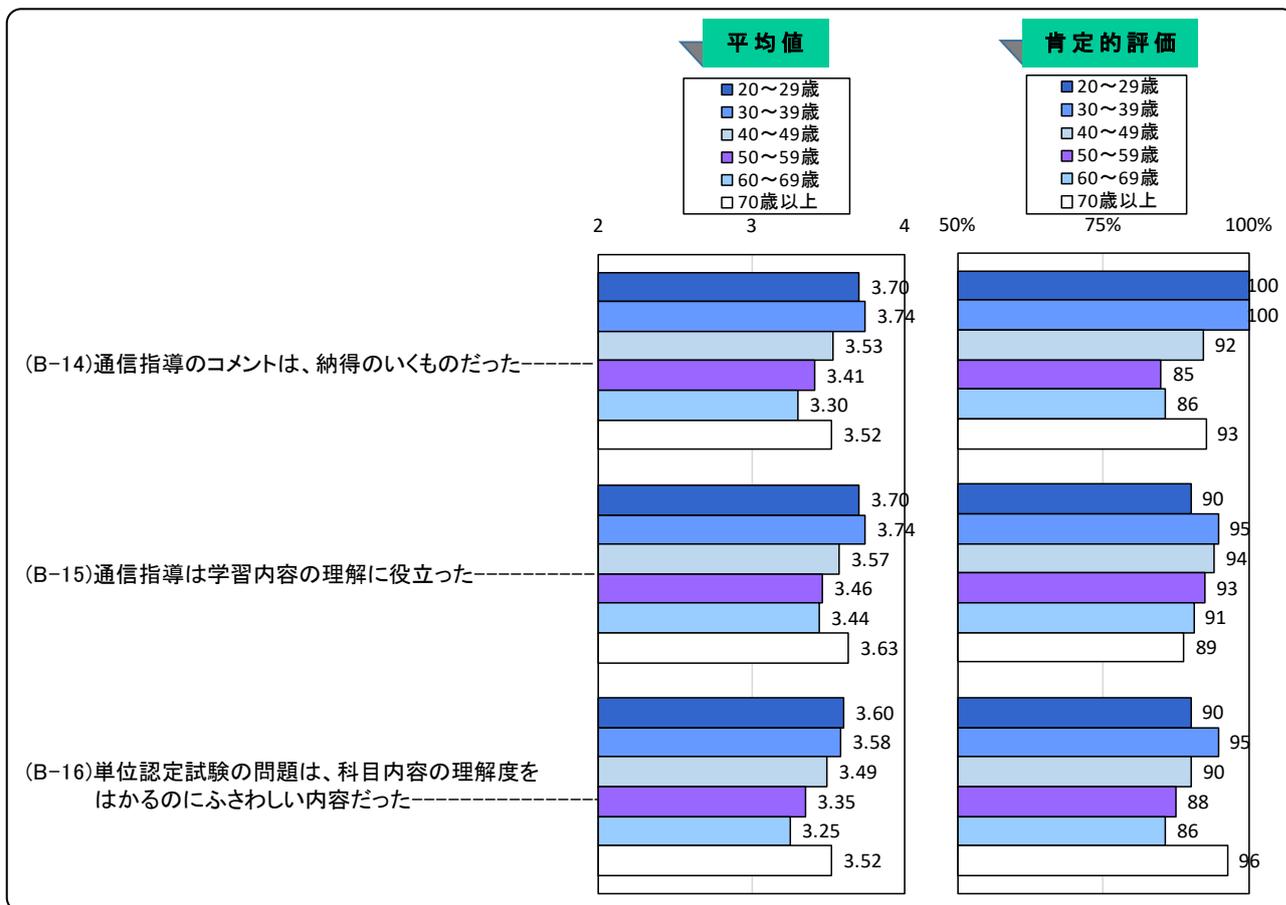
通信指導・単位認定試験の評価を時系列で見ると(図2-87)、今年度は総じて前年度を上回っており、中でも(B-16)「単位認定試験の問題は、科目内容の理解度ををはかるのにふさわしい内容だった」は7ポイント増加した。

図2-87【大学院】回答者全体の通信指導・単位認定試験の評価(時系列)



年齢階層別の評価（図2-88）では、20歳・30歳代・40歳代が全項目で90%以上と高く評価していた。一方で、50歳代・60歳代は(B-14)「通信指導のコメントは、納得のいくものだった」が85～86%、(B-16)「単位認定試験の問題は、科目内容の理解度ををはかるのにふさわしい内容だった」が86～88%と、評価が低かった。

図2-88 【大学院】年齢階層別の通信指導・単位認定試験の評価

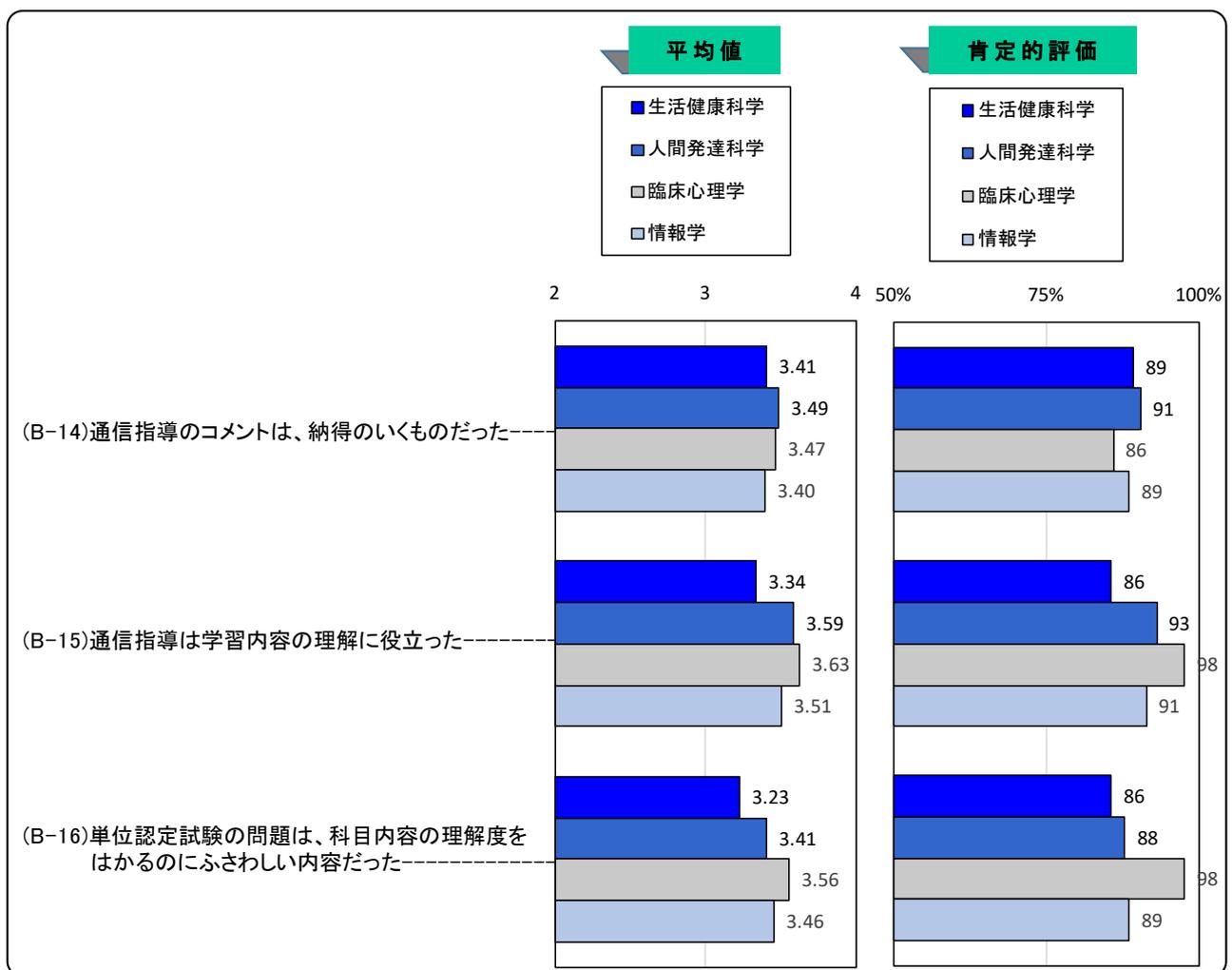


所属プログラム別では（図2-89）、(B-14)「通信指導のコメントは、納得のいくものだった」は「人間発達科学」が91%と最も評価が高かった。

また、(B-15)「通信指導は学習内容の理解に役立った」は、(B-16)「単位認定試験の問題は、科目内容の理解度をはかるのにふさわしい内容だった」は「臨床心理学」が98%と非常に高い評価となっていた。

一方で「生活健康科学」は全項目で80%台と、比較的評価が低かった。

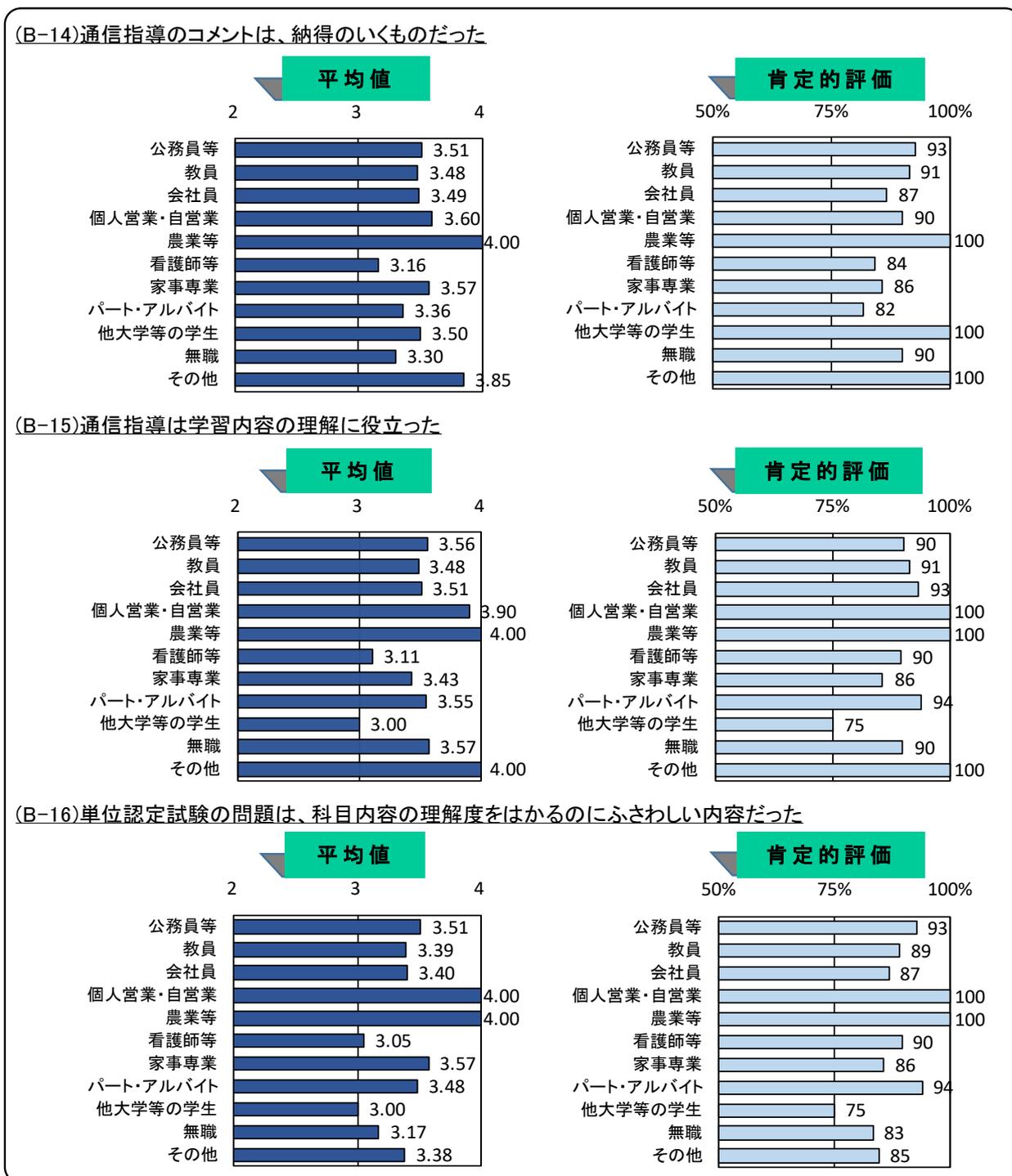
図2-89【大学院】所属プログラム別の通信指導・単位認定試験の評価



職業別では（図2-90）、全項目で「公務員等」「個人営業・自営業」の評価が90%以上と評価が高かった。

一方で、(B-14)「通信指導のコメントは、納得のいくものだった」は、「看護師等」「パート・アルバイト」が82~84%と低かった。

図2-90【大学院】職業別の通信指導・単位認定試験の評価



Ⅱ-2-4. 大学院の重回帰分析

大学院でも学部同様、重回帰分析を試みた。

その重回帰分析とは、数量データである目的変数と説明変数の関係を調べ、重回帰式（モデル式）を導き出す解析手法である。

今回も、全体の満足度（B-21）「この科目の内容には全体として満足している」を目的変数とし、調査票 I.A「授業への取り組み姿勢」を除く B-1～B-20 の各項目を説明変数として分析を試みる。

本調査の選択肢はカテゴリーデータであるが、平均値の算出と同様『あてはまる→4』のように数値をポイント化する事で数量として扱い、重回帰分析を適用する。

最終的には「全体の満足度」に寄与する項目を明らかにすると共に、その影響力の強さを知る事を目的としている。

| 項目名 | 変数 | 対象 |
|------|-------------------|-------------------------|
| 目的変数 | y | 全体の満足度：B-21 |
| 説明変数 | x_1, x_2, \dots | 各項目 B-1～B-20：全 20 問（項目） |
| 係数 | a_1, a_2, \dots | 重回帰分析によって得られる偏回帰係数 |

重回帰式 $y = a_0 + a_1x_1 + a_2x_2 + \dots + a_{20}x_{20}$ （説明変数が全 20 問の場合）

分析には、IBM SPSS Statistics 24 を使用した。変数選択方法は、ステップワイズ法を採用した。変数の選択基準は、F 検定有意確率で、投入 $F \leq .05$ 、除去 $F \geq .10$ とした。VIF はすべて 10 未満で多重共線性がないことを確認したうえで重回帰分析を行った。

使用したデータは質問項目 I.B の全設問を全て回答した 250 人のローデータを使用した。最終的に 13 変数が除去され、7 変数のモデルとなった。結果は以下の通りである。

■分析精度

自由度修正済み決定係数とは、得られた重回帰式が目的変数に対してどれだけ説明力（寄与度）があるかを示す指標で、「1」に近いほど良い結果で、この分析では 0.729 となった。

ダーヴィンワトソン比とは、残差同士の系列相関（自己相関）を示す指標で 0～4 までの値を示し、1 以下や 3 以上だと残差（誤差）に規則性があり、解析自体あるいはデータ自体に問題があり、「2」近辺の値ならよいとされるもので、その値は 1.876 となった。以上の結果から、問題のない結果が得られた事が示されている。

◆分析精度

| | |
|-------------|-------|
| 決定係数 | 0.729 |
| 自由度修正済み決定係数 | 0.721 |
| ダーヴィンワトソン比 | 1.876 |
| 残差の標準偏差 | 0.347 |

今回の重回帰分析は、分散分析表が示すとおり、有意水準 0.01 の判定で、かなりの精度で式の当てはまりの良さが確認できた。

(有意水準とは危険率と同義で 0.01 の場合、判定を誤る確率が 1%である事を表している。)

◆分散分析表

| 変動 | 偏差平方和 | 自由度 | 不偏分散 | 分散比 | p値 | 判定 |
|-----------|---------|-----|-------|--------|-------|------|
| 全体変動 | 111.056 | 249 | | | | |
| 回帰による変動 | 80.988 | 7 | 12 | 93.118 | 0.000 | [**] |
| 回帰からの残差変動 | 30.068 | 242 | 0.124 | | | |

| 凡例 | 有意水準 | 凡例 | 有意水準 |
|------|------|-----|------|
| [**] | 0.01 | [*] | 0.05 |

下表にある標準偏回帰係数とは説明変数の相互比較を可能にするためのもので、各説明変数の目的変数に対する影響力の度合いがこれで分かる。

その結果から「全体の満足度(B-21)」に寄与する項目で、その寄与度が最も高かったのは、B-18「放送授業の内容は適切な分量であった。」(0.299)で、次いで B-19「新しい知識が身につく視野が広がった。」(0.211)、B-1「<授業の難易度・分量>放送授業の難易度は適切だった。」(0.152)と続いていた。今後、「全体の満足度」(本年度の肯定的評価 90.5%)を上げるためには、この3項目に加えて、授業科目案内の充実、科目内容の理解度促進が、肯定的評価を上げるために効果的であると考えられる。

| 目的変数 | 標準変回帰係数 | 説明変数 | 判定 |
|-------------|---------|--------------------------------------|------|
| B-21-全体の満足度 | 0.299 | B-18-学習意欲や興味・関心が高まる授業内容だった。 | [**] |
| | 0.211 | B-19-新しい知識が身につく視野が広がった。 | [**] |
| | 0.152 | B-1-<授業の難易度・分量>放送授業の難易度は適切だった。 | [**] |
| | 0.112 | B-17-<全体評価>授業科目案内はこの科目の内容を知る上で役に立った。 | [*] |
| | 0.110 | B-20-この科目の内容を全体としてよく理解できた。 | [*] |
| | 0.109 | B-11-印刷教材の内容は明確で説明も分かりやすかった。 | [*] |
| | 0.087 | B-12-図表や写真などが適切に用いられ、内容の理解に役立った。 | [*] |
| | | 定数項 | |